

令和2年度

「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

資料編

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

1.地域ごとのネットワーキングイベントの開催

①講演資料

【全会場共通資料(1)アドベンチャートラベルとは】

アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業
北海道アドベンチャートラベル ミーティング

アドベンチャートラベルとは

2020年10月22日(木)
株式会社 北海道宝島旅行社
代表取締役社長 鈴木宏一郎
suzuki@hokkaido-takarajima.com
https://www.facebook.com/kouichiro.suzuki2

Copyright 2020 Hokkaido Treasure Island Tour Inc.

Adventure Travelとは

- アドベンチャートラベル(以下、AT)は、欧米圏で発達した体験型観光の一つであり、欧米を中心に約72兆円の巨大なマーケットがある。
- ATを楽しむ旅行者は通常旅行者の約2倍の消費をされている。
- 北海道にはATを構成する豊かな自然・文化が揃っており、アウトドアガイド、アウトドア用品の購入やレンタル、保険など関連する分野への幅広い波及効果が期待される。

アドベンチャートラベル(AT)とは

Adventure Travel Trade Association(以下、ATTA)によると、
「アクティビティ」、「自然」、「異文化体験」の3要素の内、2つ以上で構成される旅行。

アドベンチャートラベルの経済効果

- アドベンチャートラベルの旅行者は一般の旅行者より、地域への経済効果、地域に還元される旅行消費額が大きいと考えられている。
- アドベンチャートラベルの主な目的は、自分自身の内面からの変化や、視野の拡大。

MARKET IMPACT
GENERATING US\$10,000 IN THE LOCAL ECONOMY TAKES:

- 1 Cruise tourists
- 10 Overnight package tourists
- 1 Adventure traveler

※Based on World Bank(2015) "Economic Impact of Adventure Travel on the Local Economy"

MASS TOURISM 14%
of revenues remain in the country

ADVENTURE 65%
of revenues remain in the country

1.5 local jobs per \$100,000 USD

\$10万で生み出す雇用

2.6 local jobs per \$100,000 USD

※Based on UNWTO(2017) research study comparing mass tourism with adventure tourism in 3000km

Motivations for Adventure Travel

アドベンチャートラベル(AT)の推進(体験型・滞在型観光市場の確立)

ATの特徴

- ATとは?
以下の3つの要素のうち最低2つを含む旅行形態
- 高い顧客単価
観光客の市場価値: 約72兆円
- 長い滞在日数
訪日外国人旅行者の滞在日数の比較

ATがなぜ北海道に向いているか?

- 北海道の豊かな自然と文化
- 欧米圏、ニュージーランドとは異なる魅力的な自然環境
- 一年中アクティビティで安全、インフラが整った
- 豊かな自然の下での多様なアクティビティ
- 多様な文化(アイヌ文化、縄文文化、日本文化)
- 食の選択は非常に幅広く、全ての好み、年代、所得レベルに対応可能 など

2016.11.14 VISIT JAPAN HOKKAIDO セミナー
Mark Brazil 氏による講演の様子

Dr. Mark Brazil

ATWS(Adventure Travel World Summit)

- ATTA(アドベンチャートラベル・トレード協会)が開催する世界最大級のATサミット。
- 開催期間は4~5日程度。
- 旅行会社、宿泊事業者、アウトドアメーカー、観光局・観光協会、メディア、ガイドなど、約60か国から約800名の関係者が参加する。
- エキスポーション、懇親会、商談会、セミナー等が開催される。
- ATWSの開催は、観光地としての日本の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、地域経済を活性化させる「起爆剤」となることが期待される。

Q2019年ヨーロッパ(スウェーデン)の出席状況

Q過去の開催実績

開催年	開催地	参加国数
2005年10月	シアトル/アメリカ合衆国	10
2006年10月	シアトル/アメリカ合衆国	10
2007年10月	ウエスト/カナダ	10
2008年 9月	サンパウロ/ブラジル	10
2008年10月	トロント/ベルギー/ノルウェー	10
2009年10月	ケベック/カナダ	10
2010年10月	アムステルダム/オランダ	10
2011年10月	チアノ/メキシコ	10
2012年10月	ロサンゼルス/アメリカ合衆国	10
2013年10月	ストックホルム/スウェーデン	10
2014年10月	キーン/アイスランド	10
2015年10月	エルバ/イタリア	10
2016年 9月	アムステルダム/オランダ	10
2017年10月	サルツブルグ/オーストリア	10
2018年10月	トスカナ/イタリア	10
2019年 9月	ヨーロパ/スウェーデン	10
2020年10月	オーストラリア/オーストラリア(延期)	10

2021年秋 北海道/日本(内定)

新案1 AT推進(四方よし)

四方よし(観光客よし、観光事業者よし、地域よし、環境よし)

※特にDMOは「四方よし」を実現・マネジメントするために重要な役割を果たす

【全会場共通資料(2)AT商品開発のポイント】

1-1、ATプラン商品開発のポイント 1、ターゲット設定 ～来て欲しい＆来てくれそうな顧客が見えていますか？ ☐ 2、コンセプト(基本的な観点・考え方) ～見せたいコンテンツ、体験全体のコンセプトは明確ですか？ ☐ ～わざわざ来て、体験する価値が十分に語れていますか？ ☐ 3、メインアクティビティ ～コンセプトを体験できるメインアクティビティは何ですか？ ☐ ～メインアクティビティには、“WOWファクター”がありますか？ ☐ 4、ストーリー設定(≒旅程) ～全体像から概要、個別へのストーリー展開はOKですか？ ☐ ～ハイライトのメインアクティビティへつなぐ組み立てはOK？ ☐ ～五感への刺激、インタラクティブな体験の盛り込みはOK？ ☐ 1	1-2、ATプラン商品開発のポイント 5、地域らしさ ～地域の自然や歴史・文化を絡めて盛り上げられていますか？ ☐ ～地域ならではのおもてなし、特別な人との出会い演出はOK？ ☐ 6、アドベンチャートラベルが求める体験価値＋α ～自己変革ができるような問い、学びが提供できていますか？ ☐ ～来訪・体験の価値があるユニークさを提供できていますか？ ☐ ～身体的・心理的な挑戦要素を用意できていますか？ ☐ ～肉体的・精神的に健康になったと感じてもらえますか？ ☐ ～環境や社会への負荷の最小化に努めているか？(プラスチック削減) ☐ ～域内消費や雇用等の地域への経済効果は示せていますか？ ☐ 7、快適さへの配慮 ～トイレやイス、CVS立ち寄り等について配慮できていますか？ ☐ 2																
1-3、ATプラン商品開発のポイント 8、顧客の嗜好やスキル・体力への配慮 ～体験強度や内容についての調整の余地はありますか？ ☐ ～食事の好みや宗教等への対応、調整の用意はありますか？ ☐ 9、悪天候時の対応 ～悪天候時等に対する代替案の用意はありますか？ ☐ 10、体験型観光商品としての整備 ～MIC (Minimum Information for Customers) の整備はできていますか？ ☐ ～保険加入、免責事項の確認書類の整備はできていますか？ ☐ ～事故や災害時の緊急行動計画の整備はできていますか？ ☐ ～ファーストアイドの資格取得、適切な用意はできていますか？ ☐ ～体験に使うギア・ウェアの品質、サイズ揃えはOKですか？ ☐ ～上記全体に対する外国語(必・英語)対応はできていますか？ ☐ 3	2、ATプラン商品販売のポイント 1、催行可能性、催行時期、受入れキャパの確認 ～メインとなる体験の催行可能性はある程度高いですか？ ☐ ～体験を楽しめる時期は一定期間以上用意できますか？ ☐ ～催行頻度×受入れキャパ×値付け等のバランスはOK？ ☐ 2、販売のための体制の構築 ～商品としての完成度、競合対比、値付けのバランスはOK？ ☐ ～商品説明パンフレット、商談用素材がそろっていますか？ ☐ ～WEBサイト・パンフ等での販売(BtoC)はできていますか？ ☐ ～OTAへの登録、販売(BtoC)には取り組んでいますか？ ☐ ～旅行会社、DMO等への情報提供・卸体制整備(BtoB)はOK？ ☐ 3、顧客(BtoC)、販売パートナー(BtoB)とのコミュニケーション ～顧客情報(全行程、旅行目的・背景、価値観・経験、構成員…)の把握はOK？ ☐ ～各顧客に合わせてのサプライズの仕込みはできていますか？ ☐ 4																
PSA 洞爺湖有珠山ジオパーク&黒松内ローランド・アドベンチャー ①-1、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み> <table><tr><th>チェックポイント</th><th>わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！</th></tr><tr><td>1.ターゲット</td><td>ATトラベラー、及び、ATTAの会員となっている、欧米のATトラベラーを顧客として持つ旅行会社。</td></tr><tr><td>2.コンセプト(わざわざ来訪する価値)</td><td>変動する大地(火山)との共生 噴火の姿に驚かされる活火山有珠山と共に生きる人々の暮らしを知る。『火山を通して見えてくる、この土地の人々の自然とのつきあい方』に思いを込める。</td></tr><tr><td>3.コンセプトを体験できるメインアクティビティ</td><td>洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー 洞爺湖有珠山でガイドツアー。有珠山周辺地域において、「変動する大地との共生」をコンセプトに、噴火による地殻変動で倒壊した建物の見学や、繰り返される火山活動により変形する山々の景観、災害と向き合う知恵を今に語り伝える抱い手との交流などを通して、火山と人々の暮らしの近さを体感し、この土地における火山との共生の知恵に触れる。</td></tr><tr><td>4.ストーリー(≒旅程)</td><td>【1日目】ウボボイ見学～民族共生～ 【2日目】洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー(ハイキング)～変動する大地(火山)との共生～ 【3日目】太平洋から日本海へ陸路の旅(サイクリング)～大地の恵み～ 【4日目】森・川・海と人のつながり～朱太リカメー、ブナの里に暮らす人々との交流～</td></tr></table> 5	チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！	1.ターゲット	ATトラベラー、及び、ATTAの会員となっている、欧米のATトラベラーを顧客として持つ旅行会社。	2.コンセプト(わざわざ来訪する価値)	変動する大地(火山)との共生 噴火の姿に驚かされる活火山有珠山と共に生きる人々の暮らしを知る。『火山を通して見えてくる、この土地の人々の自然とのつきあい方』に思いを込める。	3.コンセプトを体験できるメインアクティビティ	洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー 洞爺湖有珠山でガイドツアー。有珠山周辺地域において、「変動する大地との共生」をコンセプトに、噴火による地殻変動で倒壊した建物の見学や、繰り返される火山活動により変形する山々の景観、災害と向き合う知恵を今に語り伝える抱い手との交流などを通して、火山と人々の暮らしの近さを体感し、この土地における火山との共生の知恵に触れる。	4.ストーリー(≒旅程)	【1日目】ウボボイ見学～民族共生～ 【2日目】洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー(ハイキング)～変動する大地(火山)との共生～ 【3日目】太平洋から日本海へ陸路の旅(サイクリング)～大地の恵み～ 【4日目】森・川・海と人のつながり～朱太リカメー、ブナの里に暮らす人々との交流～	PSA 洞爺湖有珠山ジオパーク&黒松内ローランド・アドベンチャー ①-2、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み> <table><tr><th>チェックポイント</th><th>わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！</th></tr><tr><td>5.地域らしさ</td><td>事なる観光地巡りではなく、地域の多様な人達との交流を行程に織り交ぜることによって、より地域理解が深まるツアー設計としている。 ・洞爺湖有珠山ジオパークでの、地元ガイドによるハイキングツアー ・アイヌ語で「カムイチャシ」(神の国)と呼ばれる洞爺湖で静かなる静寂地をサイクリング。 ・多様な生物を育む黒松内(朱太川)をカヌーで降り、岩と海の戯れを体感する。 ・有珠火山や朱太川が育んだ地域食文化や食文化に挑戦。</td></tr><tr><td>6.AT要素の盛り込み</td><td>・自己変革→洞爺湖有珠山ジオパークの土地の成り立ちの説明及び、実際にガイドツアーを通しての活火山との共生や大地の恵みを感じることによって、参加者にとって「変動する大地との共生」という視点でそれぞれの人生や生き方を振り返って、抱いた教訓を共有してもらう。 ・ユニークさ→洞爺湖有珠山ジオパークの特長の一つである、火山と人々の暮らしの近さを、ガイドからのストーリーテリングや、三松正志記念館での見学、噴火口へ近づくことができる展望台からの眺めなどを通して感じて頂く。 ・体験の要素→ガイドツアーの北海道の先住民文化であるアイヌ文化(体験者にとっての異文化)とのふれあいや食体験、太平洋から日本海を目指す程度バードサイクリングでの身体的挑戦要素などを盛り込んでいる。 ・健康維持→一泊二日におこなった適切な体力レベルの身体的アクティビティを盛り込むことで、参加者の健康維持を図る。 ・環境配慮→マイボトル持参を促す事前案内や、ツアー中は、移動車にリサイクル用の水タンクを積み、アウシュン川に貯める。また、サイクリングでの移動を盛り込むことによって、環境負荷の低減を図る。 ・地域貢献→地元資本の飲食店や宿泊施設に滞在し、地域経済への貢献を図る。</td></tr></table> 6	チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！	5.地域らしさ	事なる観光地巡りではなく、地域の多様な人達との交流を行程に織り交ぜることによって、より地域理解が深まるツアー設計としている。 ・洞爺湖有珠山ジオパークでの、地元ガイドによるハイキングツアー ・アイヌ語で「カムイチャシ」(神の国)と呼ばれる洞爺湖で静かなる静寂地をサイクリング。 ・多様な生物を育む黒松内(朱太川)をカヌーで降り、岩と海の戯れを体感する。 ・有珠火山や朱太川が育んだ地域食文化や食文化に挑戦。	6.AT要素の盛り込み	・自己変革→洞爺湖有珠山ジオパークの土地の成り立ちの説明及び、実際にガイドツアーを通しての活火山との共生や大地の恵みを感じることによって、参加者にとって「変動する大地との共生」という視点でそれぞれの人生や生き方を振り返って、抱いた教訓を共有してもらう。 ・ユニークさ→洞爺湖有珠山ジオパークの特長の一つである、火山と人々の暮らしの近さを、ガイドからのストーリーテリングや、三松正志記念館での見学、噴火口へ近づくことができる展望台からの眺めなどを通して感じて頂く。 ・体験の要素→ガイドツアーの北海道の先住民文化であるアイヌ文化(体験者にとっての異文化)とのふれあいや食体験、太平洋から日本海を目指す程度バードサイクリングでの身体的挑戦要素などを盛り込んでいる。 ・健康維持→一泊二日におこなった適切な体力レベルの身体的アクティビティを盛り込むことで、参加者の健康維持を図る。 ・環境配慮→マイボトル持参を促す事前案内や、ツアー中は、移動車にリサイクル用の水タンクを積み、アウシュン川に貯める。また、サイクリングでの移動を盛り込むことによって、環境負荷の低減を図る。 ・地域貢献→地元資本の飲食店や宿泊施設に滞在し、地域経済への貢献を図る。
チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！																
1.ターゲット	ATトラベラー、及び、ATTAの会員となっている、欧米のATトラベラーを顧客として持つ旅行会社。																
2.コンセプト(わざわざ来訪する価値)	変動する大地(火山)との共生 噴火の姿に驚かされる活火山有珠山と共に生きる人々の暮らしを知る。『火山を通して見えてくる、この土地の人々の自然とのつきあい方』に思いを込める。																
3.コンセプトを体験できるメインアクティビティ	洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー 洞爺湖有珠山でガイドツアー。有珠山周辺地域において、「変動する大地との共生」をコンセプトに、噴火による地殻変動で倒壊した建物の見学や、繰り返される火山活動により変形する山々の景観、災害と向き合う知恵を今に語り伝える抱い手との交流などを通して、火山と人々の暮らしの近さを体感し、この土地における火山との共生の知恵に触れる。																
4.ストーリー(≒旅程)	【1日目】ウボボイ見学～民族共生～ 【2日目】洞爺湖有珠山ジオパークガイドツアー(ハイキング)～変動する大地(火山)との共生～ 【3日目】太平洋から日本海へ陸路の旅(サイクリング)～大地の恵み～ 【4日目】森・川・海と人のつながり～朱太リカメー、ブナの里に暮らす人々との交流～																
チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシンプルワードで説明してください！																
5.地域らしさ	事なる観光地巡りではなく、地域の多様な人達との交流を行程に織り交ぜることによって、より地域理解が深まるツアー設計としている。 ・洞爺湖有珠山ジオパークでの、地元ガイドによるハイキングツアー ・アイヌ語で「カムイチャシ」(神の国)と呼ばれる洞爺湖で静かなる静寂地をサイクリング。 ・多様な生物を育む黒松内(朱太川)をカヌーで降り、岩と海の戯れを体感する。 ・有珠火山や朱太川が育んだ地域食文化や食文化に挑戦。																
6.AT要素の盛り込み	・自己変革→洞爺湖有珠山ジオパークの土地の成り立ちの説明及び、実際にガイドツアーを通しての活火山との共生や大地の恵みを感じることによって、参加者にとって「変動する大地との共生」という視点でそれぞれの人生や生き方を振り返って、抱いた教訓を共有してもらう。 ・ユニークさ→洞爺湖有珠山ジオパークの特長の一つである、火山と人々の暮らしの近さを、ガイドからのストーリーテリングや、三松正志記念館での見学、噴火口へ近づくことができる展望台からの眺めなどを通して感じて頂く。 ・体験の要素→ガイドツアーの北海道の先住民文化であるアイヌ文化(体験者にとっての異文化)とのふれあいや食体験、太平洋から日本海を目指す程度バードサイクリングでの身体的挑戦要素などを盛り込んでいる。 ・健康維持→一泊二日におこなった適切な体力レベルの身体的アクティビティを盛り込むことで、参加者の健康維持を図る。 ・環境配慮→マイボトル持参を促す事前案内や、ツアー中は、移動車にリサイクル用の水タンクを積み、アウシュン川に貯める。また、サイクリングでの移動を盛り込むことによって、環境負荷の低減を図る。 ・地域貢献→地元資本の飲食店や宿泊施設に滞在し、地域経済への貢献を図る。																

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

PSA 大雪山周遊 ～ガイド付き登山ツアー～6日間～

②-1、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
1.ターゲット	AT: ラベラー、及び、ATAの会員となっている、欧米のAT: ラベラーを顧客として持つ旅行会社。
2.コンセプト (わざわざ 表現する価値)	大雪山国立公園のさまざまな表情を体験できる 日本最大の国立公園・大雪山国立公園の中心である「カムイミタウー」神々の遊ぶ庭―大雪山のもつ、さまざまな自然環境と、そこに共生してきた人々の暮らしに触れることができる登山ツアー。
3.コンセプトを 表現できる メインアクティビティ	大雪山国立公園でトレッキング 大雪山国立公園は1934年に日本で初めて国立公園として指定された8公園のひとつで、日本一の広さを誇り、連内最高峰の旭岳は別荘「北海道の屋根」と呼ばれている。その巨大な大雪山を周遊しながら、活火山から静寂な高層湿原、紅毛樹園が広がる「カルデラ」域を縦横に駆け巡る自然環境のなかで、雪山やツラツラにチャレンジします。大雪山国立公園を知り尽くし、心行くまで遊び尽くすアドベンチャーツアー。
4.ストーリー (=旅程)	[1日目] 川村カネアイ記念館―地元アイダが信仰を結ぶきた大雪山を歩かためのイントロダクション [2日目] 旭岳―黒岳縦走―カルデラを半周し、ます大雪山の壮大さを体験する [3日目] 石狩川ワイルドゲートアイダの人々が今も宗義式を行う地で、経路管理を頼みながら [4日目] 高層沼めぐり―アイダが「カムイミタウー」と呼ぶヒグマの生息地を歩く [5日目] 白雲山登山―カルデラへ渓谷―高層湿原―湖と大雪山の多様性を一気に楽しむ [6日目] そば打ち体験―ツアーのフィナーレは、ゴール地の十勝の開拓に欠かせないそばを自分で打って味わう
① 序章→ ② 展開部→ ③ ④ ⑤ ⑥ 終章	

PSA 大雪山周遊 ～ガイド付き登山ツアー～6日間～

②-2、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
5.地域らしさ	・北海道の先住民であるアイタに出会い、価値観の変化をもたらす旅 ・日本最大の国立公園「大雪山国立公園」で専横に駆け巡る登山 ・層雲峡の山脈をまたぐ石狩川でチャレンジングなツラツラ ・ヒグマが住む大雪山周遊の高山小川域を縦横するユニークな体験 ・自然環境と温泉で遊ぶ温泉地 ・そば打ち体験を通して日本の食文化を学ぶ
6.AT要素の 盛り込み	・自己変革―北海道の先住民であるアイタとの異文化体験を伴う登山により、価値観の変化をもたらす。 ・ユニークさ―大雪山国立公園を周遊し、登山という手段である登山を楽しむことができる。特に高層沼では、ヒグマが生息するエリアを歩くという特別な体験ができる。さらに、北海道の先住民アイタ文化(特に上川アイタ)や、食文化、温泉文化、北海道の開拓の歴史に触れることができるコンテントを盛り込んでいる。 ・挑戦的要素―6日中3日が登山であり、かつ1日は約8時間の縦走というチャレンジングなコース。北海道の先住民文化であるアイタ文化(先住民としての異文化)とのふれあいや、野山入浴体験も挑戦的要素となる。 ・健康価値―天然温泉の入浴と、設定レベルにあわせた適切な体力レベルの身体的アクティビティを盛り込むことで、参加者の健康価値を高める。 ・環境配慮―マイボトル持参を促す事前案内や、移動中に水タンクを積み重ね、プラスチック削減に努める。 ・地域貢献―地元資本の飲食店や宿泊施設に滞在し、地域経済への貢献を図る。
① 自己変革 ② ユニークさ ③ 挑戦的要素 ④ 健康価値 ⑤ 環境配慮	

PSA 「地の果て・シリエトク(知床)」を目指すサイクリングツアー4泊5日

③-1、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
1.ターゲット	AT: ラベラー、及び、ATAの会員となっている、欧米のAT: ラベラーを顧客として持つ旅行会社。
2.コンセプト (わざわざ 表現する価値)	CO2の排出が少ないアクティビティで流氷の南限を巡る 流氷をめぐりながら自然環境と共生することによって地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出が少ないアクティビティで移動することの意義を伝える。
3.コンセプトを 表現できる メインアクティビティ	「地の果て・シリエトク(知床)」を目指すサイクリング 北海道の北東部である知床国立公園を目指すサイクリングツアー。地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出が少ないアクティビティで移動し、地球温暖化の影響を受ける流氷と、さらにその影響を受ける漁業について知ることで自らの行動について振り返る。また、地域をサイクリングで巡ることで、砂浜・丘陵地帯から山岳地帯への変化、人里から野生生物の生息地への環境の変化を直に体験することができる。
4.ストーリー (=旅程)	[1日目] 北方民話博物館～流氷でつながる世界～ [2日目] 網走湖がヤクク～渡り鳥でつながる世界～ [3日目] 網走から世界遺産へサイクリング～人里から自然へ～ [4日目] 網走から世界遺産へサイクリング～人里から自然へ～
① 序章→ ② 展開部→ ③ ④ 終章	

PSA 「地の果て・シリエトク(知床)」を目指すサイクリングツアー4泊5日

③-2、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
5.地域らしさ	・事なる観光地ではなく、地域の多様な人達との交流を行程に織り交ぜることで、より地域理解が深まるツアー設計にしている。 ・アクティビティを体験する場所である網走国立公園及び知床国立公園の理解が促進されるよう、それぞれのエリアに入る際はその地域の情報から入るようツアーを設計。 ・地域の主要なテーマである北方圏と流氷についての理解が深められるよう、1日目に「北方民話博物館」へ立ち寄り、ツアー一環を説明。 ・アクティビティの最中目にする種や道での産物が実際に口にできるように量産の提供や、農家のふれあいやなどを設定。 ・地域の農家や漁家などが参加している農家・漁家・団体のカフェ・施設やガイドと協力しておもてなし。 ・立ち寄りながらの観光(バーの森王)には有償で協力した。 ・最終日のランチはフードマイレージゼロの地元の食材をできるだけ活用した農産物協会の人が作る食事にて。
6.AT要素の 盛り込み	・自己変革―地球温暖化の影響を受ける流氷や漁業について関心を持って。 ・ユニークさ―サイクリングでの移動中に多様な変化を体験する環境や場所を体験できる。 ・挑戦的要素―142km(1日70km程度)にもおよぶサイクリング ・健康価値―社会生活のストレスが解消されることで、精神的な健康や、体の健康、心の健康、さらには、環境価値―マイボトル持参を促す事前案内や、ツアー中は、移動中にプラスチックの水タンクを積み重ね、プラスチック削減に努める。また、サイクリングでの移動を盛り込むことによって、環境負荷の低減を図る。 ・地域貢献―地元の事業者が活躍する協議会を協賛してアクティビティを実施する。
① 自己変革 ② ユニークさ ③ 挑戦的要素 ④ 健康価値 ⑤ 環境配慮	

PSA 阿寒摩周国立公園ボルケーノ・トレイル4泊5日

④-1、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
1.ターゲット	AT: ラベラー、及び、ATAの会員となっている、欧米のAT: ラベラーを顧客として持つ旅行会社。
2.コンセプト (わざわざ 表現する価値)	火山(カルデラ)と人の共生 世界有数の火山大国である日本の火山について身近に感じる旅
3.コンセプトを 表現できる メインアクティビティ	阿寒摩周国立公園ボルケーノ・トレイル 世界有数の火山大国・日本において最大級のサイズである2つのカルデラ地帯(屈斜路、阿寒)を体験し、そこで生息する環境と触れ合うツアー。常に水蒸気が上がり硫黄が噴出した硫黄山、世界で唯一陸上に露出している二酸化炭素、そして真っ赤な硫黄湖を歩くと、この地で生まれた温泉観光地や硫黄湖温泉などを巡り、最後はその土地の味と豊かさを食べた乳製品で旅の最後を締めくく。
4.ストーリー (=旅程)	[1日目] 川村カネアイ記念館―地元アイダが信仰を結ぶきた大雪山を歩かためのイントロダクション [2日目] 川村カネアイ記念館―地元のアイダが信仰を結ぶきた大雪山を歩かためのイントロダクション [3日目] 阿寒摩周国立公園の森と火山を感じる～森と火山の歴史～ [4日目] 阿寒摩周国立公園の森と火山を感じる～森と火山の歴史～
① 序章→ ② 展開部→ ③ ④ 終章	

PSA 阿寒摩周国立公園ボルケーノ・トレイル4泊5日

④-2、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>

チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナリオで説明してください！
5.地域らしさ	・阿寒摩周国立公園を構成する屈斜路カルデラの溶岩ドーム部分である硫黄山と、阿寒カルデラの主峰の屈阿寒岳をめぐりながら産物(温泉、林業、酪農)や産物(硫黄山)を巡り、その後、地元の人々と触れ合うことにより、火山と共生してきた人々の暮らしについて体験できるツアーとしている。
6.AT要素の 盛り込み	・自己変革―地球温暖化の影響を受ける流氷や漁業について関心を持って。 ・ユニークさ―硫黄山に上る多様な活火山を登るユニークな体験・挑戦的要素―7時間以上、活火山・屈阿寒岳登山にチャレンジ ・健康価値―社会生活のストレスが解消されることで、精神的な健康や、体の健康、心の健康、さらには、環境価値―マイボトル持参を促す事前案内や、ツアー中は、移動中にプラスチックの水タンクを積み重ね、プラスチック削減に努める。入山認定されたガイドのみが火山入山可能な硫黄山に登る。 ・地域貢献―地域の農家に生産した産物のものを(温泉、林業、酪農)を体験する。
① 自己変革 ② ユニークさ ③ 挑戦的要素 ④ 健康価値 ⑤ 環境配慮	

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

PSA 火山が造った箱庭・大沼カヌーツーリング ～カヌー&農山漁村交流4日間～	
 ⑤-1、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>	
チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナフルワードで説明してください！
1.ターゲット	ATトラベラー、及び、ATTIAの会員となっている、欧米のATトラベラーを顧客として持つ旅行会社。
2.コンセプト (なぜか 来訪する価値)	火山が造った箱庭 駒ヶ岳の大噴火によって現在の希少な地形ができた大沼エリア。火山が造った自然に触れ、自然の美しさと地域の歴史が育んだ「食」を満喫する。
3.コンセプトを 体験できる メインアクティビティ	大沼カヌーツーリング 大沼から小沼へと湖沼に点在する島々をカヌーですり抜けながら、火山が作った造形を水面の鏡点から楽しむ。
4.ストーリー (～旅程)	【1日目】 面鏡山トレイル～地域の自然と歴史に触れる～ 【2日目】 駒ヶ岳トレッキング～山頂から地形全体を見渡すことによって、駒ヶ岳の噴火によってできた大沼湖沼、浮島群、流山地形(小山群)、火山灰地の成り立ちを知る～ 【3日目】 大沼カヌーツーリング～湖沼に点在する島々をカヌーですり抜け、火山が作った造形を楽しむ。 【4日目】 農山漁村交流体験～もち米農家で本格「餅つき」体験
13	

PSA 火山が造った箱庭・大沼カヌーツーリング ～カヌー&農山漁村交流4日間～	
 ⑤-2、ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>	
チェックポイント	わが地域で造成したいATプランについて、そのPRポイントを一言でわかるシナフルワードで説明してください！
5.地域らしさ	・カヌーツーリングでは、地元飲食店と協働し、サブライズを演出する実演を提供する。 ・行程内で楽しむ食の生産者のもとへと訪れ、生産者に栽培方法や背景などを聞き、交流を深める。 ・漁師と畜産で交流、漁法や歴史などを聞く。 ・地域の農家を訪れ、餅つき体験を通して、もち米生産農家と交流、日本の農村の日常生活や文化に触れる。 ・地元民に愛される飲食店での食事。
6.AT客達の 盛り込み	・自己変革→土地の成り立ちや、農山漁村の暮らしの風景と人に触れることによって、来訪者の自己変革を促す。 ・ユニークさ→土地の成り立ちと結びつけた景観や食をアクティビティを通して体験することで、この土地ならではのユニークな体験とする。 ・健康価値→適度な身体的アクティビティと、異文化に触れることによって、健康価値を高める。 ・ユニークさ ～環境配慮～環境配慮→マイボトル持参を参加者に促す。使い捨てペットボトルを使用しないよう努める。地元産の食材を優先的に使用し、フードマイルをゼロに努める。使い捨てプラスチック製品を使用しない。 ～健康価値～地域貢献→アクティビティを通して、地域産業や地元産品の消費、生産者の思いに触れる機会を積極的に作り、地域産業や地元産品のファンづくりに貢献する。 ～環境配慮～
14	

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

【白老・弟子屈会場共通資料 荒井氏「ATツアーづくりの考え方」】

アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業
北海道アドベンチャートラベル ミーティング

アドベンチャートラベルとは

配布資料は
こちらからダウンロード！

2020年10月8日(木)

北海道アドベンチャートラベル協議会 会長
荒井一洋

arai@daisetsu.or.jp

https://xfs.jp/tvEHgN

自己紹介 荒井 一洋

アジアエコツーリズムネットワーク(AEN) 理事
アジア・Ausie・NZ 18か国・持続可能なエコツーリズム
GSTC(Global Sustainable Tourism Council)公認トレーナー

日本エコツーリズムセンター(Ecotourism Japan) 理事
GSTC(持続可能な観光の国際基準)を日本に導入

北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA) 会長
アドベンチャートラベラー受入体制を整える(英語ガイド)
海外へのプロモーション

Adventure Hokkaido ガイド
サイクリング・ハイキングを中心としたアドベンチャーツアー
を英語でガイドを行う旅行会社。

大雪山自然学校 代表
北海道東川町。2001年設立。エコツアー・子供キャンプ
国立公園管理・森のようちえん・ホースセラピー

Pre-Summit Adventureを
作ってみた

その商品開発のポイントと意図について
解説してみます！

北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井一洋
arai@daisetsu.or.jp

受入地域は
何を準備したら
いいの？

ATが求めていること

ATTAが薦める
5つの体験価値

Motivations for Adventure Travel

自己変革
THE NOVEL AND UNIQUE
CHALLENGE
TRANSFORMATION
WELLNESS
IMPACT
ローインパクト

※「参加者が何をやるか」より
「参加者は何を得られるか」

※アクティビティはこれまでの取り組みでOK

ATTA体験評価項目	地域側(企画者)が準備すべきこと
Infrastructure Appropriateness	インフラの適切さ：場所の雰囲気と旅行者ニーズに合った「適切なインフラ整備」がなされている
Quality of Enjoyment	楽しみの品質：旅行者にとって楽しいと感じられること
Quality of Conservation	保護の品質：自然的文化的保全がなされていること。またその努力がなされていること
Uniqueness	特徴的である：その地域ならではのユニークな体験であること
Authenticity	ほんものであること：旅行者のために作られたのではなく、そこに元来あるもの・こと
Local Benefits	地域への恩恵：地域社会と経済への恩恵があること
Readiness	準備が整っていること：地域の機運が醸成され、物理的にも受け入れ準備ができていないこと

Around Daisetsu 6-Day Guided Hiking Tour

大雪山は火山地帯。
火山によって高山帯、湿原、湖、針葉樹や広葉樹林などの環境が作られた。
そんな環境にアイヌが暮らし、今ではその環境を活かした農業も営まれている。

Day1 「ようこそAinu Mosir 北海道へ、北海道は先住民アイヌと日本人が暮らす島、このチームで、楽しく個々の目的を達成できる丁寧な旅をしたいと思っている。一週間よろしくね！」
旭川川村カトリックアイヌ記念館と高山ハイキング

Day2 「高山帯：美しく美しい自然。高山帯で自分自身にチャレンジ！」
火山、雪、高山植物、紅葉の8時間 旭岳黒岳縦走登山

Day3 「渓谷：火山が川に250mも削られた渓谷」
層雲峡ラフティング

Day4 「湿原：寒くて貧栄養の影響。高層湿原と沼とヒグマ」
大雪山高層湿原ハイキング

Day5 「岩場：火山による地殻変動。岩場とナキウサギとオショロコマ」
然別湖と白雲山 登山

Day6 「農業：土地の特性を活かした農業。痩せた、酸性の土壌に適した農作物」
新得そば畑とそば打ち

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

Day1
川村カトアイヌ記念館
ランチ&北海道を代表する樹木10種ハイキング

体験価値	準備すべきこと
自己変革	★インフラの適切さ
★今までにない特徴ある体験	★楽しみの品質
挑戦	保護の品質
心身が満たされている状態	特徴的である
ローインパクト	ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること




ツアーデザインのコツ

- ◆スルーガイドの重要性
- ◆常に位置確認
毎朝、今日のコースを確認
新たな場所に立ち寄るごとに
現在地確認
- ◆常に、全体テーマにつなげる
・大雪山の多様な環境
・アイヌの世界観(地名・植物)




Day2
高山帯 8時間
旭岳 黒岳 縦走

体験価値	準備すべきこと
自己変革	インフラの適切さ
★今までにない特徴ある体験	★楽しみの品質
★挑戦	保護の品質
心身が満たされている状態	特徴的である
ローインパクト	ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること




Day3
火山が川に250mも削られた
溪谷でラフティング

体験価値	準備すべきこと
自己変革	インフラの適切さ
★今までにない特徴ある体験	★楽しみの品質
挑戦	保護の品質
★心身が満たされている状態	特徴的である
ローインパクト	ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること

実は予備日

セルフガイド

チェックアウトは10時




Day4:
寒くて貧栄養の環境
高層湿原と沼とヒグマ

体験価値	準備すべきこと
自己変革	インフラの適切さ
★今までにない特徴ある体験	★楽しみの品質
挑戦	★保護の品質
心身が満たされている状態	特徴的である
ローインパクト	ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること




Day5
岩場: 火山による地殻変動。岩場とナキウサギとオショロコマ

体験価値	準備すべきこと
★自己変革	インフラの適切さ
★今までにない特徴ある体験	★楽しみの品質
挑戦	保護の品質
心身が満たされている状態	特徴的である
ローインパクト	ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること




ツアーデザインの
のコツ

- ◆ガイドは3つの役割を使い分ける
 - ・インストラクション（指示）
 - ・インタープリテーション（解説）
 - ・ファシリテーション（促進）
- ◆満足度を高める3つのT
 - ・楽しい（エンターテインメント）
 - ・ためになる（学び）
 - ・得をする（想定外!）
- ◆チェックインは16時
 - ・ホテル周辺を個人で散策



Day6
農業：火山の特徴。
痩せた酸性の土壌に
適した農作物

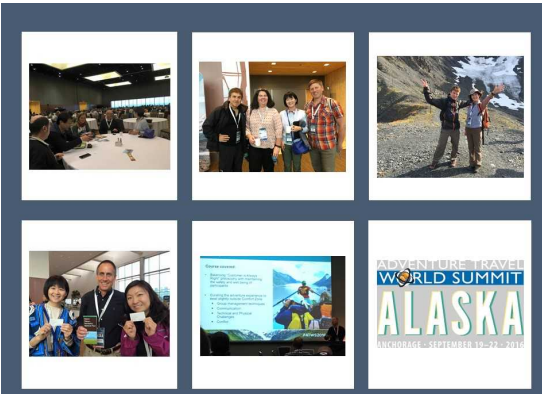
体験価値	準備すべきこと
自己変革	インフラの適切さ
★今までにない 特徴ある体験	楽しみの品質
挑戦	保護の品質
心身が満たさ れている状態	★特徴的である
ロー インパクト	★ほんものであること
	地域への恩恵
	準備が整っていること



<https://www.adventure-hokkaido.com/>

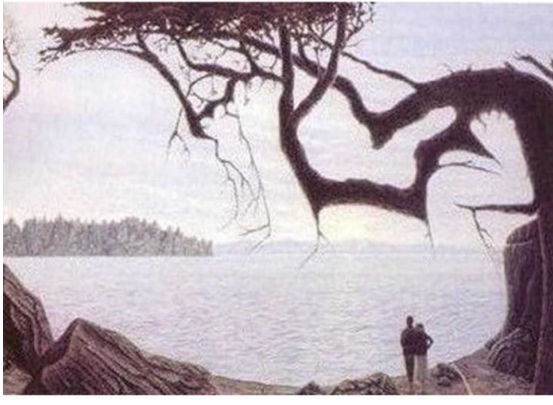


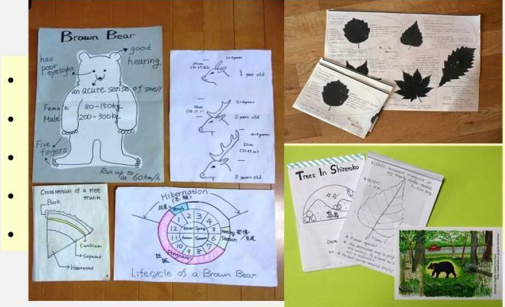
【ニセコ会場講演資料 馬上氏「ATミーティングATの実践事例、情報提供ほか」】

 北海道アドベンチャートラベル ミーティング ～ATの実践事例、情報提供ほか～ 通訳案内士／森林インストラクター／英語講師 馬上千恵 もうえちえ	 馬上千恵（もうえちえ） 福島県いわき市出身 1996年 帯広畜産大学 生物資源化学科卒業。有機化学専攻。 1996年～2004年 北海道森林管理局：国有林の管理・経営、林業の普及啓発、森林インストラクターとして森林環境教育に携わる。 2005年 森林管理局を退職（31歳） オーストラリアにてTESOL(英語教授法) 資格を取得、英語講師として英語レッスン提供を開始 千歳、清里、斜里、帯広、稚内、函館、札幌・・・ 2007年～2011年 知床にてネイチャーガイド 2008年 英検1級 通訳案内士（英語） 資格を取得
 2011年4月～2020年3月帯広市、稚内市、厚沢部町 2020年4月～札幌市 通訳案内士として道内をご案内。全国各地で観光業向けの『英会話セミナー』を行う。 英語ガイド養成講座・英語講師養成講座・北海道の『森の見かた』講座も開催。 「英語を学べば、地域も自分自身も輝ける」がミッション。 英語講師歴：14年 通訳ガイド歴：11年	
本日の内容 1 ATのお客様が求めているものとはなにか ～お客様からのご質問・ご要望から～ 2 どのようなガイドがATには必要なのか 	本日の内容 1 ATのお客様が求めているものとはなにか ～お客様からのご質問・ご要望から～ 2 どのようなガイドがATには必要なのか 

質問 欧米豪のエージェント、旅行者、メディアからよくされる北海道旅行についての質問・要望はなんだと思いますか？  	質問・要望 ① 北海道の基本的情報 そもそも北海道ってどこ？ どんなところ？ 何ができるの？ ▼ まだまだPRの必要性、可能性があり！！
実際に北海道に来たゲストからは・・ 得られる情報が全体的に少なすぎる！ ・どこで多言語のパンフや地図が手に入るの？ ・問い合わせをしても返事が遅い、こない ・日本語の直訳で意味が分からない ・英語のページから突然日本語のページになって困った ▼ 本当に必要な情報が手に入らない	今だからこそ、発信・準備が大切！ 海外のお客様の目線で見直しを！ ・広告（写真）・動画・パンフレット ・ウェブサイト・地図・メニュー・表記・看板 
質問・要望 ② ソフトアドベンチャーに関する質問   ハイキング サイクリング スキー カヤック フィッシング 写真ツアー バードウォッチング 森林浴 「具体的なモデルコースを提案して！」	モデルコース作成の留意点 サイクリングツアーを例に 【期間】4～8日 【人数】8～12人 【一日の走行距離】約100km 【ツアーの値段】約3000～5000ドル 【ガイド】自社ガイドを同行。加えて地元とつなぐ英語ガイドは必須 【宿泊施設】3～4星ホテル（5星でなくてもcozyであればよい） 【1日の行程例】 朝食（あたたかいもの+ コンチネンタルブレックファスト） →40～50km走行 →昼食（軽いもの） →50～60km走行→到着（15：00～16：00） →地域観光（体験） →夕食（地元のおいしいもの）&温泉 

質問・要望 ③ 「北海道ならではの体験」に関する質問 「どんな体験ができる？」 「地元との交流は欠かせない！」 「地域の名物おじさん、おばさんに出会いたい！」 「おいしい食べ物」はマスト 「ファミリー向けや教育的体験活動はある？」 「アイヌ文化？ 縄文文化？ 興味ある！」	
体験のキーワードは・・・ Authentic ありのまま（本物）の北海道を 丸ごと体験したい！ 日本人の当たり前が新鮮！ ありのまま＝おもてなし	【まとめ】ATのお客様が求めているもの ベース：北海道の豊かな自然 ソフトアドベンチャー サイクリング、野鳥観察、写真撮影、カヤック、森林浴 自然の中でのアクティビティ • 地元での体験 そこではできない体験 • 地元の方とのふれあい 人間として面白い人 • 小グループ・ファミリー層向けプラン 年齢関係なく楽しめる • 北海道の文化 アイヌ文化・縄文文化 • 北海道の食 地元の食材を使ったおいしい料理 Authenticな異文化体験 • 清潔で心地の良い宿 • 地元ガイド • 言語対応（英語表記・マニュアル・通訳など） Cozyな受入環境
【まとめ】ATのお客様が求めているもの テーマ・ストーリー 自然の中でのアクティビティ + Authenticな異文化体験 = 文化・歴史 自然環境を学ぶ 自己変容・自己成長 AuthenticなHokkaido を活かす・伝えられるガイド ガイドの「何とかなったよ！」は ゲストにとっては「何とかなっていない」現実もある…	本日の内容 1 ATのお客様が求めているものとはなにか ～お客様からのご質問・ご要望から～ 2 どのようなガイドがATには必要なのか

質問 ATのガイドには どのような力が必要だと 皆さんは考えますか？  5つの力	ガイドに必要な力 ①、② ① 安全に楽しくツアーをリードするスキル、経験 ② 興味深く面白いストーリーの引き出し ・ 自然環境全般 ・ 文化・歴史・風土 ・ 地元のディープなネタ ・ ガイド自身の経験  ガイドブックにはない話題！ ふとしたブレイクタイムの話題
体験の最中によく聞かれること なぜこの場所にきたの？ なぜこの体験をするの？ どうスペシャル（&ユニーク）なの？？ ・ 尻別川の水がきれいな理由 ・ 湧水が豊かな理由 ・ ジャガイモがたくさん育てられている理由 ・ 雪質が言い理由 ・ 森林の成り立ち 目の前にあるもの→ガイドの説明でスペシャルに!!	参考）こんな質問もいただきました ・ ニセコの不動産開発が進む中で、<u>環境を悪化させないために</u> <u>どのような戦略がとられているのでしょうか？</u> ・ <u>コロナウィルスの対策を考慮しながら、ニセコの自然を楽しむ</u> <u>観光客を呼び戻すため、どのようなアイデアや戦略をお持ちで</u> <u>すか？</u> ・ <u>タトゥーのある外国人観光客</u>が増えていく中で、地元の皆さん は彼らが<u>温泉</u>を楽しむことを受けいれていますか？ ・ 海外からの観光客に、<u>日本の習慣やルールをどのように伝えて</u> <u>いるのですか？</u>
ガイドに必要な力 ③ ③ コミュニケーション能力 外国語能力 < 異文化コミュニケーション能力 😊 ・ インタラクティブ／フレキシブル ・ 育った環境や文化の違いを理解する力 ・ 明確に具体的に伝える力 ・ 日本を知り、日本を伝える力	

ストーリー・解説も海外の方目線で！ 日本人向けの解説とは違った工夫を！ ～海外ゲストからよくある質問～ - 江戸、昭和、平成、令和って何？ - なぜ縄文時代というの？ - 松浦武四郎って誰？ - お寺と神社の違いは？ 「〇合目」ってなに？ - 学校や政治の仕組みを教えて！ - どうしてそんな風に座るの？ - アイヌの人にはどこに行けば会えるの？	ガイドに必要な力 ④ ④ 地元との架け橋（調整力） 海外からのゲスト * 地元の人と交流したい * いつも同じ人との交流ばかりでつまらない * ほかに味わえないスペシャルな体験をしたい 地元の皆さん * 地元のいい所をたくさん知ってほしい * 好きになってほしい * 楽しみつつ経済的にも貢献してほしい ガイド この間をつなげる Win – Win-Winの実現
ガイドに必要な力 ⑤ お客様が安全に、心地よく過ごすことができる英語力 確実に伝え、スムーズにコミュニケーションが取れる。 お客様の言いたいことを正しく理解できる。 お客様の疑問・不安を解消することができる。 ↓ まずはシンプルな英語で「伝わります」！	シンプルで伝わるガイド英語とは 「中学英語＋自分に必要な単語」だけでOK!! 
【まとめ】あなたの個性を活かしたATガイド 安全にツアーをリードできる経験、スキル 興味深いストーリー 地域との架け橋 異文化コミュニケーション能力 英語力 得意個性 「あなた」という個性を活かしたATガイド あなたはどんなガイドになりたいですか？	ご清聴ありがとうございました！ Thank you for your kind attention!  M's English: https://msenglish-network.com/

【旭川会場講演資料 高田氏「今こそアドベンチャー」】

(1)	(2)
(3)	(4)
(5)	(6)

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」



欧米市場拡大に向けたアドベンチャーツーリズム推進ポイント

国際的なアドベンチャートラベル推進機関 **ATTA**
(Adventure Travel Trade Association) との連携により実施する。

FITによる市場拡大ではなく、ATTA加盟のエージェントとの関係づくりによる **B to B マーケティング** が基本となる。

AT顧客がデステネーションに求める地域の持続可能性を考え、自然環境・文化の保全や地域経済の発展など**サスティナブルツーリズム**を念頭に置いた政策を推進する。

(7)



日本が有するポテンシャル

活動
Activity

気候
Climate

自然
Nature

食
Cuisine

文化
Culture

我が国は、観光振興に必要な5要素、すなわち、「活動」「気候」「自然」「食事」「文化」が全て備わっている、フランスと並んで世界でも最も稀な存在である。

「活動」 各種のアクティビティが可能

「気候」 同日でもスキーからビーチリゾート

「自然」 手つかずの自然、山岳、豊富な動植物

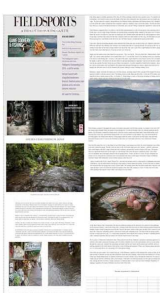
「食」 世界文化遺産の和食、質の高い洋食

「文化」 和の伝統文化、アイヌ文化

(8)



ATTAファムトリップ誘致後の効果



2018年6月 第1・2号で発表
written by Jess McGlothin



2018年4月21日 海外旅行
written by Melissa DeVaughn

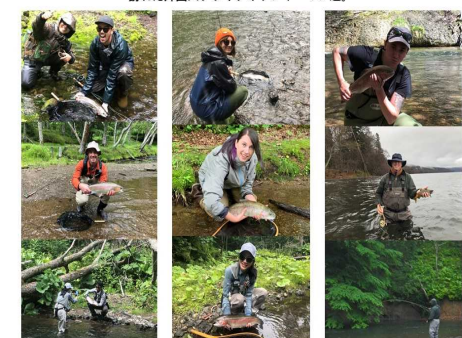


2018年9月 USAで発表
written by Jess McGlothin

(9)



2019年 この全ての写真がATTAメンバーが書いた記事を見て訪れた外国人フライフィッシャーマン達。



(10)



アドベンチャートラベルを誘致にあたっての日本側の課題

1. 受付書・同意書・ガイドの手順書 SOP (Standard Operating Procedures)・各企画の簡易説明書 MIC (MINIMUM INFORMATION TO CLIENTS)等の整備が全くなされていない。
2. ガイド業者の保険を含むリスクマネジメントが成されていない。
3. 外国語ができるガイド要請。
4. ガイド業が接客業である事を認識出来るガイドの要請。
5. 他地域・他国との差異を把握し、違いをしっかりと表現する事が出来ない。
6. ガイドは教師ではないことを認識し、知識を提供するだけでなく、楽しいツアーを演出する事が出来ない。



(11)



世界レベルでの必要書類 | (申し込み手配書・免責事項同意書)



安全に関する免責事項について

お客様は本旅行に参加するにあたり、以下の事項を十分に理解し、同意するものとします。

① 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

② 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

③ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

④ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑤ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑥ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑦ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑧ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑨ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

⑩ 本旅行は、お客様の安全と健康を第一とし、天候・地形・動物・植物等の自然環境に依存する活動となります。参加者は、自身の安全と健康を常に第一とし、必要に応じて中止または変更を行う権利を保有します。

(12)

【帯広会場講演資料 本間氏「ATプラン商品取組事例」】

 北海道アドベンチャートラベル・ミーティング in 帯広 「ATプラン商品造成取組事例」―社）黒松内町観光協会	 ※講演資料 firestorage firestorageに移動します firestorage firestorage クリック クリック クリック
 ―社）黒松内町観光協会 事務局長 本間崇文 小樽市生まれ宮崎県育ち 1993年-1999年 ロンドンで現代アートを学ぶ 1995年 現地コーディネーター、添乗員などを経験 ヨーロッパを拠点にフリーのメディアコーディネーターとして活動 訪れた国々30カ国以上 2009年帰国後 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク(豊富町)で 国立公園の保全調査、エコツアーの開発、環境教育などを担当 2012年 プナ北限の里ツーリズム(黒松内町)主任コーディネーターに就任 2016年 黒松内町観光協会とプナ北限の里ツーリズムを統合、事務局長に就任 2017年 観光協会を一般社団法人化、外国人旅行者の受入を本格的に開始 国内外の顧客のニーズに合わせ、地域主導の体験交流型ツーリズムを推進	本日お話すること ①黒松内町における地域コーディネーターとしての取り組みとAT受入準備 ②ATWS/PSAの受け入れに向けたツアー行程づくり
少しだけ黒松内町の紹介をします 人口:約2,800人(人口のピーク時は、1955年の約7,400人) 基幹産業:福祉、種イモ栽培と酪農・蕎麦の生産を主とする農業 気候:日本海と太平洋が最も接近した内陸、気候は両海の影響を受けるため春から夏にかけ濃霧が発生しやすく低温となる独特の気候。 観光:国の天然記念物「歌オプナ林」を中心に展開 ※伐採の危機を2度乗り越えた「日本で最も美しい村連合」加盟 黒松内山道(1856年)の開削により町が栄える。当時は、長万部から寿都湾へ抜ける重要な内陸路で交通の要所だった。寿都鉄道etc.現在は道の駅が人の流れの中心。 都市と田舎の交流に取り組んで約30年。歌オプナ自然の家では四季のブナウォッチング・ツアーを開催。ふなの森自然学校では、都市部の子どもたちを集め、環境教育キャンプなどを実施。 牧歌的な里山であることからカントリーウォークに適した土地であり、町ではフットパスの整備やウォーキングイベントが盛んである。 ブナの森が育む清流「朱太川」産のアユは全国規模の清流めぐり利き鮎会でグランプリ、準グランプリに輝いたこともある。他の河川から持ち込んだアユの種苗放流しない河川として環境保全の点からも注目。	 黒松内低地帯 森里川海 ブナ林に囲まれたまち

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」



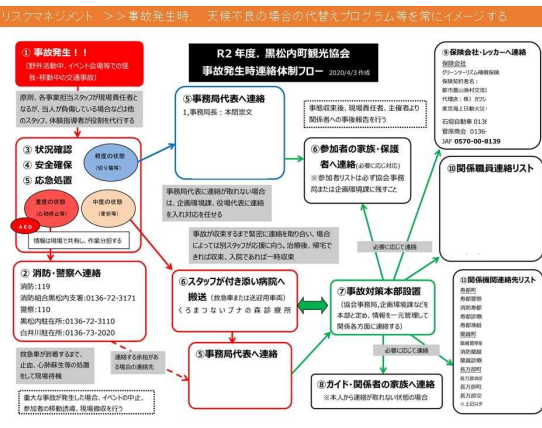
令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」



定期的な技能講習、交流実践者のミーティング、勉強会を実施



リスクマネジメント >> 事故発生時 天候不良の場合の代替プログラム等を常にイメージする



アドベンチャートラベラーが求めるコンテンツ



一貫したテーマ (＝ストーリー)

メイン アクティビティ

これまでのコンテンツをATの導入に向け、どう活用させるか？

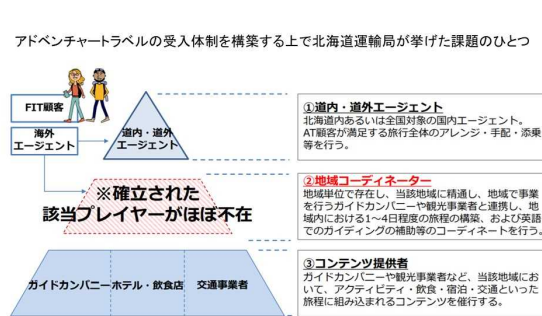
ATTAが提唱する5つの体験価値

ATTAでは、AT旅行の要素としての自然、文化、アクティビティが含まれるという考え方の他に、AT旅行者の体験として、5つの体験価値を提唱している。これらの体験価値が高いコンテンツ/ツアーは、ATとして価値のあるものであると見なすことができる。

JTB総合研究所作成「ATコンテンツ作成時の指針」より

- ①Novel and Unique / いままでにないユニークな異文化体験、アクティビティ
- ②Transformation / 自己変革 新しい自分を見つける持ち帰るお土産
- ③Wellness / 健康であること アクティビティ、食、メディテーション
- ④Challenge / 挑戦 目標/目的の設置
- ⑤Impact / ロインパクト 環境や生活様式のあり方・工夫/学びの要素

アドベンチャートラベルの受入体制を構築する上で北海道運輸局が挙げた課題のひとつ



FIT顧客

海外 エージェント

国内・道外 エージェント

※確立された 該当プレイヤーがほぼ不在

ガイドカンパニー・ホテル・飲食店 交通事業者

- ①道内・道外エージェント 北海道内あるいは全国対象の道内エージェント、AT顧客が満足する旅行全体のアレンジ・手配・添乗等を行う。
- ②地域コーディネーター 地域単位で存在し、当該地域に精通し、地域で事業を行うガイドカンパニーや観光事業者と連携し、地域内における1～4日程度の旅程の構築、および英語でのガイドの補助等のコーディネートを行う。
- ③コンテンツ提供者 ガイドカンパニーや観光事業者など、当該地域において、アクティビティ、飲食・宿泊・交通といった旅程に組み込まれるコンテンツを履行する。

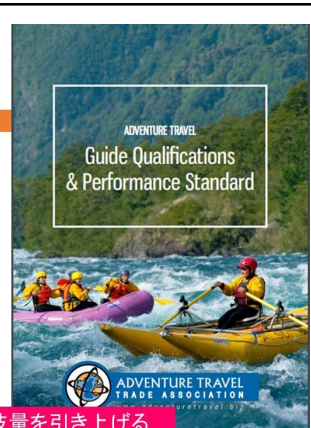
国土交通省の資料より抜粋

We are ready !

ATTAのスタンダードにガイド基準を満たせるプログラムづくり、ガイド育成のための作業をしている

ATのガイドに求められるスキル

- ①TECHNICAL COMPETENCY 技術的能力
- ②WILDERNESS MEDICINE & FIRST AID 野生医学&応急手当
- ③CUSTOMER SERVICE & GROUP MANAGEMENT SKILLS 顧客対応&集団を率いる手腕
- ④NATURAL & CULTURAL HISTORY INTERPRETATION (CONTENT DELIVERY) 自然・歴史文化の解釈
- ⑤SUSTAINABILITY 持続可能性



各分野の技量を引き上げる

AT受入に向けてガイド力をどのように引き上げていくか？

5つの体験価値の届け人:ガイドに求められるポイント

- ①ガイドに求められるのは高度な語学力よりも情熱とコミュニケーション能力、人間力である
- ②対話から生まれる Why & Because を大切にする
- ③五感に訴える刺激を意識する

「海外の方々と接する、地域を案内する際のポイント」 レベル①疎外感を与えない 地元の仲間だけでだべらない、輪をつくらない。 言葉ができなくともオープンマインドであることが 重要、ゲストと一緒に場づくりをしましょう。 レベル②決めつけてかからない 国籍を含め、バックグラウンドが様々。異文化コミュ ニケーション能力が必要。一人一人と向き合う。 レベル③土地の人を熟知している＞意識ができる 日頃接している地域の人々、発した言葉を直訳す るだけでなく、相手の理念を伝えられるのは強み	2021年アドベンチャートラベルPSAの 受け入れに向けたツアー行程づくり  Toyo-Utsu UNESCO Global Geopark & Kuromatsunai Low-land Adventure Tour.
2つの島が合体してできた 北海道 ※イメージです 二つの島が約 4000万年前に 衝突してひと つの島になっ たという説が ある  Hokkaido Magazine KAIより抜粋 Tales of Adventure	北海道の大地は生きている Hokkaido Magazine KAIより抜粋  300万年前の北海道は2つだけでなく、いくつかの島から成り立っていた。今回、4泊5日の冒険旅行では、火山活動が活発だった300万年前、南西部の島とされているエリアが舞台。
Toyo-Utsu UNESCO Global Geopark & Kuromatsunai Low -Land Adventure Tour 洞爺湖有珠山ジオパーク&黒松内低地帯アドベンチャー 4泊5日 幾度となく噴火を繰り返し、現在も生成変化する有珠山。太平洋と日本海の間で隆起を重ねた黒松内低地帯。大地が生み出す多様な自然と多文化共生をテーマにしたアクティビティを重ね、新たな発見や感動を共有していきましょう。 Day1.「イランカラブテ」北海道の先住民族を知り、大地を知り、人を知り、個々の目的が達成できるよう、感動を創る5日間のためのフリーフィンク。 歴史、交流 Day2. 洞爺有珠国立公園で大地の成り立ち、自然の脅威を体感する1日。 トレッキング、自然、学び Day3.「火山がもたらした恵み」について、海の街の暮らしという側面からの発見・気づきを得る1日。 サイクリング、自然、生活文化、交流 Day4. 黒松内低地帯を太平洋側から日本海側へ。朱太川上流から下流へ森海川のつながりを体感する1日。 サイクリング、トレッキング、自然、挑戦 Day5. 川から海へ。海洋資源と人の営みを体感。前日からの行程で森海川のつながり考える。 カヌー、交流、学び	ATTAのガイダンスに適合したモデルコース作成 ・ツアーの期間:4～8日 ・ツアー参加人数:8～12人 ※小グループ ・ツアー料金:約3000～5000ドル ※現地での売値@1日5万円程度設定 ・帯同ガイド スルーガイド、ローカルガイド ※英語ガイド必須 ・宿泊施設のタイプ 1人1部屋が基本 ※スタンダード+(3～4星クラス) 1日の行程例 □朝食 Continental B'fast & HOT MEAL※日本食でなくて良い □アクティビティ 例)サイクリング 50Km □途中ティーブレイク □昼食 ※重たいな食事は避ける □アクティビティ 例)カヌー 4km □途中ティーブレイク □地域の文化的な体験、人との交流 □夕食は地域食材を使ったローカルフード □温泉でゆっくり ※日本での旅の特徴 ◎補充用給水コンテナ、ブレイクタイム時のスナックなど用意する

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

5 days Location MAP

Stay at Lake Toya >> 2 nights
Stay at Kuromatsunai >> 2 nights

DAT1. 新千歳APT>ウポポイ>洞爺湖ホテル

イランカラプテ!
北海道の先住民族を知る。
感動を創る5日間のキックオフ。

1日目のポイント

- 先住民族アイヌを知り、北海道を知る
- フリーフィング
行程確認、天候、服装、装備
日本を楽しむための注意点
- 5日間の冒険マップを交え行き先を紹介
- 一緒に楽しむためのアイスブレイク
- ロングフライトのあとはリラックス
- 全体の構成としてハードなアクティビティは1日おきに。

DAT2. 洞爺有珠国立公園 大地と営み(火山と暮らし)

西山山麓火口エリアで2,000年に被災した集落を火山マイスターと冒険。

2日目のポイント

- 地域ガイド: 地元在住火山マイスター
- 大地との共生(学び)
- 大地の恵み(温泉と湖)
- 三松 正夫、三松 三朗(人の歴史)
- 豊かな土壌がもたらす食(野菜)
- 大地は今も動いている
ボルケーノトレイル

・テーマが一貫していること

DAT3. 洞爺湖>豊浦>長万部>黒松内 太平洋から日本海への陸路の旅

アイヌ語でカムイチャシ(神の岩)と呼ばれる溶岩でできた景勝地をサイクリング。太平洋から日本海へ

3日目のポイント

- 地域ガイド: 地元在住火山マイスター
- 前日の学びを踏まえ、アイヌの暮らし、土地の暮らしを五感で体感する
- ママチャリでジオパークをめぐる
- 内浦湾の豊かな海で暮らす漁師たち
- 太平洋から日本海側へ(黒松内まで)
- 環境教育の学び舎で過ごす2日間

・体力差の見極め、トイレ・休憩ポイント確保

DAT4. 黒松内 森・川・海と人のつながり

多様な生物を育む黒松内低地帯を流れる朱太川をカヌーで下り、森と海のつながりを体感する。

4日目のポイント

- 地域ガイド: 地元在住自然学校スタッフ
- 保全: 種苗放流を止めた朱太川の鮎
- サケ・マスの遡上&アユの仔魚は海へ
- 豊かなブナ林と朱太川と海のつながり
- 地域の暮らしを訪ねる
ジャガイモ農家でランチ
- 1日学んだ地域の事を地域で触れ合った人々と共に食す

・午後はゆったりした行程を組む。
地域住民の暮らしぶりを体感

DAT5. 黒松内>寿都

日本海側の海洋資源と人の営み

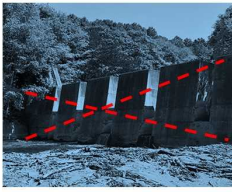
5日目のポイント

- 地域ガイド: 地元在住スルーガイド
- 循環型農業を営む地元カフェで朝食
- 環境に配慮した養殖ホタテ、カキの産地を漁船で巡る
- ローカルシーフードランチ

有珠山は、太古より火山とアイヌを含む多様な人々が共生してきた場所。加えて、黒松内低地帯・朱太川は寿都湾を含め多様な生物を育んでいることを体感し、学んだことをふりかえり、皆さんは何を得たのでしょうか!

サプライズを用意!

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

食にも変化と工夫を。ローカルフード。誰が料理したものか顔が見えると◎  お腹いっぱい食べては危険。地域の食材を提供。フードロスなくす。素材の出所を知る。 	ATの受入促進に向けてどんなことを強化していくか？ ・地域を知ってもらうための英語版情報発信の強化 ・受入れ体制の強化(技能講習、住民への理解) ・一貫したテーマで体感できるプログラムの開発 ・担い手の育成(コーディネーターの育成、英語コミュカ) ・広域連携によるAT受入の推進  ダムがなくなれば、サケ、マスなどが上流部まで遡上しやすくなり、魚類や他の生物にとって豊かな環境圏がつくられます。ATの受入れ促進も同様に、行政境界の垣根を取り除くことで、広域地域をつなぐ、豊かなプログラムを提供できるのではないのでしょうか
 北海道アドベンチャートラベル・ミーティング in 帯広 「ATプラン商品造成取り組み事例」 一社)黒松内町観光協会 本間 崇文 Kuramatsumai Tourist Association	

②ワークショップと成果

【白老会場1班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	美しい自然を通して身近なアイヌを学ぶ
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・クリやカヤック(冬:アイスウオーク)・バードウォッチング ・地元の食材をローカルなお店で楽しむ ・断崖を巡る観光船 ・アイヌ民話に触れる
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①観光船で断崖を巡り、アイヌ語由来の地名をアイヌ民話や神話から学ぶ。 ②ウポボイで①で得た知識を深める。 ③バードウォッチングでアイヌの地名由来の鳥を観察 ④クリやカヤック
5.地域らしさ	・アイヌ文化 ・美しく豊かな自然
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【ユニークさ/挑戦的要素】クリやカヤック、アイヌ文化 【自己変革】他文化を通じて自分化に気づく、そのきっかけとなる 【環境配慮】美しい自然の中でのアクティビティ体験から自然環境保護に対する意識が高まる。 【健康獲得】栗やカヤックで適度な疲労感

【白老会場2班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	「北海道×火山×人＝？」～火山の恵みを目一杯味わおう！～
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・カヌー、ガイド付きトレッキング、火山の恵みを味わう(おかわりプラン) ・温泉 ・ガイド付トレッキング、天然足湯体験、鮭の遡上ツアー
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①ちょっと歩こう(ガイド付きトレッキング) ②遊びつくせ(カヌー、足湯体験、鮭ツアー) ③おかわりプラン(食とアクティビティ) ④あなたの答えは？(ディナー報告会)
5.地域らしさ	だって、火山だから。
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	—

【白老会場3班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー 北海道のライトユーザー向け
2.コンセプト	ディープな北海道(あなたの知らない世界)
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・ウポボイを含む白老まちなか ・温泉(足湯、ホテルなど)リラックス ・ジオパーク(軽登山、トレッキング) ・真の自然(黒松内の森と河と食と人) ・後半は余裕を残す日程にする。
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①新千歳IN→白老まちなかあるき→白老or登別△ ②登別(足湯)→オロフレ峠→洞爺湖有珠山ジオパーク 洞爺湖温泉△ ③洞爺湖温泉→後志(黒松内)アクティビティ釣り、ブナトレッキング→グランピング△ ④後志地区→小樽or後志地区(フリータイムも)→札幌△ ⑤札幌→新千歳OUT
5.地域らしさ	白老～歴史文化 洞爺湖～景観・減災文化・味 後志～自然・人・体験・水
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】アイヌ文化とは他者(物)への敬虔な気持ち→我が身に置きかえ 【ユニークサ】深く長く全てを楽しませる行程 【健康獲得】トレッキング+温泉 【環境配慮】移動手段以外はほぼ自然のまま活用している(特に黒松内) 【地域貢献】団体ツアー向けではない場所にも焦点をあてて地域全域を『宝』としている。

【白老会場4班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	生きたアイヌ文化と大地の恵み
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	ウポボイ、二風谷コタン、アヨロ海岸、沙流川ジオパーク
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①アイヌに由来のある自然とアクティビティ(チブサンケ) ②ウポボイ ③交流とものづくり(刺繍、木彫り…) ④大地の恵みを楽しむ(温泉、くだもの)
5.地域らしさ	アイヌ文化を伝承している人々と交流できる。
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】人間と自然の関係性を再認識

【白老会場5班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー 主人公になりたい人
2.コンセプト	北海道文化の主人公
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	[アイヌ文化] ・木彫・刺繍→工芸 ・料理・狩猟 舞踊 ・馬牧場の農業体験 ・乗馬
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①馬との出会い ・馬セラピー(触れ合い) ②→乗馬レッスン→一人で乗馬→景色を見に行く→馬湯でリラックス ①アイヌコタン散策→伝統工芸に触れる→夜語り部さんに話を聞く ②工芸体験+狩猟+舞踊 ④馬(動物)+アイヌ文化(他文化) 全てを含む地球の歴史を知り共有する
5.地域らしさ	・北海道から地球の全て
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	上記参照

【白老会場6班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー、人生につかれた人
2.コンセプト	アイヌ(自然)と禅から学ぶ シンプルライフ
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	—
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目: 白老ウポポイ見学、登別温泉泊 2日目: 有珠ガイドウォーク、お茶体験、座禅 登別温泉泊 3日目: 山菜取り、鮭釣り、料理、語り部 日高(二風谷)でキャンプ
5.地域らしさ	・白老、二風谷で学ぶアイヌ文化 ・伊達、有珠で学ぶ和人文化とアイヌ文化の共生 ・自然の中で自分を見つめる時間をゆっくり過ごす
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	・自分自身のライフスタイルの見直し ・アイヌと禅！？という意外性 ・座禅体験と自然の中でのキャンプ ・環境(アイヌ文化から学ぶ自然との共生)

【白老会場7班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	この地域ならではの食と交流を楽しむ。
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・白老町 アイヌ文化 ・地産地消の食 ・火山の恵み ・洞爺湖国立公園
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①白老アイヌ文化(ウポポイ、地域の人との食) 1泊目:白老 ②洞爺湖町 火山を学ぶ カヌーを楽しむ 2泊目:洞爺湖温泉 ③食材探し(豊浦ホタテ釣り、牧場、ワイナリーチーズ他) 3泊目:牧場キャン プ ④札幌(森?都市をたのしむ)
5.地域らしさ	食と交流 ・農家さん、漁師さん、地元の人(アイヌ文化を受け継ぐ方)
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	ユニークさ・・・豊浦のホタテ釣り体験 →他では体験できない。 地域貢献・・・食材を調達して、地域にお金をおとす。

【白老会場8班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	アイヌ人と日本人の人と自然の歴史の流れをたどろう
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	あゆの友釣り
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	白老→アイヌ民族博物館→森→カムイに感謝する姿 有珠山→地球の起源→火山→米 伊達→縄文文化→貝塚→日本刀 黒松内→あゆの友釣り 支笏湖→you!!体験→ キャンプ
5.地域らしさ	人、自然環境、歴史
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	

【弟子屈会場1班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	北海道の大地と自然の恵みを感じてもらう 2泊3日～7泊8日
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	ウォーキング/サイクリング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①釧路発着:半日 釧路近郊一厚岸方面 ②カヌー 釧路川～太平洋ヘカヌー体験 厚岸で下記工場見学/ウィスキー/日本酒工場/炉端焼き ③北根室ランウェイ(71km)/摩周・屈斜路トレイル(44km)の ウォーキング/サイクリング ④エゾハーブのおもてなしー森or庭でハーブの試飲/説明
5.地域らしさ	・釧路ー厚岸 中標津ー弟子屈の地域の食を体験 専任の方による地元の魅力発信 ◎アクティビティの途中で、カキ/ハーブ/魚介などの提供をいただく
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	・挑戦的要素ー地域の連携 ・自然へのインパクトは低い ・全て組込められれば地域貢献になる ・健康ー身体にインパクトが少ない温泉で筋肉をリラックスさせる 行動食としてカキで元気に、ハーブでいやされる +サイクリング追加も可能

【弟子屈会場2班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	屈斜路カルデラで感じる地球の息吹
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・トレッキング ・カヌー →噴気孔を巡る ・サイクリング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①川湯エコミュージアムセンター→硫黄山(アトサヌブリ) 噴気口① ②カヌーで和琴半島のオヤコツ地獄 噴気口② ③サイクリングで野天(露天)湯巡り 噴気口③ ④ポンポン山トレッキング(デイキャンプ) 地元食材地熱調理 噴気口④
5.地域らしさ	活火山を安全に体感できる地域
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】地球の大きさを感じ、「生きる」を感じる旅 【ユニークさ】ポンポン山で貸し切り 【挑戦的要素】自力で移動 【健康獲得】アクティビティ 【環境配慮】地熱を使ったエコ調理

【弟子屈会場3班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	自然との共生がそこにある
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・トレイル(サイクリング、ハイキング等) ・雲海、星空、アイヌ文化、火山 野生動物(鹿、キツネ、丹頂)温泉
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①ビジターセンター等での地域の自然、地形、文化を学ぶ ②トレイルを活用して資源に出会う ③アイヌの価値観文化地域の産業(酪農、畑作)に触れる ④グランピングとキャンプファイヤーで旅を振り返り、参加者で共有する
5.地域らしさ	地域の資源・人・自然との直接の触れ合い
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】価値観の変化 【ユニークさ】野生動物との出会い 【挑戦的要素】ロングトレイルへの挑戦 【健康獲得】温泉、足湯 【環境配慮】動力を使わない移動 【地域貢献】様々なネットワークをつくり経済波及を図る

【弟子屈会場4班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園を結ぶ釧路川を130km下る
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	カヌーやサイクルで巡る釧路川下りのよこびと発見！！ 川を中心とした歴史や文化を学ぶ
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目：屈斜路湖(藻琴山登山や釣りなどゆっくり過ごす) 2日目：コタンから弟子屈まで(途中カヌーからサイクリング) 3日目：標茶(弟子屈から)900草原や多和平展望台をサイクル 4日目：標茶(塘路湖)から釧路市へ 最後に釧路の栄町で美味しいものを食べる
5.地域らしさ	2つの国立公園を体感する
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	—

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

【弟子屈会場5班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	東北海道はアドベンチャーの宝庫
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	酪農体験、漁業体験、アイヌ文化(人と動物の交流を伝える)
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:阿寒でアイヌ民族とのふれあい(民族の話、歴史、体験など) 2日目:酪農体験や酪農の歴史(弟子屈) 3日目:日本遺産(鮭の聖地)(標津) 4日目:農作物と海産物のコラボ料理(網走)
5.地域らしさ	根釧台地の素晴らしさ
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【環境配慮】循環型農業 【挑戦的要素】鮭をさばく 【自己変革】アイヌ文化を肌で感じる 【地域貢献】道東地域への経済効果

【弟子屈会場6班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	鮭がつなぐ1万年の暮らし
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	「鮭の聖地」をめぐるガイドウォーク
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:サーモン科学館(全体を知る)、鮭茶漬け 2日目:ポー川史跡自然公園ガイドウォーク、ポー川ジャングルカヌー (1万年前の歴史を知る) 3日目:鮭の荷揚げ見学→漁師さんのお話→イクラづくり、 新巻鮭づくり体験 4日目:野付半島 幻の街キラク
5.地域らしさ	鮭とともに生きてきた人々の暮らしをたどる旅です。 1万年前の暮らしは史跡のたて穴式住居から見る事ができます。 現在の鮭と人々の暮らしは、荷揚げ見学や加工体験を通し体感することができます。
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【ユニークさ】歴史と今、漁師さんの暮らしを身近に感じる 【環境配慮】地産地消 【地域貢献】〃、鮭漁の次世代への継承

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

【弟子屈会場7班】

1.ターゲット	アドベンチャートラペラー
2.コンセプト	釧路川で結ばれた2つのナショナルパーク
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	認定ガイドと行くアトサヌプリトレッキング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①<サイクリング>AM 川湯エコミュージアム 川湯～キンムトー(砂湯、地の湯) ②<トレッキング>アトサヌプリトレッキング(ガイド付) ③<アトサヌプリ>～歴史、温泉(川湯)、アイヌ文化 ④<トレッキング>摩周岳～火山、カルデラ ⑤<カヌー>釧路湿原、倒木関係、(細岡展望台) ⑥<タンチョウ>エサ場づくり
5.地域らしさ	カルデラが創り出した 屈斜路湖・摩周湖 その地形から発生した釧路川という流れに沿って育まれてきた自然環境と人の営み
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	—

【弟子屈会場8班】

1.ターゲット	アドベンチャートラペラー
2.コンセプト	五感で感じる道東～3つの国立公園でつなぐ自然と食と文化を体感する旅～
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・アトサヌプリ(硫黄山)トレッキング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①女満別空港IN→美幌峠→サイクリング→和琴フィールドハウス、川湯エコミュージアムセンター→川湯泊 ②川湯→清里→神の子池※(冬)スノーシュー→裏摩周→そば打ち体験(農協職員と交流)→川湯泊 ③アトサヌプリトレッキング→チェックイン・セルフガイド→川湯泊 ④弟子屈→サイクリング→標茶→塘路(ランチ、学生交流)→カヌー→細岡展望台→釧路泊
5.地域らしさ	日本最大の屈斜路カルデラ湖、世界第2位の透明度の摩周湖など火山が生み出す資源、水の恵み、そこで育まれる文化
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【健康獲得】川湯温泉(強酸性) 【地域貢献】標茶高校生徒のランチ交流、農協職員との交流・体験 【環境配慮・挑戦的要素】スノーシュー、サイクリング、カヌーでの移動、トレッキング 【ユニークさ】アトサヌプリトレッキング

【弟子屈会場9班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	流氷オホーツク海から太平洋へ(2月)
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	阿寒湖から屈斜路湖までの外輪山トレイル (道東ならではの冬の美しさを体感)
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1、網走流氷カヤックとワカサギ釣り 2-3 阿寒湖→ペンケパンケ→津別峠→外輪山 4、冬のSL湿原号とJAPAN酒
5.地域らしさ	樹氷と御神渡し、ダイヤモンドダスト、流氷、オオワシ、オオハクチョウ
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	

【ニセコ会場1班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	北海道の冬の森で遊ぶ 森の多様性を知る 黒松内・ニセコ・共和町、余市
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	スノーシュー、温泉、雪の多様性を感じる、農泊体験、雪中アイスクリーム作り、 とみたファームもちつき、アニマルトラッキング、バードウォッチング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	・黒松内ブナ森(日本の北限)のスノーシューハイク(アニマルトレッキング) 米袋での尻すべり、雪中キャベツ掘り(農泊) ・ニセコでの地吹雪体験、雪秩父or五色で温泉体験(露天) ・共和町三田牧場でのグランピング&五右衛門風呂 ・雪原でのスノーモービル体験(wow体験)、夜空 ・シリバ山での海を見ながらのスノーシュー登山
5.地域らしさ	・ブナ森を中心とした町づくり ・北海道最古の牧場(共和町に1件のみ!)みんなに知ってほしい! ・アイヌ以外の以外な歴史(戦争とのかかわり、軍馬) ・冬の日本海 山から見える
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【ユニークさ】北海道最古の牧場での夜空見学 【挑戦的要素】地吹雪に立ち向かう!(雪のガイドにまかせる) 【健康獲得】たくさん歩く(スノーシュー)、キャベツ、温泉で体をあたためる 【自己変革】何万年もかけて育成されたブナ森の中で、人の小ささを知る 【地域貢献】地元の農家さんと協力 【環境配慮】自カスノーシュー

【ニセコ会場2班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	箱館ダークツーリズム～北海道の起点、箱館の歴史を巡る旅
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	箱館山要塞体験ハイキング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①縄文歴史ツアー(国宝@縄文文化センター)、勾玉作り(お守り) ②五稜郭 ③函館山ハイキング→要塞→夕日→夜景→(要塞:ダークスポット) ④寺or神社(お祓い?座禅?)
5.地域らしさ	単なる観光地ではない、より地域理解が深まるツアー設計
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】お祓い座禅(浄化) 【ユニークさ】ダークツーリズム 【挑戦的要素】心霊スポット 【健康獲得】ハイキング 【環境配慮】CO2減 【地域貢献】お寺、神社

【ニセコ会場3班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	日本の食、米どころを支える蘭越を知るツアー
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・トレッキング、カヤック ・農業体験、収穫、料理体験(おにぎり、お味噌汁)
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目: 目国内山→トレッキング→農業体験 ※美味しい米作りの原点を見る、知る→食べる 2日目: 尻別川をツーリング(25m)、カヤック ↓ 3日目: 海までツーリング 4日目: シーカヤック(海のものを食べる)→温泉
5.地域らしさ	・農家の方との交流 ・おいしいお米と海の恵みを体験、食するツアー
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【環境配慮】マイボトル、排水を持ち帰る 【自己変革】米作りの原点を知る→食への意識の向上 【ユニークさ】山から海までの水の流れを感じる、知る 【地域貢献】蘭越米を広める

【ニセコ会場4班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	食と自然と人で北海道を満喫してもらう
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	地元の名物母さんたちとたわむれよう!
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目(大沼)プライベートワカサギ釣りツアー →ワカサギ漁師さんと歩いてポイントへご案内 2日目(八雲)農家さんとネギ・温泉ツアー 3日目(長万部)浜の母さんと浜料理 4日目(ニセコ)スノーカイトorスノーモービルツアー
5.地域らしさ	・生産者が自らガイド ・ニセコのパウダースノー
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】生産の現場を知る 【ユニークさ】浜ことばの浜の母さん 【挑戦的要素】身体的挑戦(スノーカイト) 【健康獲得】温泉 【環境配慮】基本、公共交通 【地域貢献】まるっと地元。生産者の新しい事業になるかも!

【ニセコ会場5班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー(富裕層、アクティブ、アジア、30代～40代)
2.コンセプト	ハードコアラグジュアリー
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	スノーバイク スノーバイク体験を通じてパウダースノーにふれてもらう
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	[1日目]五つ星ホテル [2日目]スノーバイク体験→温泉 [3日目](八雲)漁業体験→シーフードスープ→温泉ステイ (銀婚湯) [4日目]長万部アイスクリーム流木アート→カニ飯→ チーズフォンデュ→グランピング [5日目]長万部
5.地域らしさ	・世界第2位のパウダースノーの体験 ・絶品北海道の新鮮なシーフードのスープ ・地元の人のふれあい ・温泉
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	・限界への挑戦 ・流木アートを通して環境への配慮

【ニセコ会場6班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー 体質改善 BMI値25以上
2.コンセプト	アウトドア体験でダイエットができる ロングステイができる
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	トレッキング、クライミング、サイクリング、カヌー、スカイダイビング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①身体測定、カウンセリングの後の目標設置 ②日々の体験、農業収穫、カロリーコントロール、ボディケア ③ダイエットの目標達成、スカイダイビング ④自己肯定、より高みの目標を持ちつつ帰宅
5.地域らしさ	ニセコのアウトドア 日本で5か所しかないスカイダイビングの1つ 後志の味覚
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】ダイエットによる健康 【ユニークさ】ダイエットとアウトドアの融合 【挑戦的要素】スカイダイビング 【健康獲得】上記の通り 【環境配慮】移動が自転車 【地域貢献】地産地消に貢献

【ニセコ会場7班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	山から海へ～地域の産業と歴史を知る旅
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	雷電海岸シーカヤック
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目：ニセコから岩内へトレッキング&森林浴 自転車下山 海を望めるコース 温泉旅館 2日目：雷電岬 シーカヤック 帰厚院で住職のお話・寺社めぐり 夕食はお寿司→スナック 3日目：漁業体験 漁師との交流 地元のお母さんと海の幸を使った料理体験
5.地域らしさ	海と山をどちらも体験でき、地域の方とも交流できる
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】自然と人間の間接的関係を見直す 【ユニークさ】山と海のアクティビティを一度に体験できる 【挑戦的要素】トレッキング、シーカヤック、サイクリング 3つのアクティビティを一度に体感できる。 【健康獲得】温泉入浴と身体的に無理のないアクティビティ 【地域貢献】地域産業を知ってもらい、理解を深める 一つの地域に滞在する事により、経済貢献を図る

【ニセコ会場8班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー（日本（北海道）の歴史に興味がある人）
2.コンセプト	「北海道」の始まりを学び、体感し残そう（発掘物、写真）
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・縄文土器の発掘体験 ・青の洞窟クルーズ&SUP ・松前藩屋敷・松前神楽（踊り） ・旅館にて藩主料理（殿様が食べてた料理） ・横綱記念館にて「相撲」にふれる
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目：矢越海岸クルーズ&SUP→砂金堀→知内温泉（道内最古の温泉） 2日目：縄文土器の発掘体験→横綱記念館 3日目：松前藩屋敷、松前神楽（伝統芸能）
5.地域らしさ	北前船で栄えた松前藩の歴史を学べる（北海道内ではここだけ！）
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】松前藩の歴史について間近に感じる 【ユニークさ】伝統芸能である「松前神楽」を体感できる 【挑戦的要素】土器の発掘

【旭川会場1班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	雪と氷漬けの2日間
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	アイスホテルでの宿泊 ーアイスバーでの食事とお酒ー地元産の鹿肉を味わう(鍋かジンギスカン) 雪の結晶づくり
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①旭川課学館、旭岳ビジターセンターで雪について学ぶ+雪の結晶づくり ②アイスヴィレッジでアイスバー&アイスホテル宿泊体験 ③旭岳でアクティビティを楽しむ(スキー、スノーボード、スノーシュー) ④温泉(旭岳、白金)で解凍
5.地域らしさ	寒冷地(雪、氷)、長い冬を活かした体験、極寒(-20℃)
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	・寒さを工夫、知恵で楽しくできる ・極寒地の体験 ・地球温暖化による未来を考える ・地元農家冬期就労(アイスホテル建設等)、費用の発生、ガイド(アクティビティ) ・シカの食害対策を学ぶ

【旭川会場2班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー(大雪山国立公園の自然を楽しみたい人)
2.コンセプト	大雪山の水の豊かさを体感しよう
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	旭岳ー黒岳 縦走(ざっくり8時間ほど) すべての川は山からはじまります
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:東川(旭川) 田んぼ、源水ポイントサイクリング 東川泊 2日目:旭岳ー黒岳(地元食材の携行食) 縦走 層雲峡泊 3日目:三国峠(コーヒータイム)※日本有数の樹海ー石狩ラフティング 旭川泊(場末のスナック) 4日目:旭川で酒造体験
5.地域らしさ	大雪山の伏流水がもたらす豊かさ なんと言っても大雪山
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	・水がもたらす多様性 ・縦走による達成感 ・環境保全意識向上 ・地元のスナック等、地元事業者利用

【旭川会場3班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー（欧米のファミリー※10歳前後の子供がいる）
2.コンセプト	北海道の先住民であるアイヌ（上川アイヌ）の重要な地である神居古潭をアクティビティで体感する
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	川の街旭川と上川アイヌの伝説をカヌーとラフティングで下る
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①序章～旭川博物館で旭川の成り立ちとアイヌを学ぶ ②展開～河村カ子トアイヌ記念館にてアイヌの食とウポポイムツクリの体験 ③ピーク部～旭橋からカヌー→ノチウで休憩 途中でラフティングに切り替え→神居古潭 ④地域の恵み（フルーツ等）で休憩
5.地域らしさ	・川、橋―大雪山連峰に降った雪が何千年もかけて地域を潤す ・ノチウ―星が降ってきた伝説 ・神居古潭―英雄神と魔神の激闘
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】アイヌの人々の神々の考え方と自身の持つ宗教観の違いを学ぶ 【ユニーク】アイヌの伝説をアクティビティで体感 【健康獲得】身体運動（自然の中で）ストレスの開放 【環境】CO2を極力抑えたコース造り 【地域貢献】地域ガイドを活用する

【旭川会場4班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	北の食材をめぐる旅 大雪山の恵みを食べる 大雪山のめぐみを食べる
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	登山、サイクリング、農業、漁業、体験
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目：旭川空港、タワラマップ（米）農村体験 2日目：旭岳～黒岳縦走、層雲峡下山 3日目：サイクリング 層雲峡→石北峠→サロマ 4日目：サロマ 原生花園農作業 カレー 5日目：女満別空港から帰国
5.地域らしさ	大雪山国立公園のめぐみからつながる 各地域文化を体験する旅
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	—

【旭川会場5班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー(ジオツアーに興味を持つ顧客がいる旅行会社)
2.コンセプト	半日で生きている火山が見れる
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	十勝岳火山トレッキング ・生きている火山を間近に見る ・日本一早い紅葉を見る ・エゾナキウサギの鳴き声が聞ける
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:美宙郷土館で美瑛町・十勝岳の歴史、文化を学習 2日目(ピーク):トレッキング 3日目:しらひげの滝見学 4日目:白金温泉入浴
5.地域らしさ	・十勝岳の歴史は美瑛町の歴史 ・エゾナキウサギ
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	エネルギーを貰える

【旭川会場6班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー(8日間)
2.コンセプト	ラストフロンティア北海道(スノーシューで渡る)
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・バックカントリースキー、スノーシュー(富良野・旭川・旭岳・利尻島) ・犬ぞり ・ファットバイク ・アイス(旭川) ・食ー全部
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	序章①美瑛 スノーシュー ダイヤモンドダスト、星、 序章②富良野(十勝岳) 開拓史(ラストフロンティア)、スノーシューガイド 展開③東川 冬山・火山・源水 スノーシューガイド、星空 展開④旭川 鷹栖ラーメン、犬ぞり、アイス、旭川家具、男山酒造 ⑤稚内 休 ピーク⑥利尻 スノーアクティビティ、スノーシュー ピーク⑦礼文 ホッケ海鮮丼、バードウォッチング、野生の重力、星、朝焼け ⑧稚内 稚内空港OUT
5.地域らしさ	開拓→アイヌ→自然 内陸→海へ 山→海(対比) 豊かな雪＝スノーシュー
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【自己変革】開拓→火山→自然 【ユニークさ】寒さ、踏み入れたことのない所(雪) 【挑戦的要素】火山口に近づく 【健康獲得】たくさん歩く 【環境配慮】徒歩で移動、JR 【地域貢献】食・泊・ガイド

【旭川会場7班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	サロマでしか体験できない！～オホーツク人とサロマ
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	サイクリング(冬)、トレッキング、フィッシング
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目: AM オホーツク人とサロマ湖の歴史 2日目: サロマ湖展望台から結氷サロマ湖体験(スノーシュートレッキング) 地場食材で屋食(料理レクチャー) 3日目: PMスノーモービルorサイクリング移動 氷穴シリ 4日目: ホタテ加工場見学
5.地域らしさ	オホーツク人 ホタテ海産 サロマ湖の歴史
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	日本の古くからの営みが環境に優しいと知ってもらう 【ユニークさ】冬のサイクリング サロマでしか体験できない 【挑戦的要素】極寒の中でのトレイル 【健康獲得】トレイル 【環境配慮】ホタテのカラ、工場見学 【地域貢献】地元の漁師の料理(地域発信)

【旭川会場8班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	自然(山と川)が育んだ産業・歴史の歩みを体感する
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	・下川町の山と川ー家具産業を支える源探訪する ・旭川市内のまちあるきーまちの歴史を体感する
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目: 下川町の山林トレッキング(育林についてのガイドを受ける) エコハウス美桑宿泊 2日目: AM 下川町内の林行関連産業を営む人々を訪問 地元野菜やピザのピクニックランチ PM リバーウォーク 旭川市内泊 3日目: AM 旭川市内まち歩き(7条緑道・買い物公園など) (まちの歴史を聞きながら歩く) ハルニレカフェランチ PM 旭川家具センターで家具産業の歴史を勉強する
5.地域らしさ	旭川家具のルーツをアクティビティを交えて学ぶ(アクティビティ×学び)
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【挑戦的要素】3日間歩き通す 【健康獲得】トレッキング、リバーウォーク、まちあるき、いずれも運動量が多い 【環境配慮】下川町の林業を生かした街づくりの学習 →最先端のエコロジーの町の取り組みを通じた環境意識の高まり 【地域貢献】地域の事業者(下川町内のガイドなど)との協業

【帯広会場1班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー(雪や冬のない地域からのカップル、ファミリー、小グループ)
2.コンセプト	寒さにこそ価値がある
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	十勝出身オリンピックによるスケートレッスン(小学校)
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:馬車BAR 2日目:ジュエリーアイス、スケート、温泉・サウナ 3日目:スケート、BBQ、夜に星を見る 4日目:馬そり
5.地域らしさ	十勝の冬のライフスタイル
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	自己変革:寒くても遊べることを知る、感じる 挑戦的要素:スケート 健康獲得:外サウナ、温泉、馬 地域貢献:ジュエリーグラスを通して環境を学ぶ

【帯広会場2班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	十勝の大地を流れる水と人の暮らし
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	夏:川を下る 冬:冬山を堪能
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	＜夏＞ 1日目:ダムで浮かぶ 2日目:川下り ラフティング サウナ 3日目:畑収穫体験、地元直売所見学、パン屋(水にこだわっている) ＜冬＞ 1日目:峠からダウンヒル、スノーシュー(温泉前泊) 2日目:三股スノーシュー、林業栄枯を知る(温泉) 3日目:タウシュベツ橋、ダムの歴史(昔と今を知る)、ワカサギ釣り 4日目:然別湖越え 歩くスキー
5.地域らしさ	＜夏＞ 水の流れにそった十勝らしさの実感 ＜冬＞ 冬山絶景、地域の歴史、東大雪の自然
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	＜夏＞ ・食(水)に対する意識の向上 ・地域の人によるサポート ・環境に対して優しいアクティビティ(自転車ラフティング) ＜冬＞ ・歴史人に翻弄された自然 ・雪山の功略 ・糖平湖温泉で健康

【帯広会場4班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	十勝150年の開拓の歴史と日本一食糧基地になるまでの食生産の変遷の歴史。 十勝アイヌとの関りの歴史。
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	空→熱気球、海→歩き、平野→サイクリング、山→登山、川→ボート 豊かな大地を味わう(農家体験、収穫、野外料理)※小麦をひくところから始めてうどん 作り等
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	序章①帯広百年記念館、アイヌ舞踊 展開部②食生産の現場体験、野外料理 ピーク部③海岸線砂浜歩き、サイクリング、川下り、熱気球、登山の組み合わせ 終章④ジュエリーアイス等の絶景(夕日)
5.地域らしさ	十勝の食(山・川・平野・海・放牧等全てが食につながっている)
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	ユニークさ 厳しい環境をのりきるための知恵 (先住民族アイヌが実践してきた自然との共生)が豊かな大地をつくりだしてきた。

【帯広会場5班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー レベル2
2.コンセプト	十勝150年の栄枯衰弱のドラマ～馬目線で十勝の開拓の歴史をたどる
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目:百年記念館で十勝150年の開拓の歴史を万部 2日目:林業で栄えた歴史を学ぶ(タウシュベツへのトレッキング) 鉄道資料館、ひがし大雪自然観で予備学習 3日目:農業で栄えた歴史を学ぶ(十勝のダイナミックな畑を見下ろす) しかりべつ湖扇ヶ原展望台→神田日勝記念美術館 ダウンヒル 4日目:ばんえい競馬
5.地域らしさ	ばん馬“馬とともに生きる”
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	自己変革:十勝150年の歴史を感じることでフロンティアスピリッツを体感して帰る ユニークさ:わずか150年の変遷

【帯広会場6班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	日本の食糧庫十勝の営みを巡る旅
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	然別湖～カヌー、キャンプ ネイチャーセンターガイドメニュー
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	1日目：十勝が丘展望台、十勝川温泉 モール温泉泊 2日目：いただきますカンパニー農業体験、畑ランチ、鹿追町バイオガスプラント見学 然別湖ナイトクルージング、星空、集めた食材で夕食 カントリーパパ泊 3日目：早朝熱気球、カヌー、農村散策、釣り、登山 カントリーパパ泊 4日目：牧場体験、ランチ、ジンギスカン チーズ料、動物化石博物館、 放牧酪農→チーズ、ラワンブキ
5.地域らしさ	—
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	—

【帯広会場7班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	日高アイヌ文化の体験
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	アイヌ衣装を身にまとい、火を囲み、ツアー中に集めた食材を調理し皆で一緒に食べる
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	・ニ風谷博物館でアイヌ文化を学ぶ ・アポイ登山（鹿をとる祈りを山頂で）（アイヌの祈りの歌を覚える） ・定置網漁で鮭をとる（様似） ・アイヌ料理を学ぶ
5.地域らしさ	暮らしに息づくアイヌ文化
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	アイヌ文化という日常とは違う文化にふれることにより、日常を相対化できる 登山で頂上を目指す 地元産業のアクティビティを使い、お金をおとす

【帯広会場8班】

1.ターゲット	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	五感をこえさせたい
3.コンセプトを体感できる メインアクティビティ	キャンプカー→ナイトサファリ、星空、カヌー、サイクリング、BBQセット、SAP ヨガ、 釣り、ドラム缶
4.ストーリーを含んだ旅程 ①序章 ②展開部 ③ピーク部 ④終章	①安全 ②北海道のこわさ(深さ)を学ぶ ③自然の醍醐味を味わう ④生きる喜び(野生)
5.地域らしさ	温泉、えぞ鹿(肉)、ヒグマ、鮭、流氷、道産野菜、アイヌ、海の幸、雪
6.AT要素の盛り込み ～自己変革 ～ユニークさ ～挑戦的要素 ～健康獲得 ～環境配慮 ～地域貢献	【地域貢献】宿泊施設がなくても人が来る

③アンケート結果

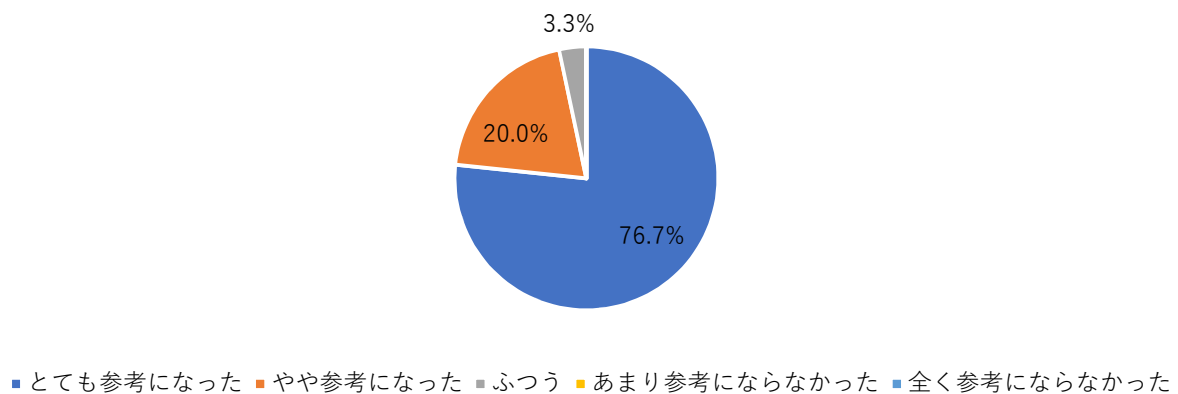
【白老会場】

イベント参加の感想

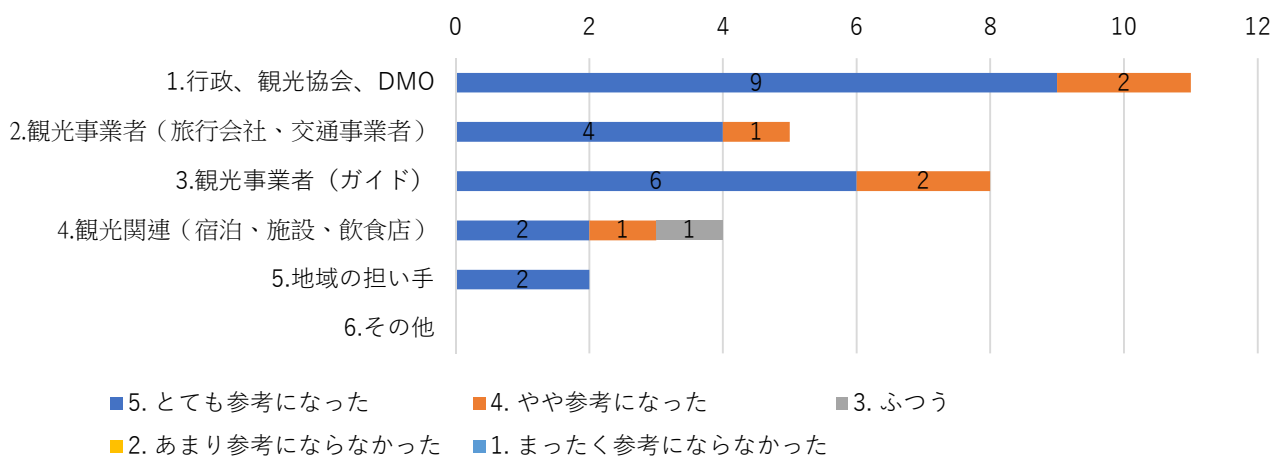
(1)「情報提供 アドベンチャートラベルとは/AT実践者の講演」の内容について

およそ96%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義な講演であったことが窺える。その理由として大まかに「ATについて学ぶことができたこと」や「ATを実践する上でやるべきことが学べた」「実際の事例を交えての話が参考になった」ことがあげられる。

情報提供、講演内容についての評価



所属別-評価



【白老会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・ATについて何も知らなかったので参考になりました。
- ・実際の事例を交えての話がとても理解しやすかった。
- ・ATを実践する上での条件ややるべきことが学べた。
- ・ATに必要な(求められる)基準がより明確になった。
- ・地域や企業側が準備すべきことなど(評価項目)、勉強になりました。参加者が何を
得られるか、四方よしの観点で考えていきたいと思いました。
- ・具体的なイメージを持てました。
- ・ATについて何も知らなかったので参考になりました。
- ・初めてATの集まりに参加したのでわかりやすく理解できました。
- ・ローカルカルチャーなど、地域とATの結び付ける考え方のようなものが少し
わかってきたような気がしました。

「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

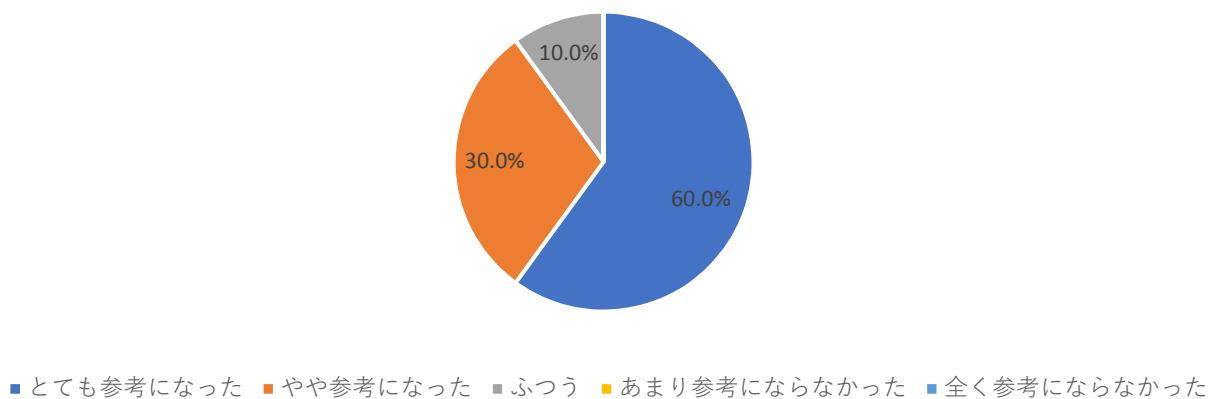
- ・荒井さんの実体験に基づく話が参考になった。こういった内容の他の事例も聞きた
かった。
- ・長期滞在、高単価へシフトする事が重要と改めて認識したが、現状のウィズコロナの
状況、先行き不透明な部分が非常に多く、この方向性を継続できるか多少疑問に感
じた。
- ・以前にも聞いているため。

【白老会場】

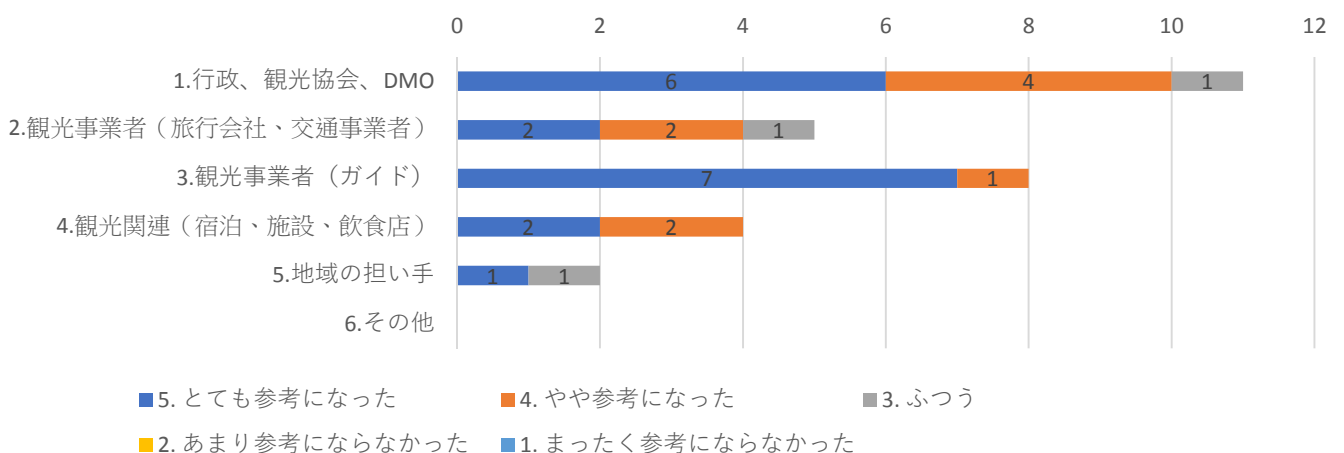
(2)ワークショップ「ATプラン商品造成」の内容について

およそ90%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なプログラムであったことが窺える。その理由として大まかに「コース造成した後のアドバイスが勉強になった」や「グループメンバーの意見が勉強になった」「コースを作るポイントを理解することができた」ことがあげられる。

ワークショップについての評価



所属別-評価-



【白老会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・最後のコメントで、どういう考え、エッセンスを加えると良いかなどの補強、矯正が勉強になった。
- ・同じ圏域内の共通点を活かしながら、自分のまちの素材を使った造成ができ、今後の仕事にも生かせるものとなり良かった。
- ・荒井さんのお話、菊地さんのまとめのお話がとても分かりやすくて良かったです。
- ・プランのポイント理解
- ・色々な意見があり勉強になった。
- ・アドバイスが的確であったため、納得ができた。
- ・コンセプトづくりに時間を費やしたが、6名とも比較的異なる視点や意見があり、興味深かった。おかげで時間が短かったように感じた。時間内にワークシートを終えるには事前にサンプルの提示や時間配分が分かればまとめやすかったかもしれないが、多様な方々とネットワークを形成するという意味ではコンセプト作りだけでも十分だった。
- ・白老やその周辺には、これから世界中の方が興味を持たれる観光資源があり、とても参考になりました。また、ターゲットやコンセプト、ストーリー性などの重要性も参考になりました。

「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・交通事業者として参加したが、観光協会の方々、白老町ウポポイのガイドの方々とATプランを造成でき、今まで見えない部分が見えて良かった。
- ・ストーリーを意識しモデルコース作りは有意義でした。ただ時間がもう少しあればなおよかった。
- ・短い時間内で各グループの造成が学べた。
- ・より現場であるタクシー会社の視点を知ることができた。
- ・もう少し絞って（1Daytripでつくろう、2nights3daysでつくろう）のほうが良かった。あまりにも何でもありすぎてバラけてしまったので、まとめる方に労力を。

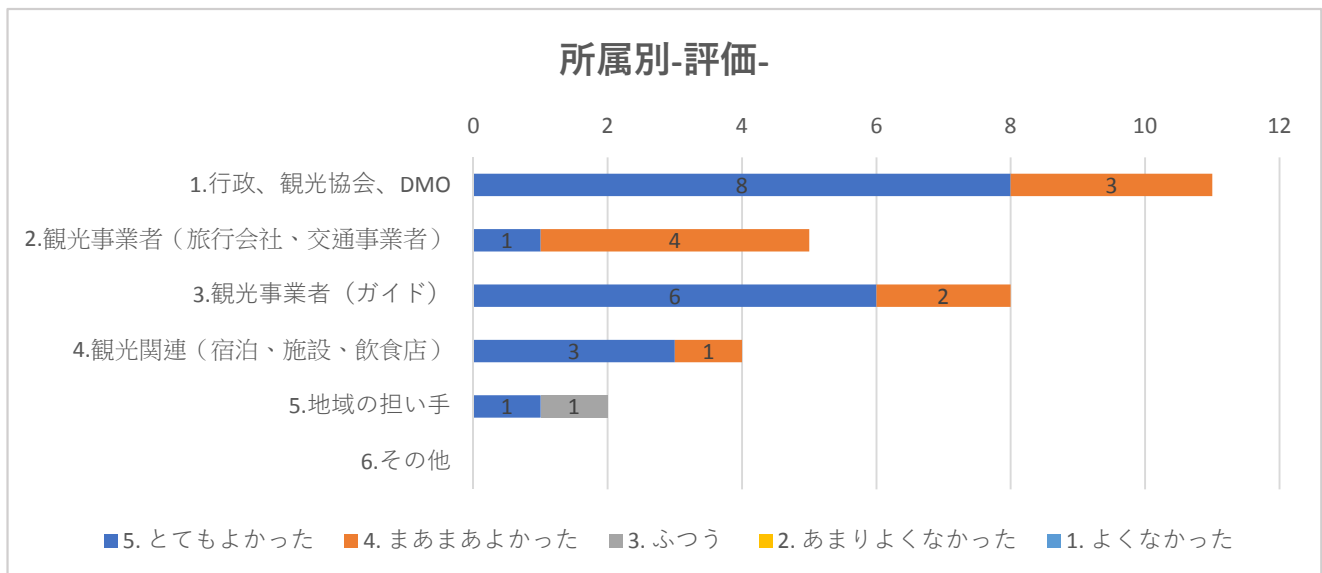
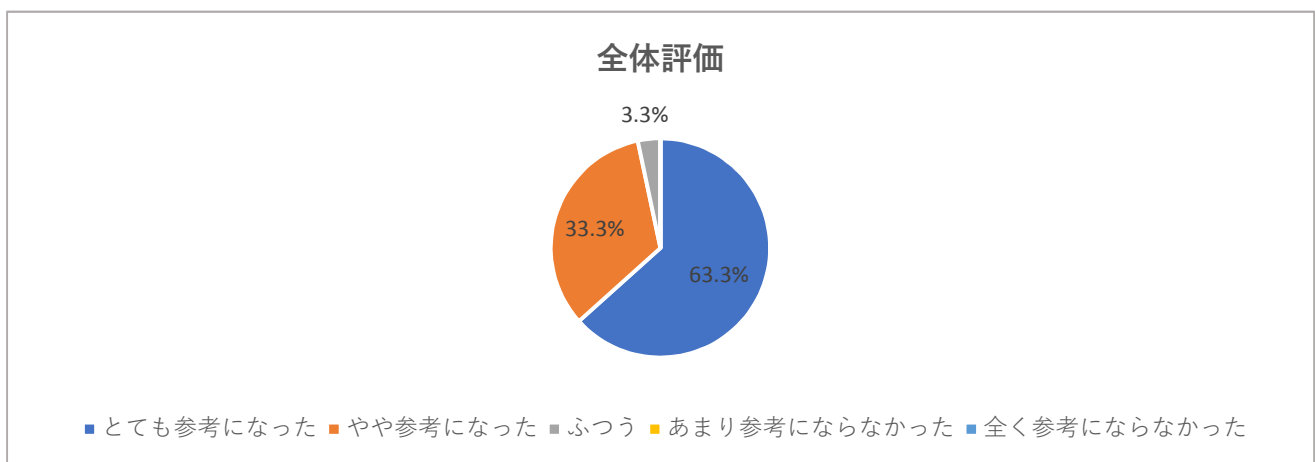
「ふつう」を選択した理由（自由記述）

- ・初めて会ったメンバーでは協力なリーダーシップをとることもできないため、それぞれに遠慮し
47
 それぞれのものになってしま

【白老会場】

設問2-(3)今日の全体を通しての感想

およそ96%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なイベントであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」や「参加者と情報交換ができた」「ATツアー造成について学ぶことができた」ことがあげられる。



【白老会場】

「とてもよかった」を選択した理由（自由記述）

- ・久しぶりにお会いできた人、名前は知っていけど初めて会う人がいて、とにかく人に会えるチャンスがいただけて良かった。
- ・ATツアー造成における考え方、組み立て方を学ぶことができて大変良かったです。
- ・テーブルのグループワークをすることで、各地域の話も聞けて良かったのと、ワークすることにより仲良くなれた気がします。参加させていただきありがとうございました！
- ・造成する楽しさもあり、また、色々な方と情報交換できてよかった。
- ・様々な分野の方とお会いでき、色々な視点もいただき、有意義な時間。
- ・知らない視点を見つけられた。
- ・地域のガイドの方々とつながれたのでよかった。
- ・横のつながり。プランの考え。
- ・勉強することがたくさんありました。

「まあまあよかった」を選択した理由（自由記述）

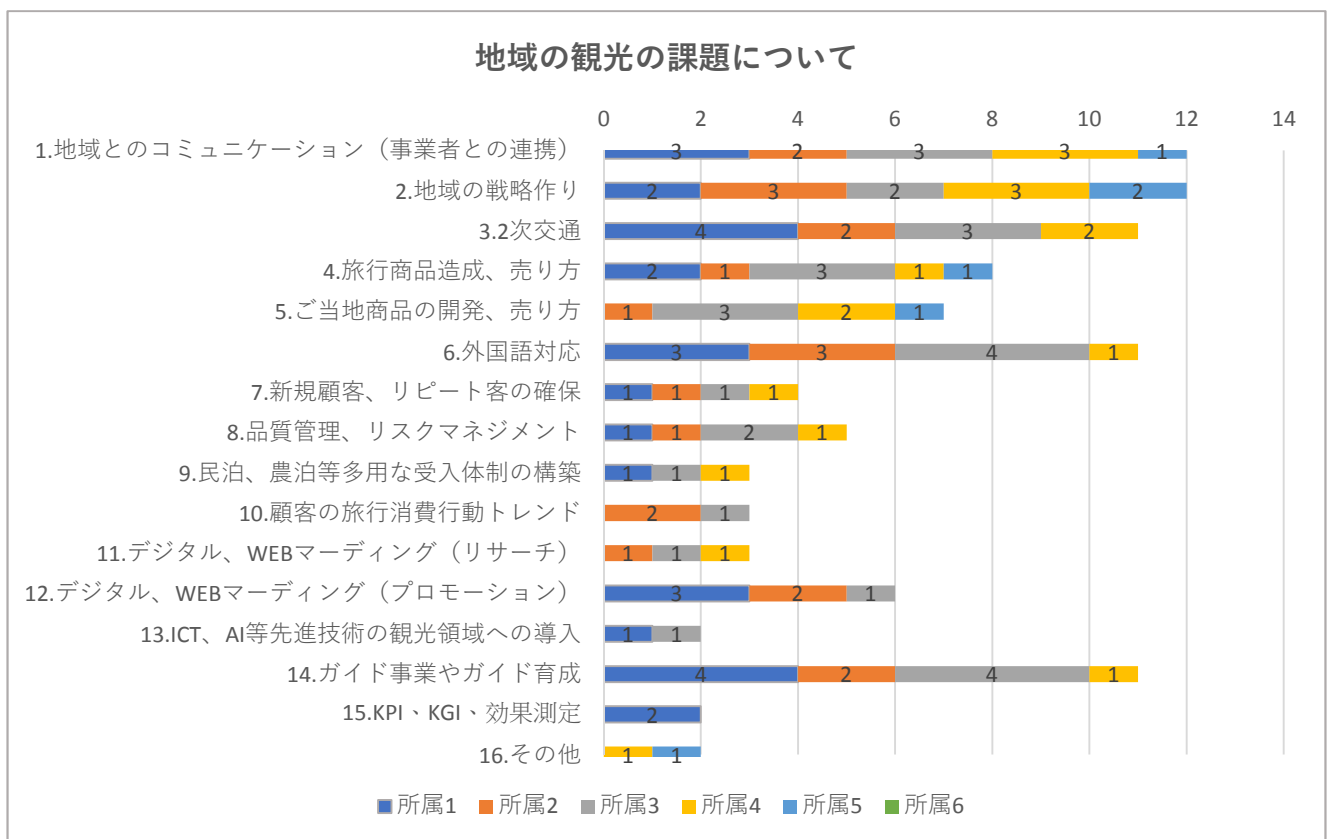
- ・ウィズコロナの中でも、人との話し合いは大変大切だと感じた。各地域、自治体のDEEPな部分も再発見できて良かった
- ・総じて、今までのプラン造成とは違った視点で考えることができ、勉強になりました。インバウンドだけではなく、国内旅行としても造成、転用できる部分もあると感じた。
- ・久しぶりのリアルな会議でアイデアが生まれました。
- ・新たな出会いがあり、地域の魅力にもふれることができた。
- ・講義とワークショップのバランスがよかったと思います。初めて会う方も多くいて、コミュニケーションをとることが出来て良かったです。
- ・今後、国内でATを普及する上で、ATTAの体験評価項目など、日本型（日本版）ATとしての解釈、解説や表か目標などがあってもよいのかもしれない。
- ・今回ZOOMで参加させていただいたので、一部音声聞こえづらいところがありましたが、ツアーデザインのコツも大変分かりやすく参考になりました。また、自然や異文化を通して心が満たされるツアーを検討していきたいと思います。

【白老会場】

設問3.地域の課題について

(1)気になっているキーワード、地域の課題である感じていることについて

およそ41%の参加者が地域の課題として「1.地域とのコミュニケーション(事業者との連携)」「2.地域の戦略作り」をあげた。また、およそ37%の参加者は、「3.2次交通」「6.外国語対応」「14.ガイド事業やガイド育成」を課題としてあげている。多数の参加者は、「事業者との連携」や、「地域の戦略づくり」に課題を感じていることが窺える。また、「外国語対応」や「ガイド育成」などの現場対応力や人材について、「2次交通」などのインフラについても課題に感じている。



【白老会場】

設問3-(1)その他の理由(自由記述)
・通訳 ・より多様なインフラ整備、信頼性の高い交通機関の充実
設問3-(2)地域の観光の課題についてその他(自由記述)
・スルーガイドの方たちがすばらしいというのはもちろんわかるのですが、個人的にはジオパークの審査で通訳がいたものの、英語で審査員と直接やりとりでき、評価されたこと、交流ができた経験があり、ローカルガイドが英語で話せるというのは実はPSAやDOAで大切だと思っています。豊浦町でも正直、英語が話せる人は少ないですが、スルーガイドがいるからいいやではなく英語でコミュニケーションがとれる人を増やすよう、英語でWSをしたり英語のミーティングや意見交換会もあるとうれしいです。(少しハードル高いですが…)。 ・国立公園化に伴う活用のための地域間連携

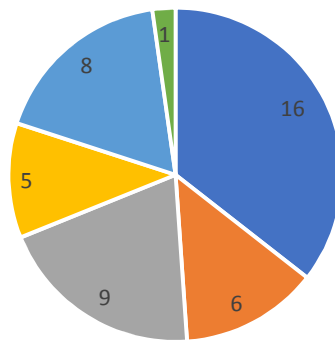
【弟子屈会場】

アンケートについては回答者数は45名となっており、この45名の回答を分母とし集計する。

設問1.参加者属性

参加者の所属は下記の通りとなっていた。行政、観光事業者を対象にしていたため、「1.行政、観光協会、DMO」とする回答が35.6%となっており、「2、観光事業者（旅行会社、交通事業者）」「3、観光事業者（ガイド）」の参加者については合わせて33.3%となった。

参加者属性一所属一



- 1、行政、観光協会、DMO
- 2、観光事業者（旅行会社、交通事業者）
- 3、観光事業者（ガイド）
- 4、観光関連（宿泊、施設、飲食店）
- 5、地域の担い手
- 6、その他

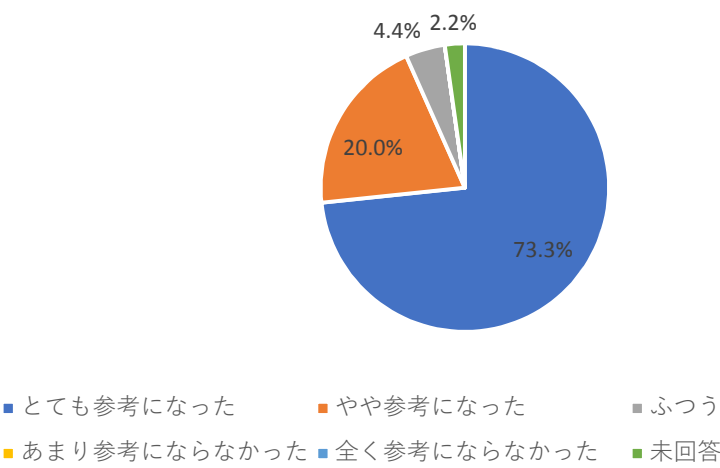
【弟子屈会場】

設問2.イベント参加の感想

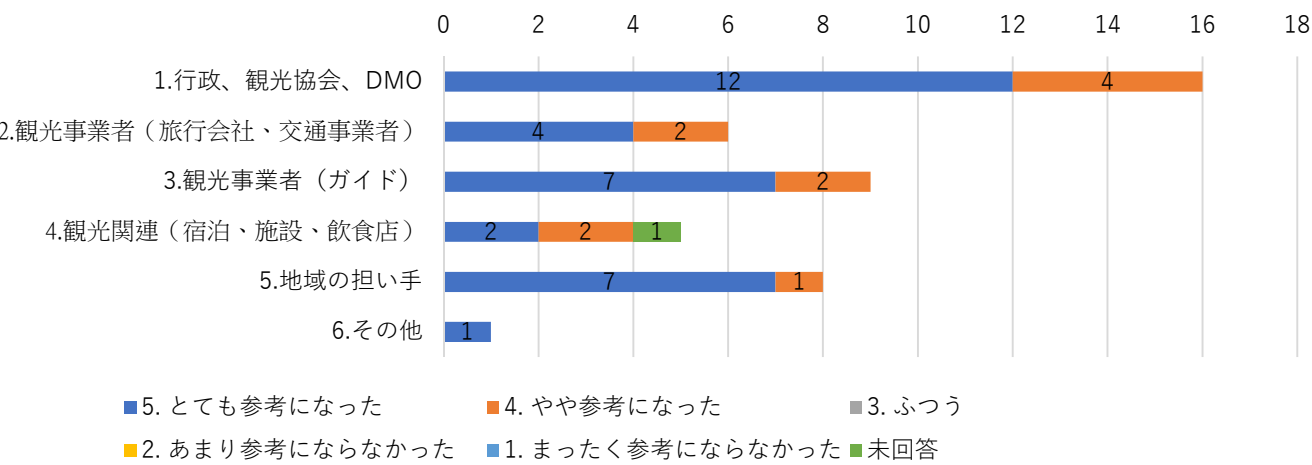
(1)「情報提供 アドベンチャートラベルとは/AT実践者の講演」の内容について

およそ93%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義な講演であったことが窺える。その理由として大まかに「ATマーケットについて理解できた」や「ATについて学ぶことができた」「荒井氏の講演がわかりやすく参考になった」ことがあげられる。

情報提供、講演内容について評価



所属別-評価-



【弟子屈会場】

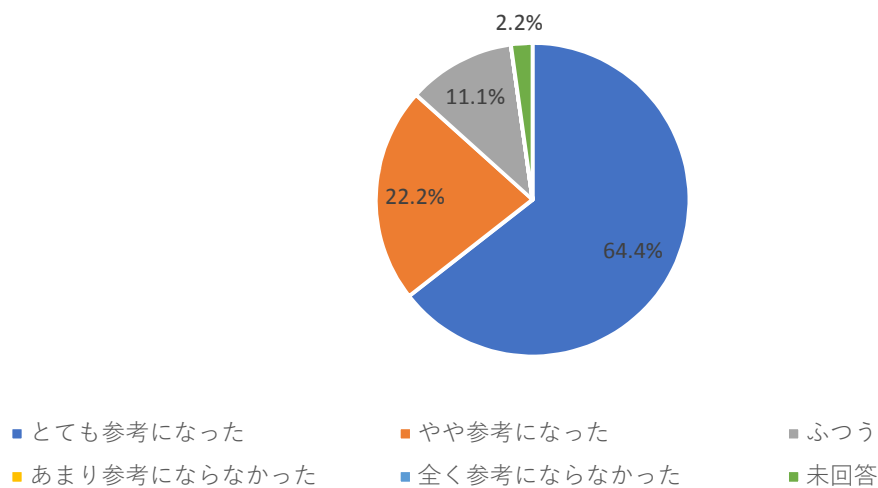
「とても参考になった」を選択した理由(自由記述)
・旅行業に関して初心者なのでとても勉強になりました。 ・ツアーデザインのコツが大変参考になりました。 ・荒井さんのお話は簡潔でとても分かりやすかったです。紙媒体でなく、データで配布することの重要性や利便性も勉強になりました。 ・ツアー造成に必要なTipsがわかった。 ・必要性を感じる事ができた ・ATマーケット全体図が良く分かった。 荒井さんのお話がとても参考になりました。 ・大変分かりやすい説明と資料でした ・理解が深まった ・ATのことを一から知ることができた。 ・内容が実例を基にとっても分かりやすかった。 ・トラベラーのデータなど具体的な数字が感じられたのでよく知らないジャンルの内容だったので
「やや参考になった」を選択した理由(自由記述)
・これまでアドベンチャートラベルについてあまり知らなかったので新しい知識を得ることができた。 ・大雪山ツアーの考え方などわかりやすく参考になった。

【弟子屈会場】

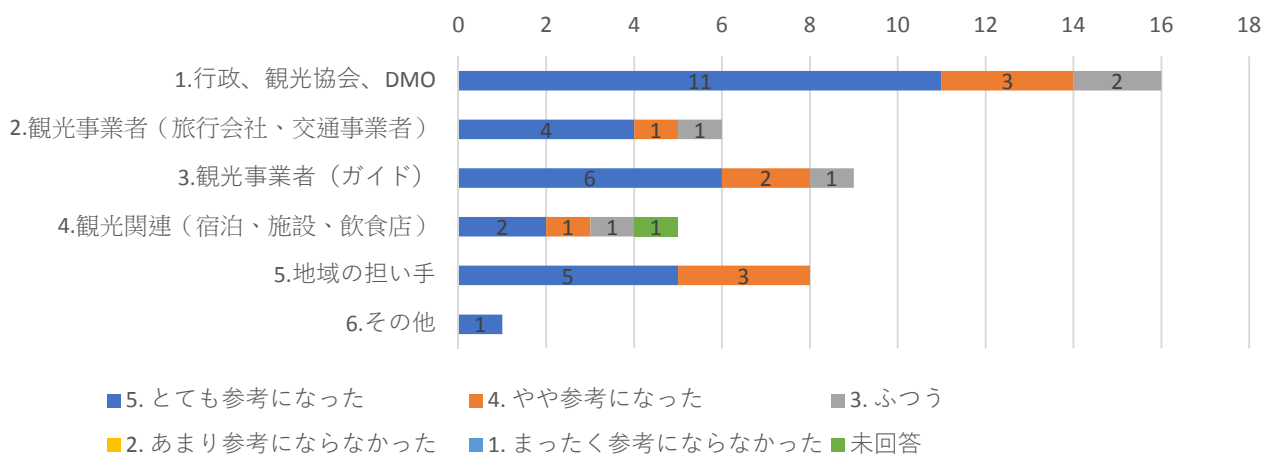
設問2-(3)ワークショップ「ATプラン商品造成」の内容について

およそ93%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なプログラムであったことが窺える。その理由として大まかに「参加者と情報交換ができて良かった」や「ワークショップで作ったツアーへのアドバイスが参考になった」「ツアー造成のポイントが学べた」ことがあげられる。

ワークショップについての評価



所属別-評価-



【弟子屈会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）
・色々な商品アイデアがあり参考になりました。 ・農園に体験商品を導入するにあたって非常に参考になりました。 ・チームで1つの企画を作り上げる難しさ、楽しさを学びました。 ・阿寒の隣町弟子屈川湯の魅力が深まった。 ・アイデアが人数が多く多様でいい刺激となった。 ・プラン造成の考え方、見方の違いがおもしろい。 ・新しい気づきが多く貴重な時間となりました。 ・とにかくチーム全員で知恵を出し合って楽しかった。 ・何がポイントになるのか、考えるまでのフレームとして役立つ ・ただし、時間がなくグループのプランを完成することはできなかった。 ・道東というひとくくりではなく、もう少し細かい分野や立場のプロの方々と情報交換やアイデアを共有することで、新しい発見と知っていることの再確認ができた。 ・自分では気づかなかった視点が多く発見でき、有意義でした。 ・実際にワークショップで作ったコンテンツに現場で知ったアドバイスを教えてくださったのが参考となりました。
「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）
・色々な意見交換ができて参考になった。 ・道東が一つになった ・それぞれのコンテンツは単品として完成したものとは思いますが、それをつなげるのは難しいと思いました。 ・プランを作るうえで肝になる部分を知ることができた。 ・実際にはATを理解した旅行会社、ガイドなど、みんなで作り上げることに難しいなと感じました。

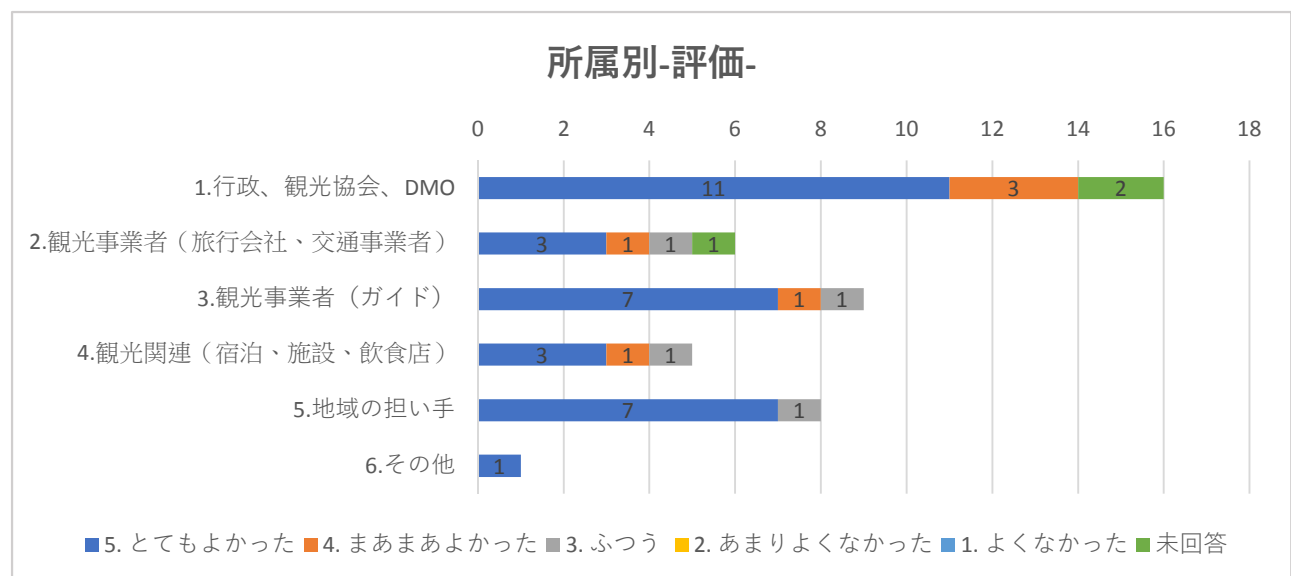
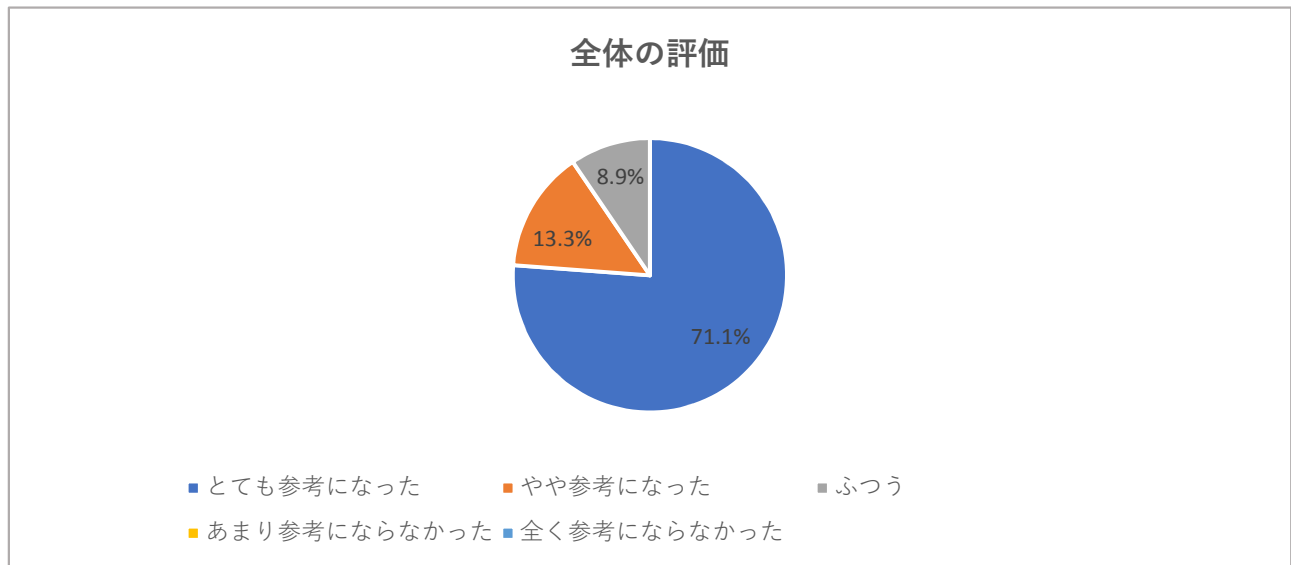
【弟子屈会場】

「ふつう」を選択した理由（自由記述）
・地域にある資源はいろいろあるとわかっているが、どのようにつなげていくかわからなかった。 ・時間が少なく感じました

【弟子屈会場】

設問2-(3)今日の全体を通しての感想

およそ96%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なイベントであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」や「参加者と情報交換ができた」「ATツアー造成について学ぶことができた」ことがあげられる。



【弟子屈会場】

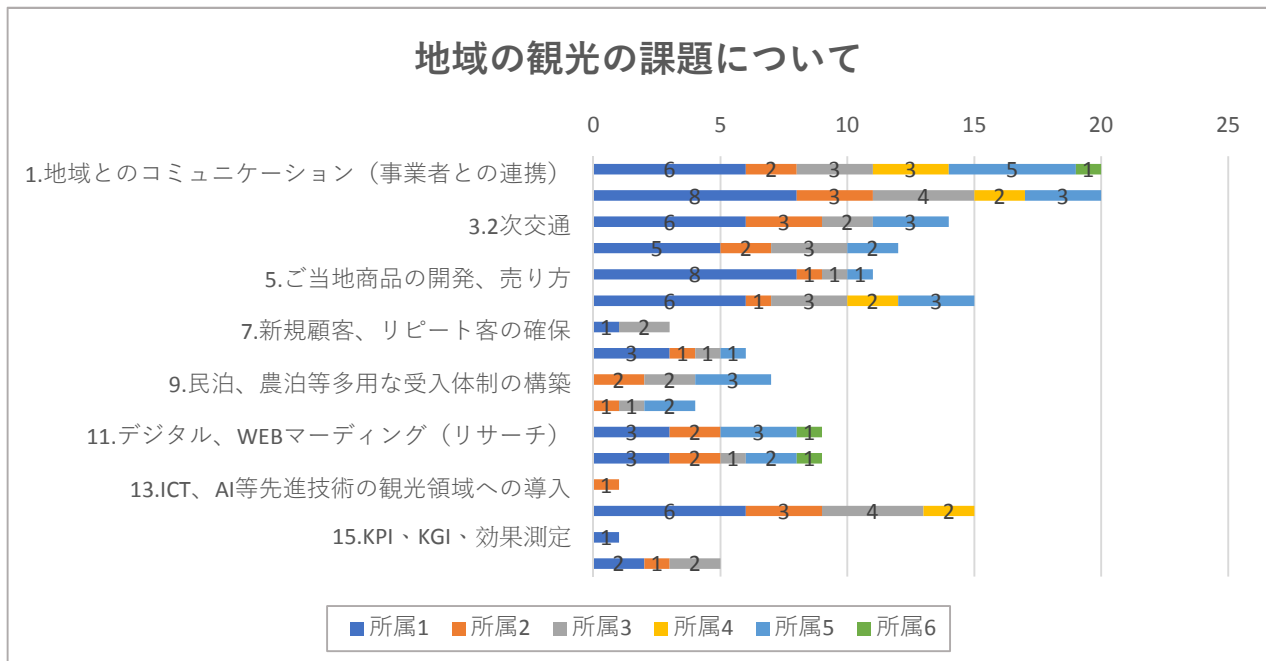
「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）
・他業種の方々と名刺交換できて良かったです。 ・人とつながること、情報を交えることができてとても良かったです。 ・たくさんの方々とごあいさつができ良かったです。とても勉強になりました。 ・ATプランが多様で良かった。 ・旅行づくりのコンセプトの考え方が分かりました。 ・経験をしたことない話を聞いた。 ・ネットワークが広がった。連携して色々やれそう ・スルーガイドの育成と海外の販路をどう作っていくかが課題かなと思いました。 ・他地域の方との観光に関しての意見交換できよかった。 ・講演を聞いて教えられたことをすぐにATプラン作りをして実践することで、記憶に残る内容になった。作られたものをガイドするだけではなく、実際プランニングを経験することで知識も増え、 発想力の刺激になった。 ・内容が充実していて、自分でもいろいろ想定しながら組み立てられました。まだまだ勉強が必要と実感。 ・今まで知らなかったことの理解を深めることができた。
「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）
・時間が少なく感じました。

【弟子屈会場】

設問3.地域の課題について

(1)気になっているキーワード、地域の課題である感じていることについて

およそ44%の参加者が地域の課題として「1.地域とのコミュニケーション(事業者との連携)」 「2.地域の戦略作り」をあげた。また、およそ33%の参加者は、「6.外国語対応」「14.ガイド事業やガイド育成」を課題としてあげている。多数の参加者は、「事業者との連携」や、「地域の戦略づくり」に課題を感じていることが窺える。また、「外国語対応」や「ガイド育成」などの現場対応力や人材について、「2次交通」などのインフラについても課題に感じている。



【弟子屈会場】

3-(1)その他の理由(自由記述)
・横のつながりを生かすことが大事だと思います。欧米系の方々が欲しいと思うお土産の開発 ・コロナ後のインバウンド客の獲得について ・入り込みの予想と価格設定(採算がとれるのか) ・外国語対応やホスピタリティ、wifi、カード決済含めた受け入れ体制
3-(2)地域の観光の課題についてその他(自由記述)
・新しい商品が欲しいということもあるが、いまある資源をどうアピールしていくかで観光業は盛り上がると思います。 ・取り組みや地域の素材があっても、プレイヤーの方々がどのようになっているのかわからない。 また(特に農業サイドからの観光へかかかわると)環境省、運輸局、開発局をはじめ、様々な組織で同様の取り組みをしており、何か大きな連携にならないのだろうかと思う日々です。 ・地域一丸となって取り組む必要がある。 ・来客と地域のギャップ

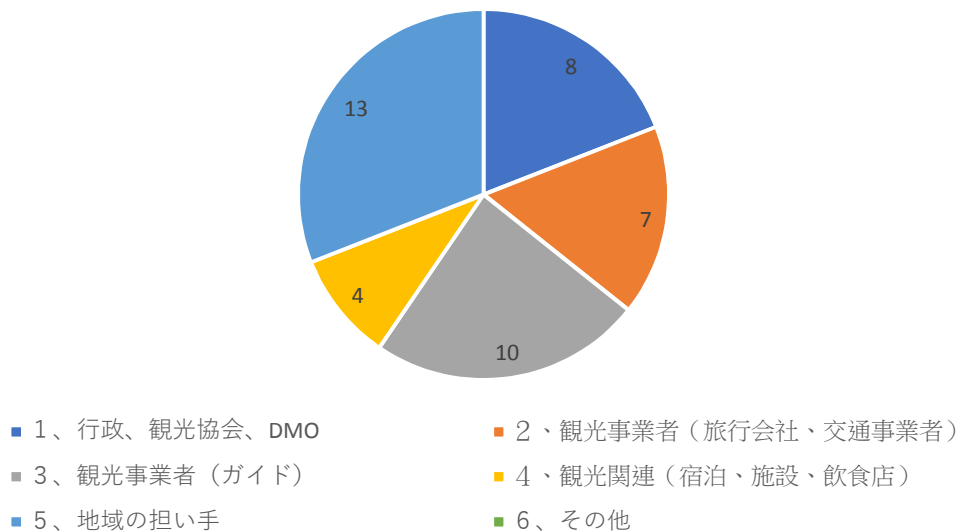
【ニセコ会場】

アンケートについては回答者数は42名となっており、この42名の回答を分母とし集計する。

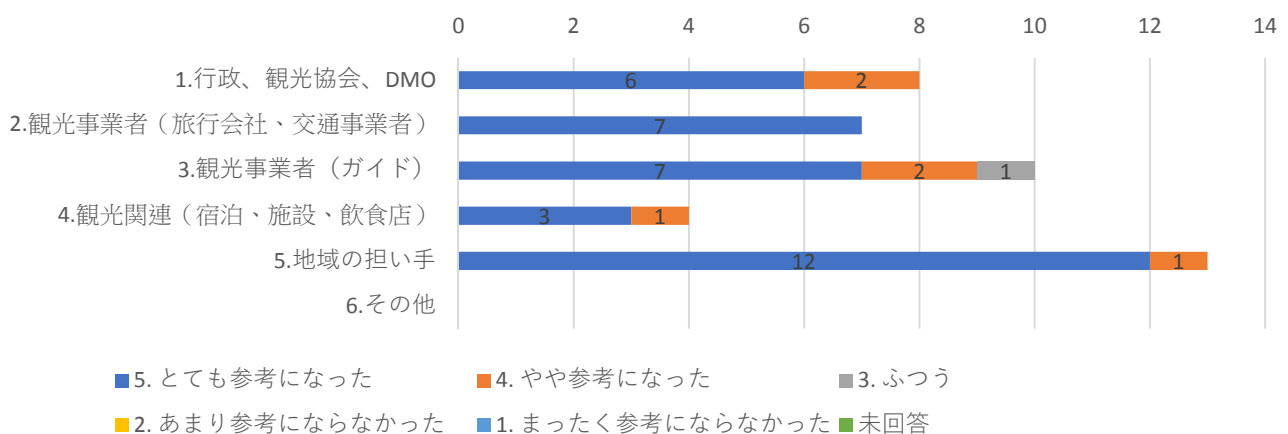
設問1.参加者属性

参加者の所属は下記の通りとなっていた。行政、観光事業者を対象にしていたため、「1.行政、観光協会、DMO」とする回答が19.0%となっており、「2、観光事業者（旅行会社、交通事業者）」「3、観光事業者（ガイド）」の参加者については合わせて40.5%となった。

参加者属性一所属一



所属別-評価-



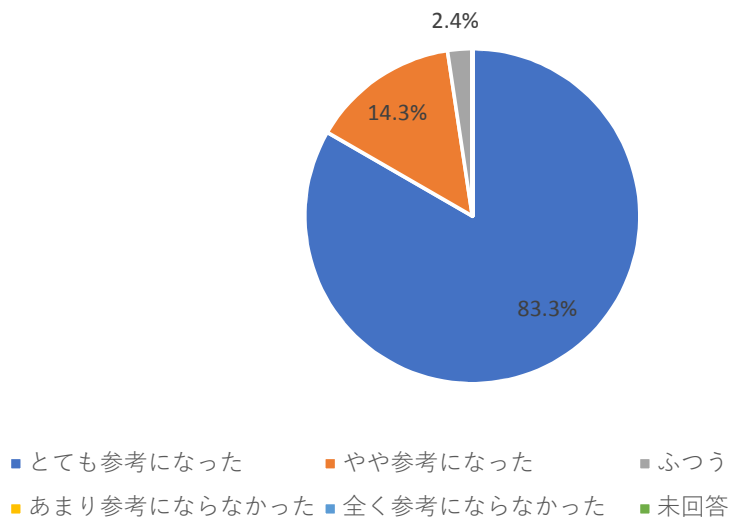
【ニセコ会場】

設問2.イベント参加の感想

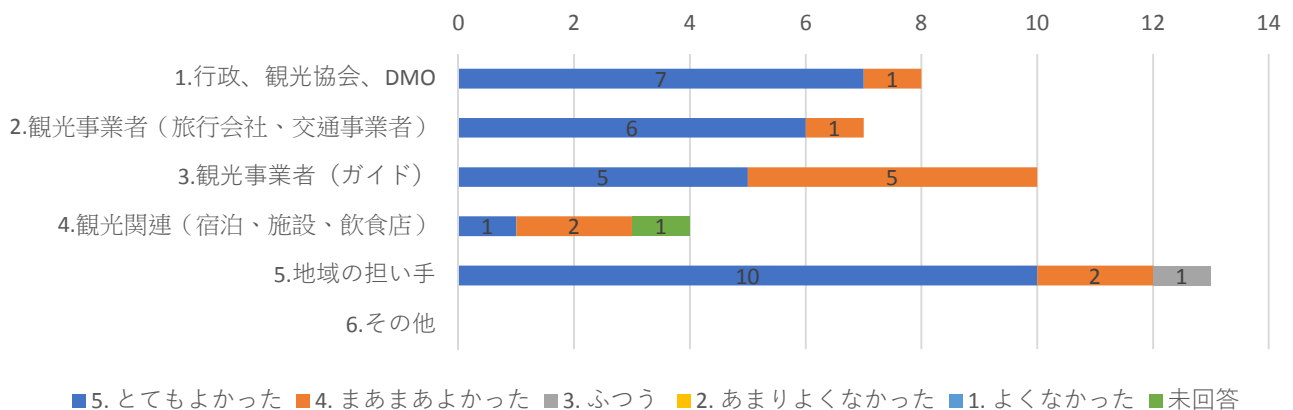
(1)「情報提供 アドベンチャートラベルとは/AT実践者の講演」の内容について

およそ97%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義な講演であったことが窺える。その理由として大まかに「ATについて学ぶことができた」や「実践者の話をきけて参考になった」「講演内容がわかりやすかった」ことがあげられる。

情報提供、講演についての評価



所属別-評価-



【ニセコ会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・馬上さんの実体験をかんだ話がとてもためになった。
- ・ATの人が何を求めているのかがわかった気がする。
- ・ガイドの重要性について、学ぶ事が多かった。
- ・実践者の話を聞いたのは、参考になりました。
- ・要所をおさえた説明で分かりやすかった。
- ・ガイドのプロから実践的なテクニックを学べた。
- ・ATとは何かということが良く分かった。外国の方が何を求めているのかがよくわかった事でツアーの造成の視点を変えることができた。
- ・”観光”というより地域を大切に。という想いがある人が多い事に感動しました。
- ・可能性の引き出し方を学ぶことができました。
- ・海外のお客様目線を参考に今後に役立てたい。
- ・実際にその分野で活動されている方の経験を元にお話しされていたのでとても勉強になった。
- ・ガイドの重要性、ありのままの日常体験を外国人が求めていることを知れた。
- ・実践的な内容で大変参考になった。
- ・馬上先生の説明が分かりやすい！ ガイドの視点からのATの説明が非常にわかりやすかった。
- ・ATの可能性を感じる事ができたから。
- ・ガイド目線でのツアー造成のヒントが充実していた。
- ・分かりやすい言葉でポイントを明瞭に話してくださった。
- ・とても分かりやすく、今までの受け入れの経験上からのインバウンドのリアルな意見を聞いた。
- ・自分が今まで持っていなかった視線を聞いた。

「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

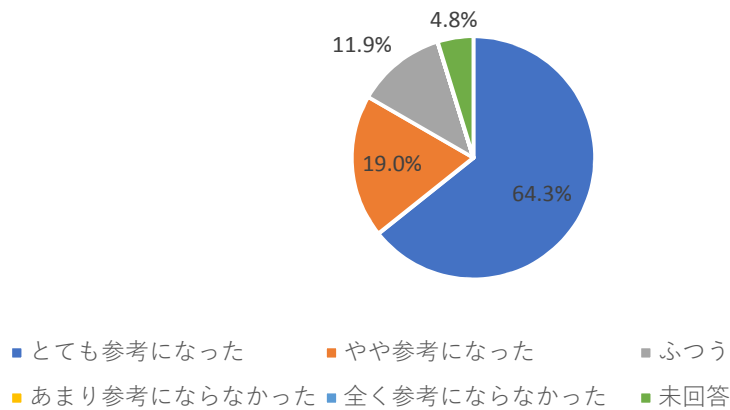
- ・ATの構成の仕方がよりわかった。
- ・「アドベンチャートラベル」が何かということを知ることができた。
- ・実践している人の話を聞く機会は普段あまりないので。

【ニセコ会場】

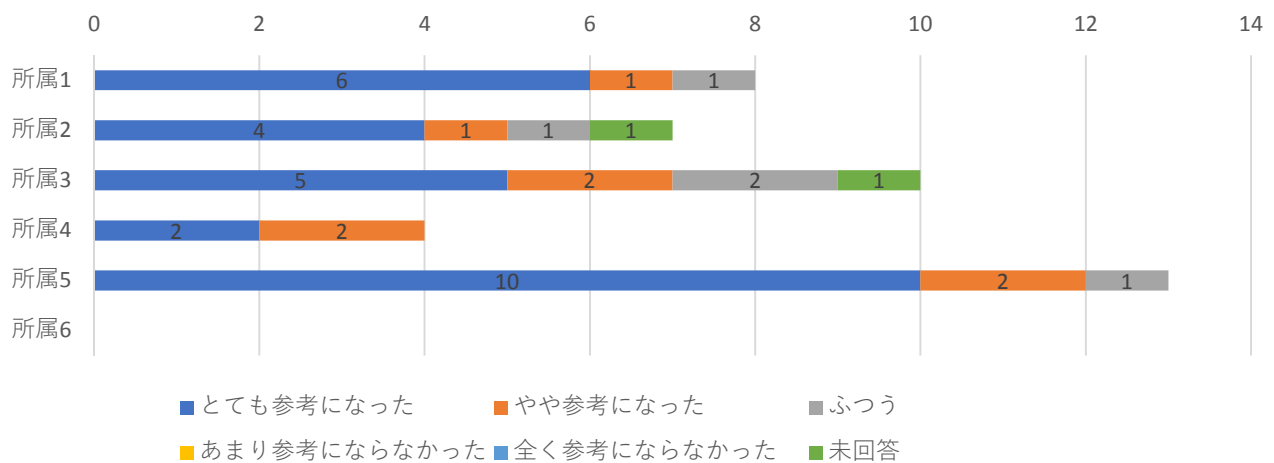
設問2-(2)ワークショップ「ATプラン商品造成」の内容について

およそ93%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なプログラムであったことが窺える。その理由として大まかに「他の参加者の意見が参考になった」や「他地域の魅力を知ることができた」「ツアー造成のポイントが学べた」ことがあげられる。

ワークショップについての評価



所属別 評価



【ニセコ会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・ほかの参加者さんの地域の魅力アクティビティをたくさん聞けて良かった。
- ・ストーリー性を持たせたプランを考えるのが難しかった。でも楽しみながら活動できた。他グループのプランもとても素晴らしく勉強になった。
- ・自分の地域の魅力を他地域の方からアドバイスを頂き、新しい発見、構成力を学べた。
- ・色んなプランが見れて良かった。
- ・漠然としていたプランが明確化できた。
- ・各市町村の持つ価値を知れて良かった。
- ・新たな視点でツアーを作りたいとワクワクしました。
- ・色々な業種の方々と考案することにより、つかむものが多かった。
- ・コンテンツ作成の時のポイントをわかりやすく学べた。
- ・それぞれの観光で人と農業、アクティビティの新たな集客方法があることに気づいた。
- ・色々な価値観や表現の仕方にふれることができました。
- ・他の方の考えも取り入れさせて頂けたこと。
- ・コンセプト、ターゲットの重要性を知りました。
- ・コンセプトをしっかりと決めると、色んなコンテンツがキレイにつながった。
- ・他グループの発表や、それに対してのコメントはとても参考になったし、これからのツアープラン構築にも活かしていきたいです。
- ・様々なエリア、職業の方の意見が参考になったから。

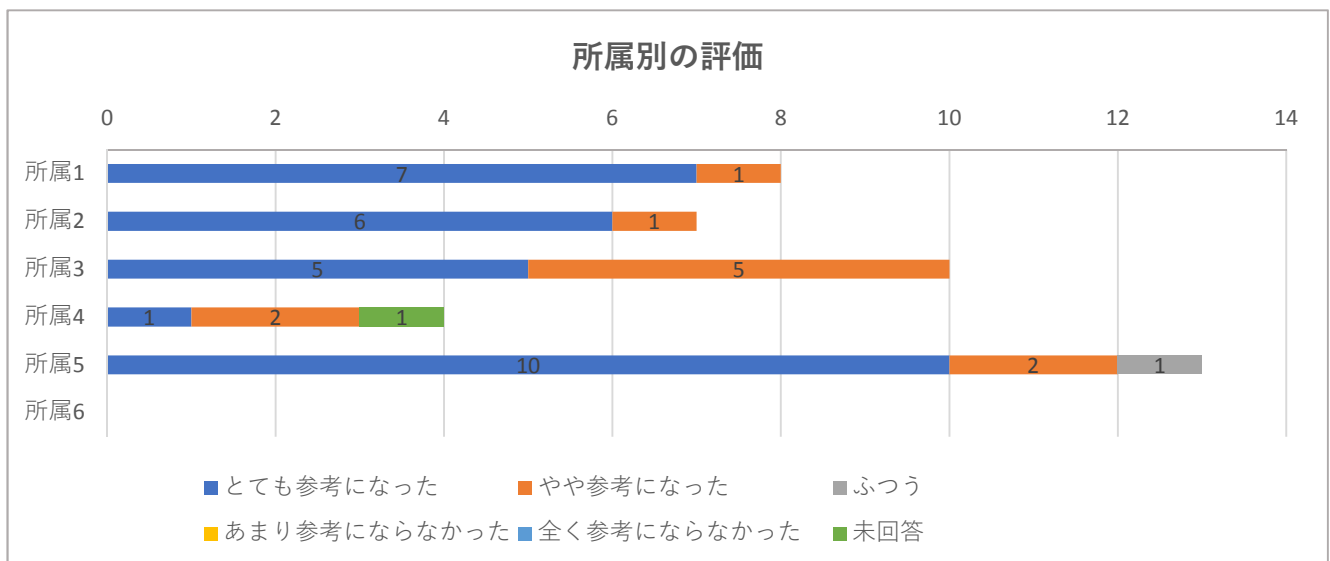
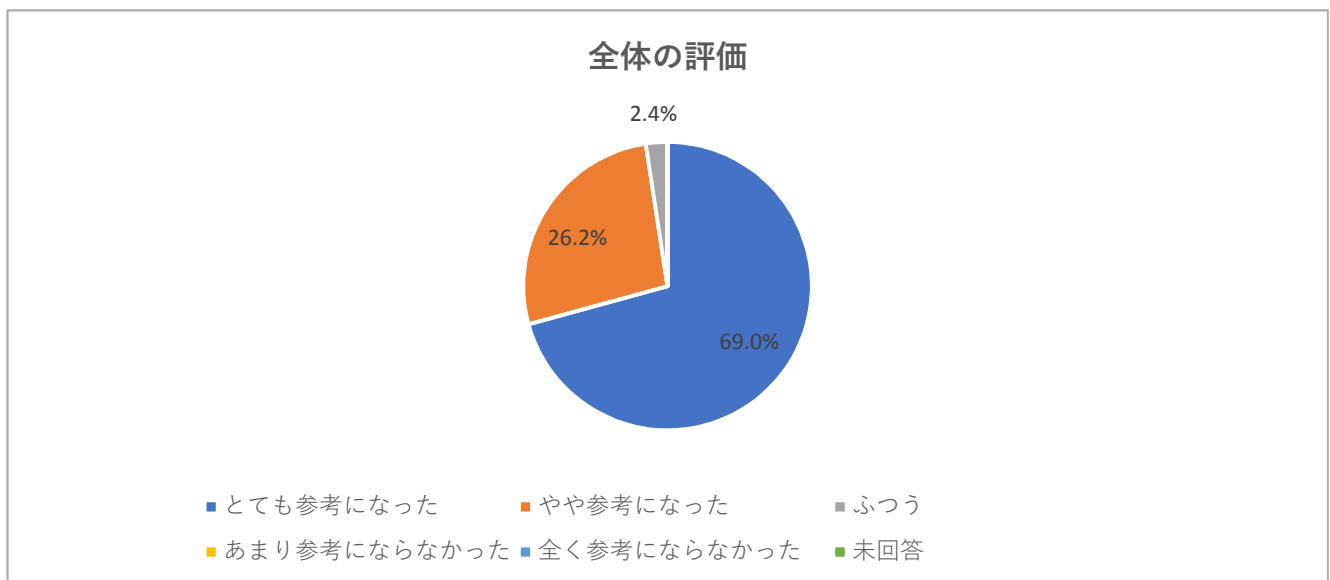
「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・沢山やりたい事、やれる事はあるが、メインになる物が必要でほかは軽い体験とふれあいが必要なのだったと思った。
- ・1つのアクティビティのみに携わっている所以他の目線から見る事ができた。
- ・1日目に参加者のスキルを見る。それを基に2日目以降のスケジュールリングを行うことが参考になった。また、詰め込みすぎてもダメ！
- ・内容は良かったが、まとめる時間が足りなかった。

【ニセコ会場】

設問2-(3)今日の全体を通しての感想

およそ96%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なイベントであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」「新しい気づきや学びがあった」「ATへの理解が深まった」ことがあげられる。



【ニセコ会場】

「とてもよかった」を選択した理由(自由記述)

- ・どの班のツアーもとてもコンセプトが良くて、最後の発表がとても面白かった！もっと時間欲しかったです。
- ・横のつながりができ、色々な情報交換ができ、とても充実した会でした。
- ・横のネットワーク作りができた。
- ・たくさんの人との交流と縁につながったこと、そして新しいツアー造成は”なるほど”がたくさんあってとても参考になりました。
- ・横のつながりですね！
- ・様々な地域と業種の人と出会えて今後につながった。
- ・自分自身にもスキルや知識が増えて参考になりました。
- ・活発な交流の場になった。
- ・学ぶこと、得るものが大きかったと思います。
- ・漁業の新たな可能性を感じました。
- ・様々な気づきを得ることができた。
- ・他業種の方々と話しでき、教わることが多く有意義でした。
- ・他の観光業の方と交流を図ることが良かった。ATへの理解を深めることができた。
- ・知らない事を知る事が出来た。
- ・色々な地域、事業の方の話を聞いて興味深かった。

「まあまあよかった」を選択した理由(自由記述)

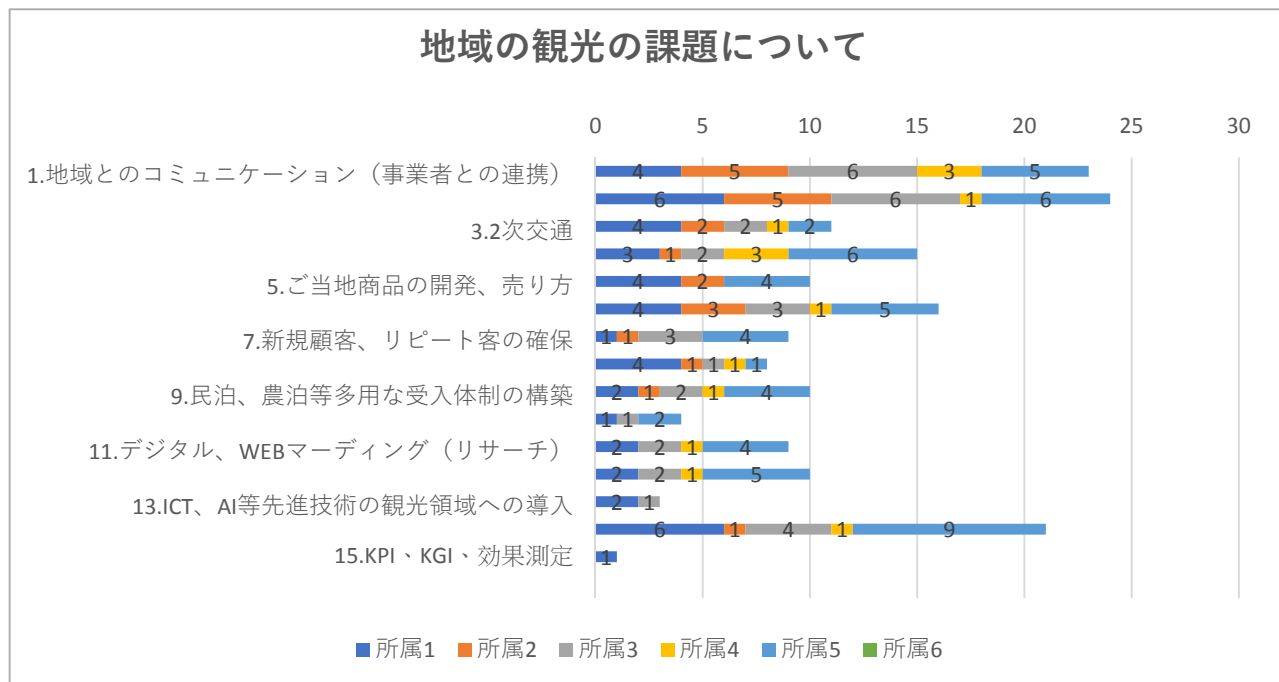
- ・ATを知れた。
- ・様々な業種の方とお話もでき有意義でした。
- ・観光業界初心者なので、地域特性を活かしたプランをつくることや、他の方々との交流の場ともなっていていい機会を頂けました。
- ・今日の講演や異業種交流をした中で少し明るさ、希望を感じる事が出来たのが収穫。
- ・短い時間の中で今後参考にしたいポイントをととても分かりやすくまとめていただいていたので、とても参考になりました。

【ニセコ会場】

設問3.地域の課題について

(1)気になっているキーワード、地域の課題である感じていることについて

およそ57%の参加者が地域の課題として「2.地域の戦略作り」をあげた。また、およそ54%の参加者は、「1.地域とのコミュニケーション(事業者との連携)」を課題としてあげている。多数の参加者は、「事業者との連携」や、「地域の戦略づくり」に課題を感じていることが窺える。また、「外国語対応」や「ガイド育成」などの現場対応力や人材について、「旅行商品造成、売り方」についても課題に感じている。



設問3-(2)地域の観光の課題についてその他(自由記述)

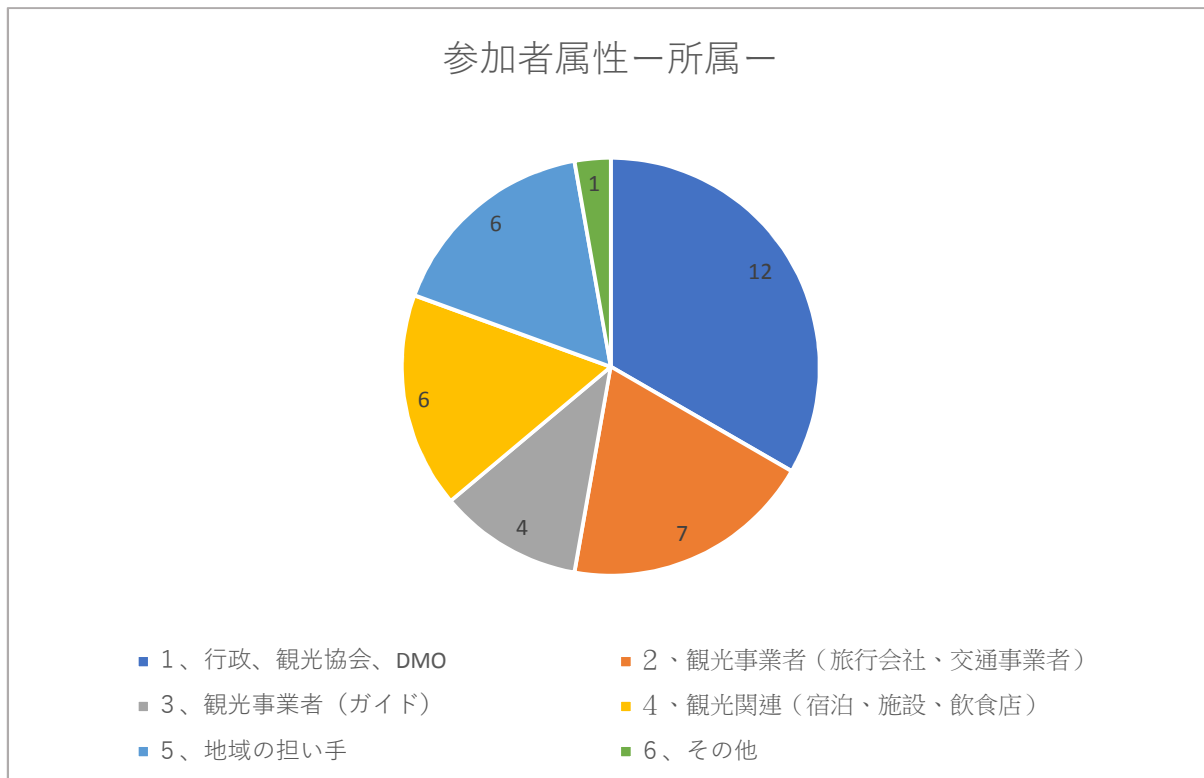
- ・ガイド育成、創出するためには、国や地方自治体が道アクションすればいいのを知りたい。
- ・英語のトレーニングがしたいです。
- ・これから地域をどうしていきたいか。当事者意識を持って自ら動いている人が圧倒的に少ない。

【旭川会場】

アンケートについては回答者数は36名となっており、この36名の回答を分母とし集計する。

設問1.参加者属性

参加者の所属は下記の通りとなっていた。行政、観光事業者を対象にしていたため、「1.行政、観光協会、DMO」とする回答が33.3%となっており、「2、観光事業者（旅行会社、交通事業者）」「3、観光事業者（ガイド）」の参加者については合わせて27.8%となった。

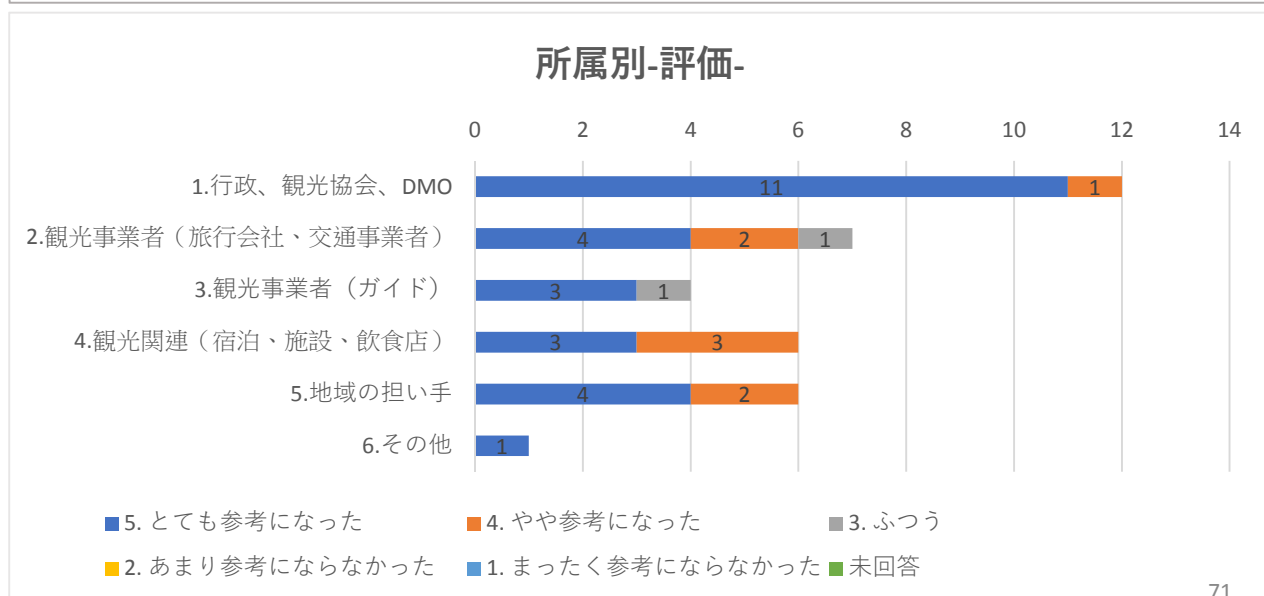
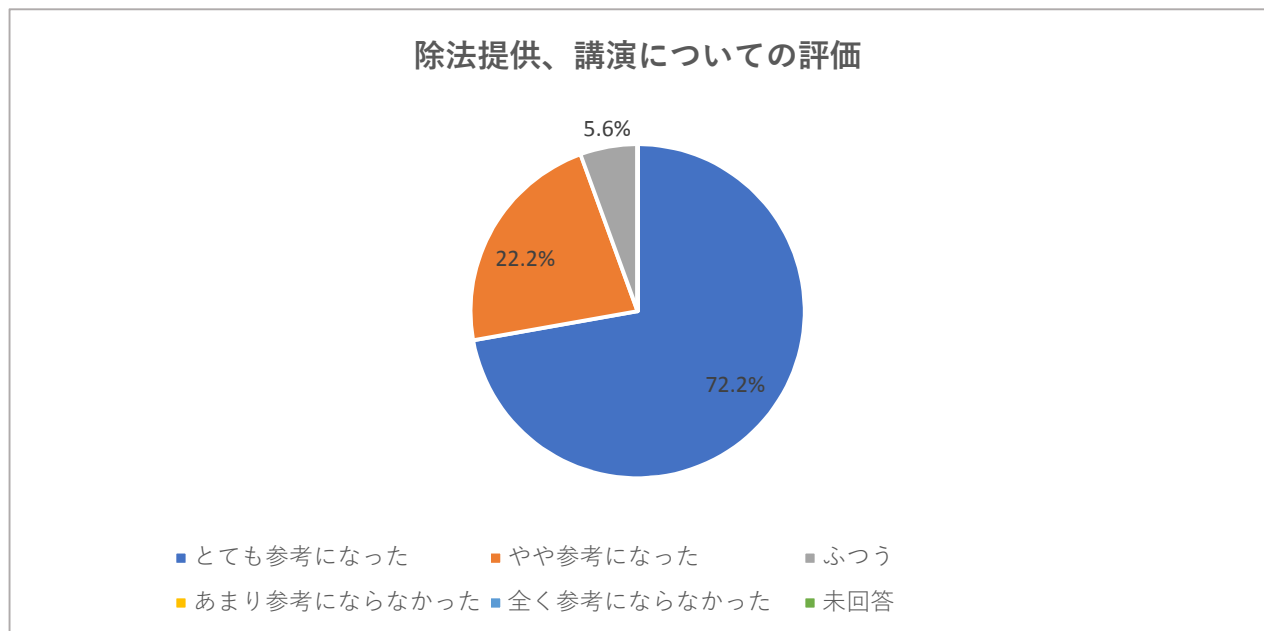


【旭川会場】

設問2.イベント参加の感想

(1)「情報提供 アドベンチャートラベルとは/AT実践者の講演」の内容について

およそ94%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義な講演であったことが窺える。その理由として大まかに「ATについて理解が深まった」や「実践者の話が参考になった」「新しい気付きがあった」「不明点が解消された」があげられた。



【旭川会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・ほかのAT関係の説明会やミーティングではあまり自己変革やガイドが行うべき課題として挙げられた事項について重点的に説明がなかったので、今日はアドベンチャートラベルについて理解が進んだ。
- ・必要書類について詳しく教えて頂き、必要であればデータを共有していただけるとのコメントは嬉しかった。英語の書類はあまり共有して頂けないので、お気持ちがありがたいと思った。
- ・阿寒の実例を伺えてよかったです。
- ・ATの構成要素の理解が深まった。
- ・ATの魅力や考え方について理解が深まりました。
- ・沢山のヒント、keywordをもらえた。SOP、MIC、Less is more
- ・あらためてATについて理解することができた。
- ・今の旅行のトレンドが分かった。
- ・ATについてよく分かりました。
- ・ガイドの重要性について。
- ・ATについてよりリアルに感じる事ができた。
- ・実践者ならではの生の情報が役に参考になりました。
- ・すでに実践している方の話は参考になった。
- ・実際の現場のお話を聞くことで、具体的な取り組みを知る事ができた。
- ・新しい観光の形態に気づかされた。環境負荷の少ない観光振興の可能性について糸口が見つかった。

「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

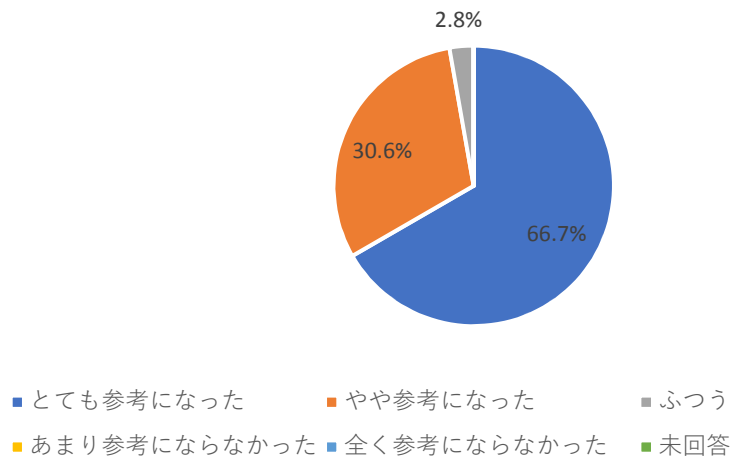
- ・実践する上での注意事項など。
- ・ATはこうやっているといたことが少しわかったと思う。
- ・現在の業務の上で不明点だった部分が解消されました。
- ・ATを受け入れるにあたって書類などの充実が重要であることは知らなかったなので、新しい発見だった。

【旭川会場】

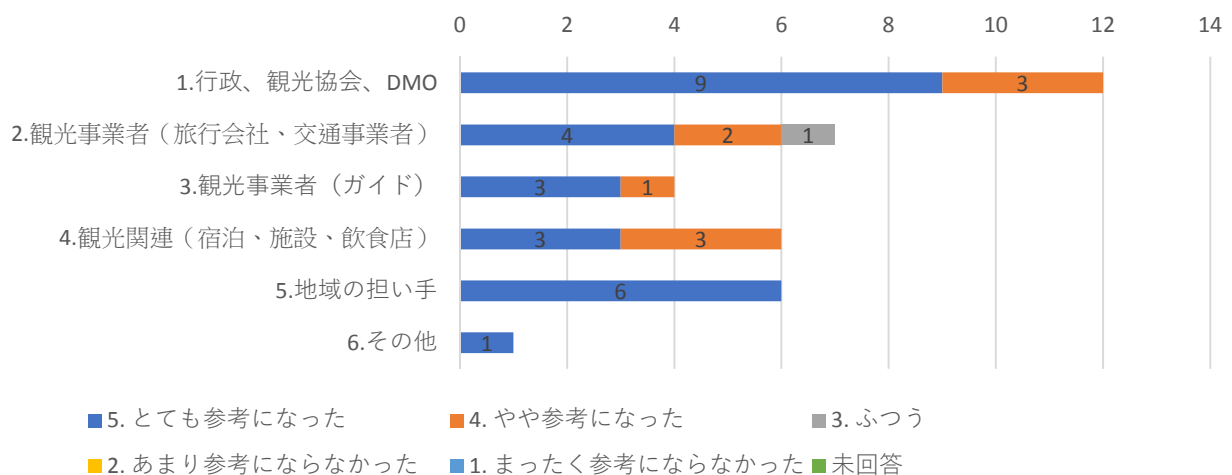
設問2-(2)ワークショップ「ATプラン商品造成」の内容について

およそ97%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なプログラムであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との交流ができた」や「他の参加者の意見が参考になった」「他地域の観光資源の情報を知ることができた」「ATについて学ぶことができた」ことがあげられる。

ワークショップについての評価



所属別-評価-



【旭川会場】

「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）

- ・普段お会いすることのない方々と一緒に作業できて良かったです。
- ・他地域の観光資源情報を知る事ができた。
- ・思っている以上にもっとゆっくりとした「旅」の楽しみ方の提案必要だ。
- ・実際にATに取り組んでいる中での見える展望など共有できた。
- ・各地の参加者と自由な討論ができた。
- ・他の地域の例を聞いて、どうしたら良いAT商品を考えられる。
- ・お客様に「ウォ」と言ってもらえるヒントがあった。
- ・短時間でしたが、実現できて勉強になりました。
- ・様々な人の考えやアイデアを聞いた。
- ・ツアーの作成の仕方、AT要素の盛り込みなど、絞り込みなど参考になりました。
- ・いろいろなジャンルの方の考えに触れることで、自分にはない発想を得られた。
- ・他のチームの方のプランを見て、1つの対象でも異なる切り口で様々な旅行商品になり得ることを改めて感じた。旅行会社としてどういう切り口を持っているのか、視点の多様さが大切だと思った。
- ・他地域の観光資源がわかった。
- ・他の地域から見た我が町の魅力について再考する必要に気づかされた。検討の時間及びプレゼン時間が足りなかったが、ワークショップとしては良かったのではないかと。旅行社なり交通関係事業者も交えて行いたかった。

「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）

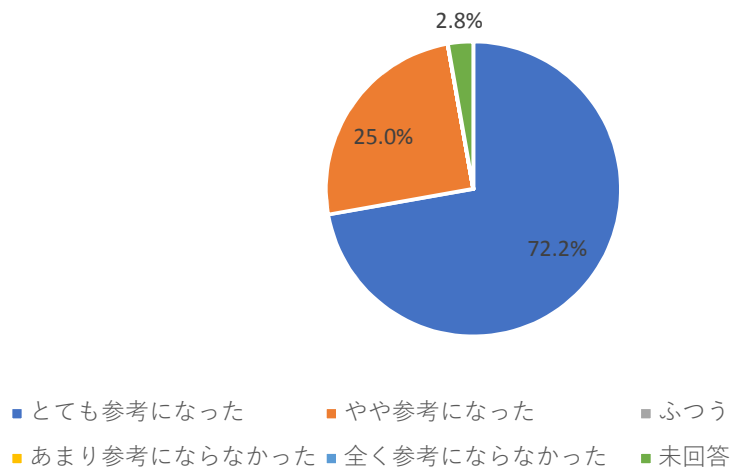
- ・ワークショップ形式で行うことで各人が想定していない新しいアイデアが生まれたのが良かった。
- ・参加者、各人のフィールドについて知ることができた。交流ができて良かった。
- ・水にフィーチャーして行っただが、同じチームの人々のどんどん出来るアイデアにびっくりしました。コンテンツの絞り込み方、Why、Because、勉強になりました。
- ・選択、理由、テーマなど重要性を感じた。
- ・他業種との交流

【旭川会場】

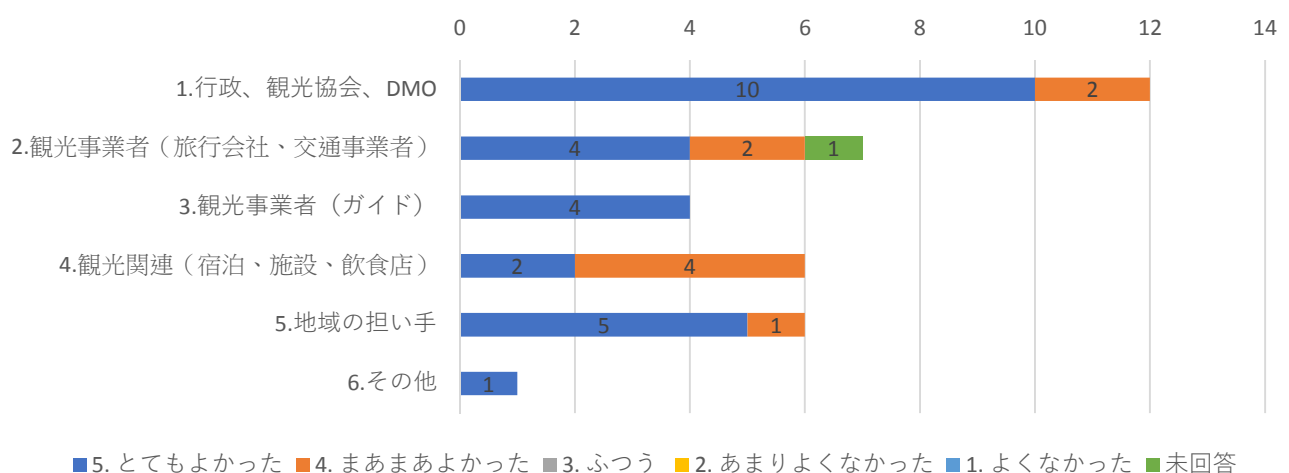
設問2-(3)今日の全体を通しての感想

およそ97%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なイベントであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」や「参加者と情報交換ができた」「ATツアー造成について学ぶことができた」ことがあげられる。

全体の評価



所属別-評価-



【旭川会場】

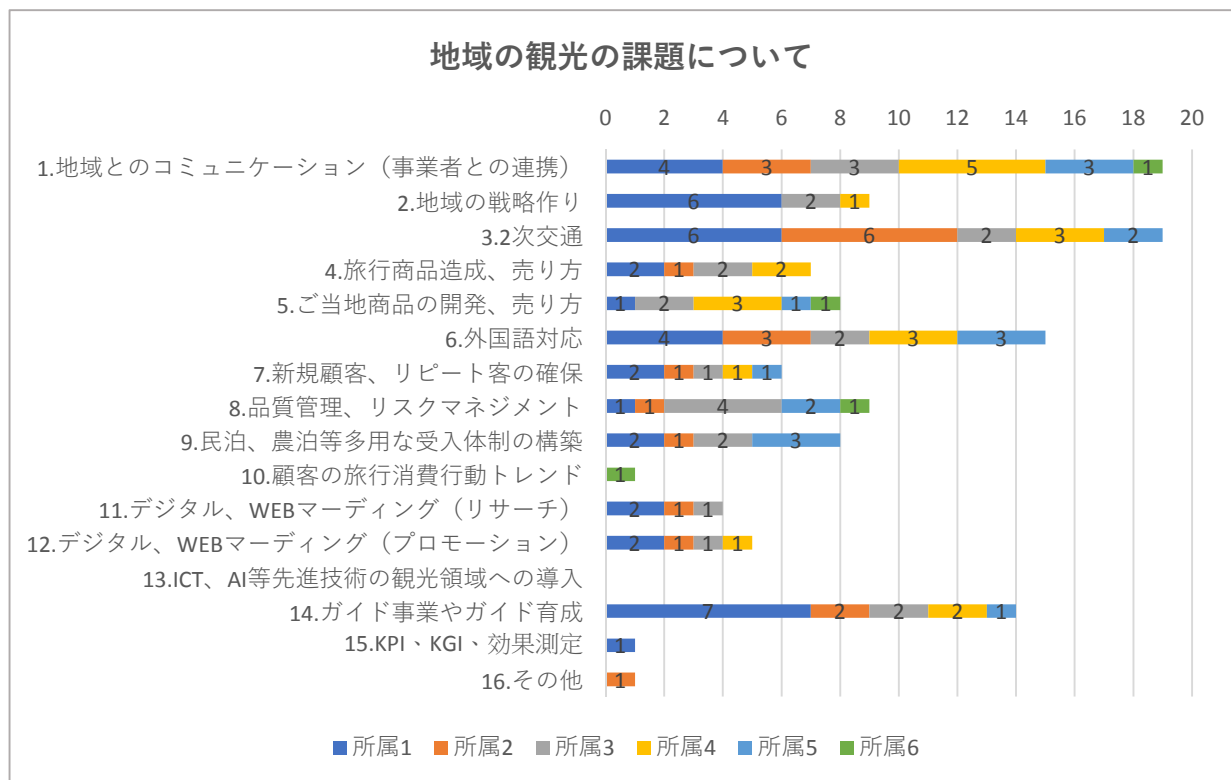
「とてもよかった」を選択した理由（自由記述）
・アドベンチャートラベルの必要な要素をしっかりと確認することが出来た。 ・エキサイティング ・普段接することのない方々と交流、意見交換出来て良かったです。 ・地元の方の意見を生で聞いたこと。 ・コロナ禍でなければ、もっと打ち砕けたと思う。 ・テーマを絞って話すことができた。 ・多くのネットワークを構築できた。 ・今後、ATを推進するにあたり、注意すべき点を学べた。素材はあるが、ストーリー性を持たせてガイドできる人材、地域コーディネーターの重要性。 ・アドベンチャーについてコンテンツを考える上にみなさんの意見がとてもおもしろく感じました。 ・ATへの理解が深まった。 ・いろいろ頑張っている人たちと交流できた。 ・参加者による情報交換ができ、今後における新たなネットワークができそうです。 ATに対する知見が未だ乏しいのですが、これを機に取り組める目処がつけました。
「まあまあよかった」を選択した理由（自由記述）
・ATを実践するにあたり、関係者、協力者を増やしていくことの重要性を再認識できました。実際に商品化していく際に規制などでハードルが生じてくるので、そのあたりの理解を関係者全体で共有していくことが課題になりそうと感じました。 ・色々な人とつながりができた。視野が広がった。 ・もっと時間をかけてやりたかった。 ・関係者どおしの連携強化という目的は達成できたと感じる。その意味ではワークの総評が若干厳しく感じました。

【旭川会場】

設問3.地域の課題について

(1)気になっているキーワード、地域の課題である感じていることについて

およそ52%の参加者が地域の課題として「1.地域とのコミュニケーション(事業者との連携)」
「3.2次交通」をあげた。また、およそ41%の参加者は、「6.外国語対応」を課題としてあげている。
多数の参加者は、「事業者との連携」や、「2次交通」に課題を感じていることが窺える。また、「外国語対応」や「ガイド育成」などの現場対応力や人材についても課題に感じている。



【旭川会場】

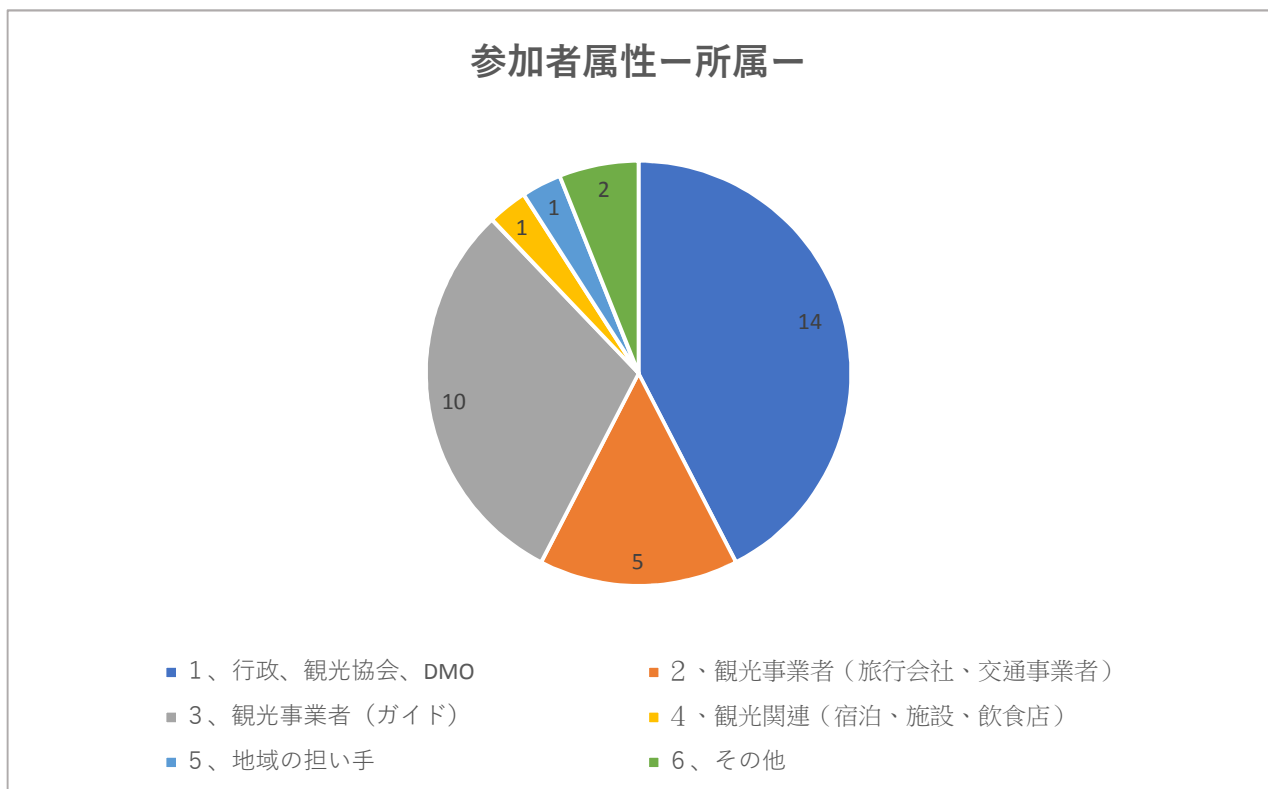
3-(1)その他の理由(自由記述)
・お客様の関心ごとを知る。事業者とお客様ののミスマッチを減らす。
3-(2)地域の観光の課題についてその他(自由記述)
・これから町の観光をどうするかをちゃんと考えていかなくてはなりません。 ・リピート客を増やすための方策としてATは有効な手段となりうるが、人材の育成に課題がある。 また地域住民の理解を醸成するための方策が課題であり、利益配分をしっかりとしなければ協力は得にくい。 ・区間、登山道が修復されればその人がリピーターとして、同じ場所に次に来て修復された登山道を見ることができればより感動できるコンテンツになると思います。

【帯広会場】

アンケートについては回答者数は33名となっており、この33名の回答を分母とし集計する。

設問1.参加者属性

参加者の所属は下記の通りとなっていた。行政、観光事業者を対象にしていたため、「1. 行政、観光協会、DMO」とする回答が42.4%となっており、「2、観光事業者（旅行会社、交通事業者）」「3、観光事業者（ガイド）」の参加者については合わせて45.5%となった。



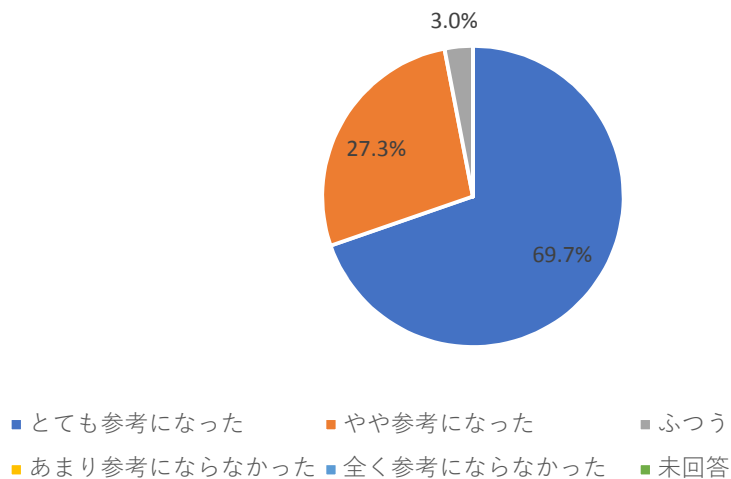
【帯広会場】

設問2.イベント参加の感想

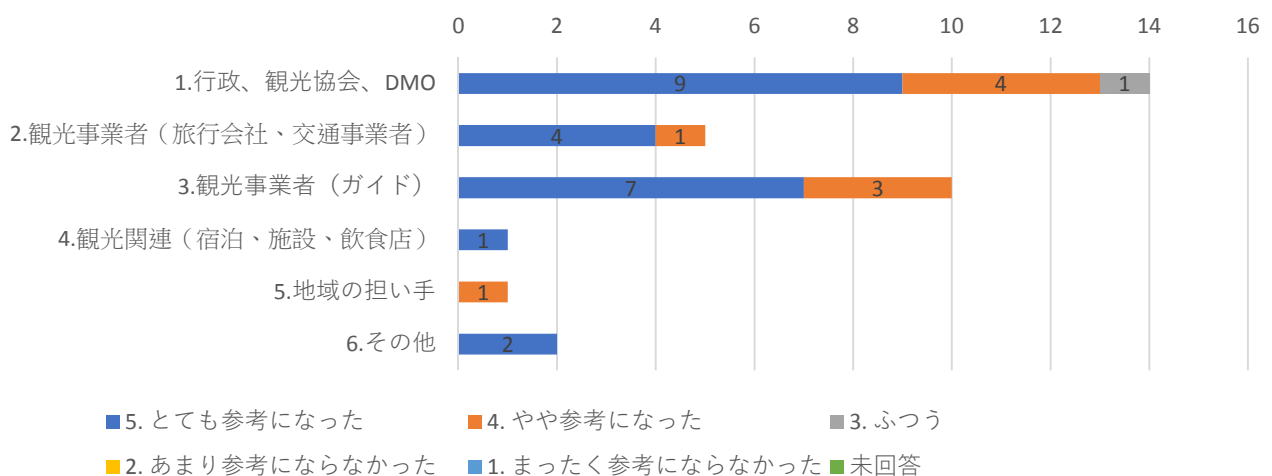
(1)「情報提供 アドベンチャートラベルとは/AT実践者の講演」の内容について

およそ97%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義な講演であったことが窺える。その理由として大まかに「ATについて理解が深まった」や「実例が参考になった」「新しい気付きがあった」があげられた。

情報提供、講演内容についての評価



所属別-評価-



【帯広会場】

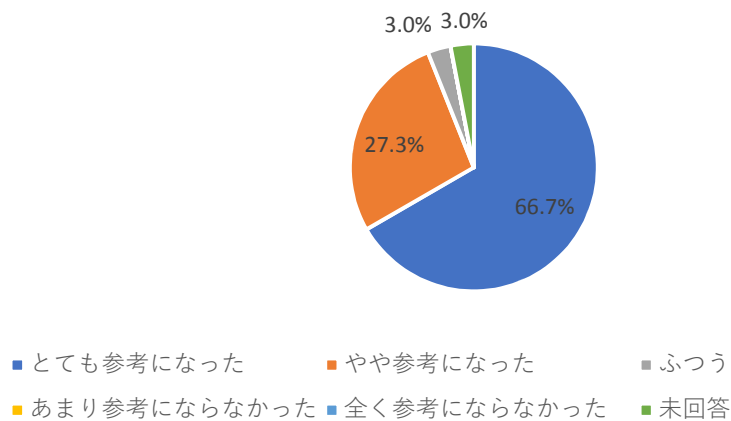
「とても参考になった」を選択した理由（自由記述）
・初めて知る内容も多く参考になった。 ・ATとは何かということをはじめて知ることができました。 ・様々な方の話が聞けた。 ・アドベンチャートラベルの必要な要素をしっかりと確認することが出来た。 ・地域の人材をつなぐ大切さがわかりました。 ・他地域の案が参考になった。 ・実例を聞いて具体的なイメージがわいた。 ・机上では理解できなかったことが実例を通して明確になった。 ・ATの具体的な商品造成にあたり、実践者の実例を伺うことができ、イメージが湧きました。 ・実例を参考で本地域のコンテンツを考えるに役立つようです。 ・準備をすすめる地域にとっての”どこまでやればよいか”が理解できた気がする。 ・ATの基本がわかった。 ・北海道全体の方向性が分かった。 ・商品開発における考え方を確認することができた。 ・ATに関心がありましたが、具体的な検討が困難でした。今回のミーティングにおいて何が求められているのかがよく分かりました。
「やや参考になった」を選択した理由（自由記述）
・黒松内で実践された際の工夫、苦労が伝わり参考になりました。 ・実践者の講演なので参考になった。 ・海外の成功事例やそこまでのストーリーを知れたらと思いました。

【帯広会場】

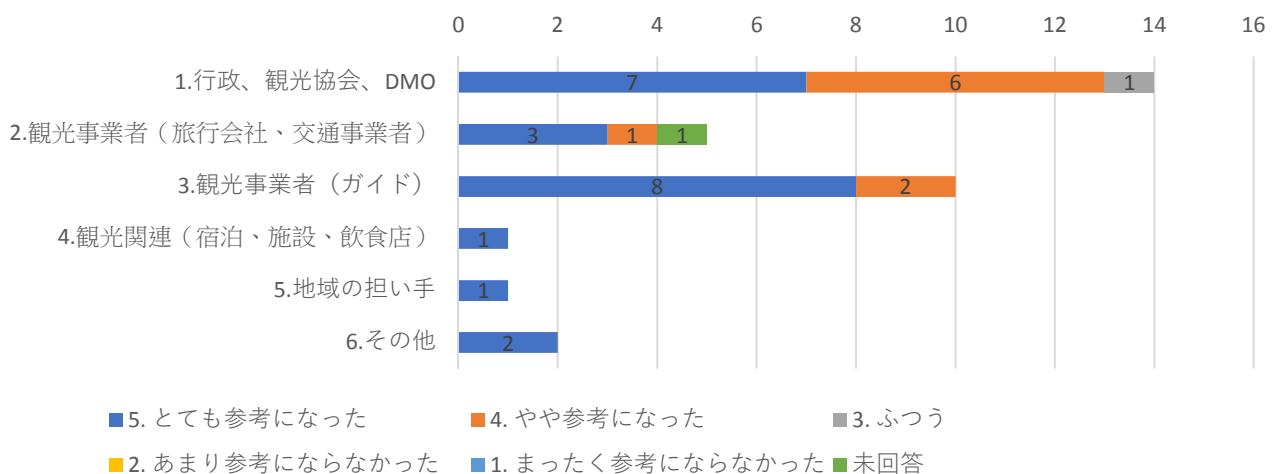
設問2-(2)ワークショップ「ATプラン商品造成」の内容について

およそ94%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なプログラムであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」「他の参加者の意見が参考になった」「ATについて理解が深まった」ことがあげられる。

ワークショップについての評価



所属別-評価-



【帯広会場】

「とても参考になった」を選択した理由(自由記述)

- ・ATの必要なポイントや考え方が理解できてきました。
- ・色々な視点を学べた。新しい出会いが良かった。
- ・地域の魅力と他の人の情報を知ることができました。
- ・様々な方(目線)からの意見は必要。ストーリーを考える訓練は未熟だった。再認識できた。
- ・とかちMICE誘致推進協議会の事務局長をしているので、とかちにMICEを誘致する上でアドベンチャートラベルのコンテンツがあることは誘客の強い味方になる。
- ・チームになった方々の機知が素晴らしくて大変楽しく視野が広がった気がします。
- ・農業についてのコメントが参考になった。
- ・他業種の人の意見は参考になった。
- ・チームでATプランを検討したことで色々な考えを聞く事ができた。
- ・各エリアの強みを「一貫したテーマ」でつなぐことの重要性を理解できた。
- ・AT商品開発のポイントが分かりやすい。
- ・ワークシートに沿って造るのが分かりやすくてよかった。
- ・今後において情報発信(商品)在り方についてストーリー性が価値を生むことが理解できた。
単独だと自身の主観的に偏りがちですが、チームで客観的に検討できました。

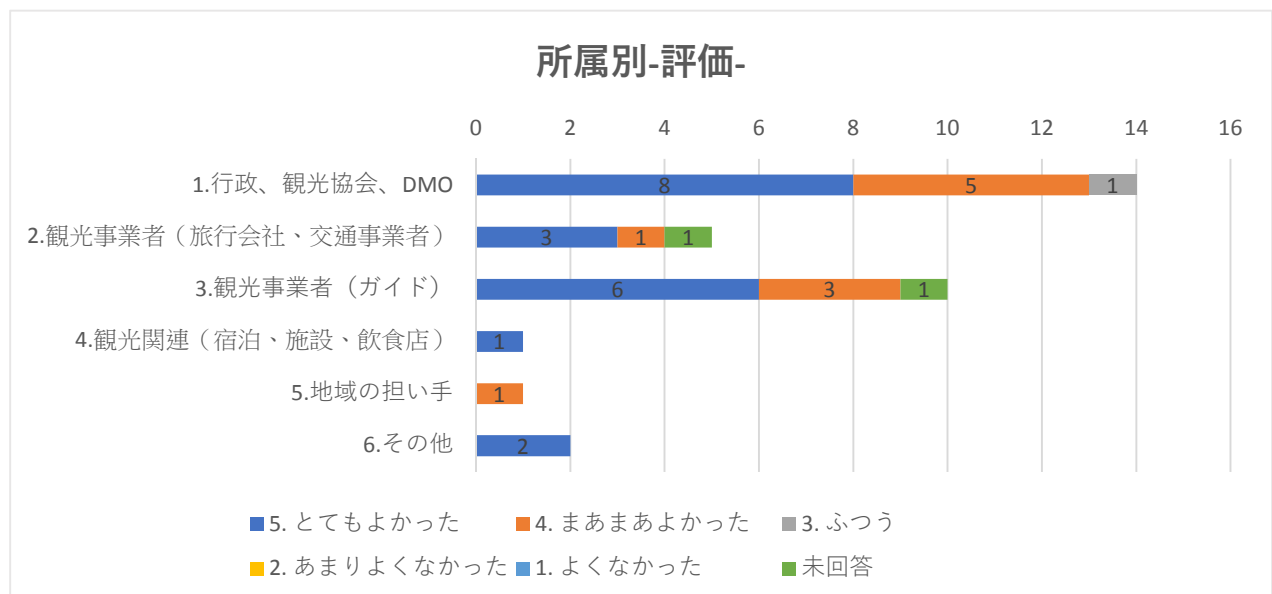
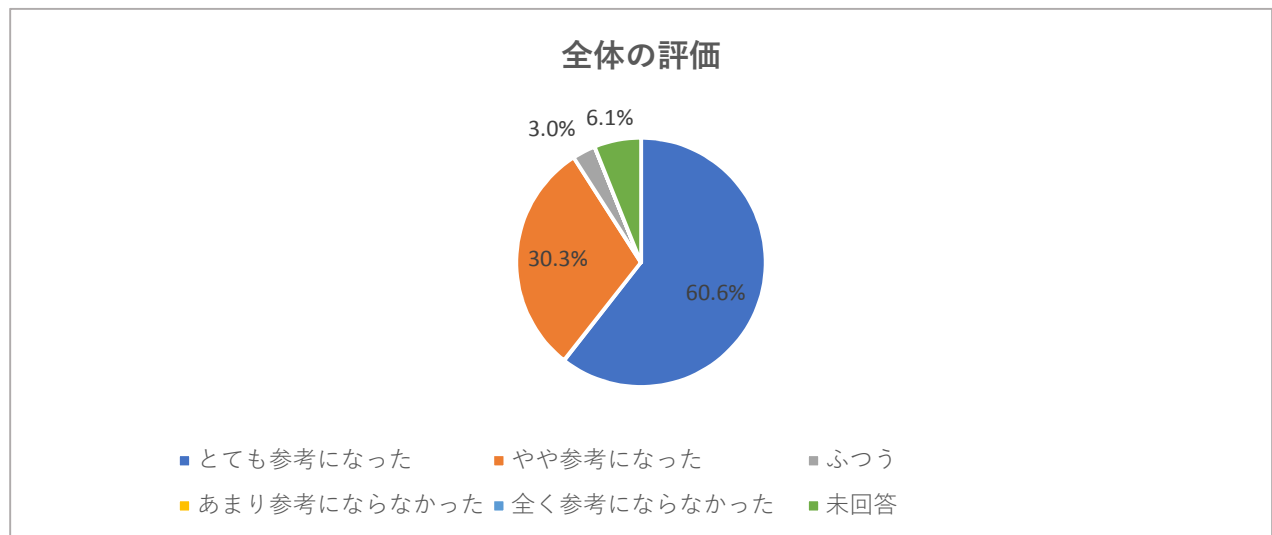
「やや参考になった」を選択した理由(自由記述)

- ・観光業、ガイド業などの現場に携わっている方と直接話ができる機会は貴重でした。それぞれ目線が異なるため、刺激的でした。
- ・地域連携の必要性が大事になると思います。
- ・時間が足りてなかったが、地域について改めて考える機会になってよかった。地域が広く苦戦した。
- ・アドバイスをいただきながら、様々な地域の参加者と議論ができて良かった。
- ・テーブルの各個人の方の個性が見える前にワークだったので若干のアイスブレイクがあるとよかった。

【帯広会場】

設問2-(3)今日の全体を通しての感想

およそ97%の参加者から「5.とても参考になった」「4.やや参考になった」の回答があったことから、大多数の参加者にとって有意義なイベントであったことが窺える。その理由として大まかに「新しい人との出会いがあった」や「参加者と情報交換ができた」「ATツアー造成について学ぶことができた」ことがあげられる。



【帯広会場】

「とてもよかった」を選択した理由（自由記述）

- ・民間の事業者の方々が各地より参加されていて、色々な情報を得ることができました。
自分の在任の周辺地域の方々と交流ができたので。
- ・道北地域もあり余る程の魅力を再発見できたことは大収穫！！
- ・ワークショップは時間が足りなかった。もっとディスカッションすればいいプランが出たかも。
- ・多業種の方々にATを知ってもらい、AT意識を共有できた。
- ・グループでの議論により、論点の理解が深まった。
- ・楽しめるイベントでした。
- ・楽しい知識が得られた。
- ・他団体の方の現場の声に接することが出来ました。
- ・AT造成の難しさを体感しました。以前より言われていたが、コースを考えると盛り込みすぎないことの難しさを感じました。
- ・楽しく勉強になった時間でした。
- ・他の地域のことを学べて楽しかった。
- ・活気がありますね!! 今後が楽しみです。
- ・ATについての認識が低く、意識改善のきっかけになる。新しい観光のあり方について、もっと情報発信してほしい。観光というと、宿泊施設の豪華さと食事の良し悪し、景色に評価されるが、これからの高収益観光のあり方を紹介してもらいたい。

「まあまあよかった」を選択した理由（自由記述）

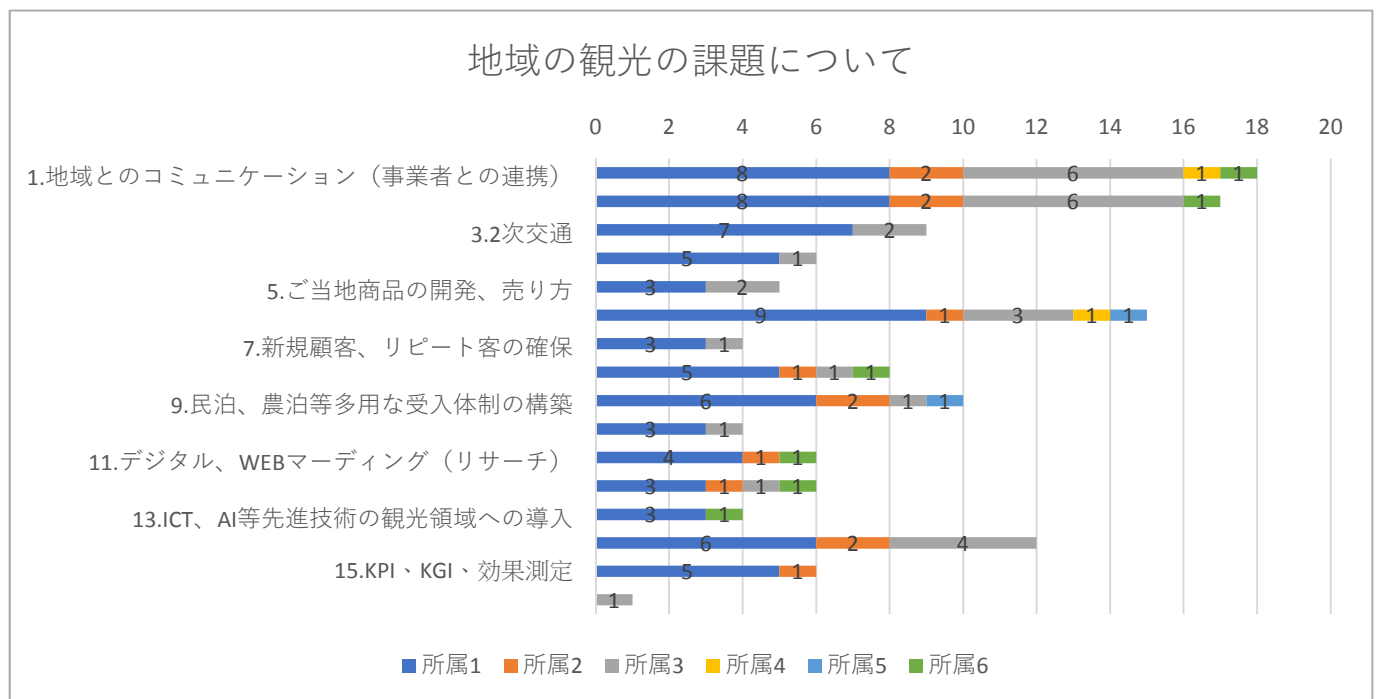
- ・ワークショップの事前の宿題（前提事項、冬のアクティビティを考える）を認識できていなかった
ので、少しほかの人に迷惑をかけた。
- ・自分の町に持って帰れそうなアイデアがたくさんあって楽しかったです。
- ・楽しめるイベントでした。

【帯広会場】

設問3.地域の課題について

(1)気になっているキーワード、地域の課題である感じていることについて

およそ54%の参加者が地域の課題として「1.地域とのコミュニケーション(事業者との連携)」をあげた。また、およそ51%の参加者は、「2.地域の戦略作り」を課題としてあげている。多数の参加者は、「事業者との連携」や、「戦略作り」に課題を感じていることが窺える。また、「外国語対応」や「ガイド育成」などの現場対応力や人材についても課題に感じている。



【帯広会場】

設問3-(1)その他の理由(自由記述)
・人材不足。地域に根ざす為の場がない。
設問3-(2)地域の観光の課題についてその他(自由記述)
・コーディネーターをどう作るか考えています。 ・地域に合ったATを地域の人たちも一緒に考える必要がある。 ・地域の人々のマインドをオープンにするのが、そして法的規制の縛りを緩めるのが課題になるのかなと思いました。 ・規制改革が必須(農地での観光化など規制がある) ・参加者にも様々な産業の方がいらっしゃてるんですが、地域と産業のつながりをもっと強める必要があるかなと思いました。 ・どちらかと言えば消極的な地元自治体へ働き掛けてモニターツアーなどを含めて取り組んでいきたい。 ・せっかく地方版DMO構築されたのでATプランも商品カテゴリーとして取り扱い販売までできるようにならないでしょうか。コロナ禍においてはDMOの更なる強化と地域連携が今こそ必要と感じています。 ・エリアをコンテンツにする観光事業の場合、DMOよりもエージェントが機能すると考えていますが、十勝にもエリアを統括できるエージェントが欲しいですね。

2.地域ごとのAT機運の醸成 冬モニター 参加者アンケート結果

①白老

設問1.テーマやストーリーを感じることができたか。

「とてもよく感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・白老の町のアイヌの歴史を、関連する場所をめぐりながら説明頂き、イメージが湧きやすかった。
- ・アイヌ民族にルーツを持つ米澤さんのガイドは言葉に力があり、尚且つ人間性の良さも伺え満足度が高かった。
- ・敢えてウポポイを訪れず、白老コタンの起点から巡るという行程は、米澤さんならではのと思いました。アイヌ民族の誇りに触れ、「多様性を真に認め合うということ」とは？を考えるきっかけをいただきました。同時に、共生を目指すならばまずは「真実を知る」こと。それを葛藤の中で伝えてくださった勇氣にも感謝します。
- ・アイヌの歴史、生活様式などを感じた他、アイヌ若年者のアイヌとしてのアイデンティティを少ししることができた。

「感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・米澤さんが最後にバスで話していた、現代アイヌのアイデンティティ回復について、最初に伝えたほうが良かったと思います。その方が午前の重たい話と午後が繋がる気がします。
- 白老のアイヌ文化の歴史と何を重んじているかが理解出来ました。
- ・アイヌ民族の話で一貫していたので、適量に感じる事ができました。
- ・The theme of the activity was excellent. But the tour itself in the form that we experienced is probably not the best for the target audience that was outlined at the beginning of the trip. More of a general overview of the Ainu people is necessary for international visitors. This tour would be much better starting at the Ainu National Museum, instead of to a small park in the middle of town with no context. (活動のテーマは素晴らしかったが、旅行の前にアナウンスされたターゲットには適していないかもしれません。海外からの来訪者には、アイヌの人々の概要説明が必要です。このツアーは町の小さな公園からでなく、国立アイヌ博物館から始める方が良いでしょう。)

設問2.スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して

「必要だと感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・部分部分をのり付けしてくれる役割としてスルーガイドかがいると、ストーリーが繋がりやすくなる。バスの中の説明の補足も良かった。スルーで案内してくれる人がいると、何となく安心感がある。専門に特化することができるのでいいと思いました
- ・バスで後ろにいたので、先導車との細かなやりとり、自身が用意した木の内皮を工芸の方から説明してもらうなど、配慮が感じられました。
- ・バスの中での導入的お話し、まとめのお話し、スルーガイドのファシリテーター的役割も大切だと感じました。
- ・とても軟楽説明されて感じがよかった。
- ・現代に生きるアイヌのガイド(米澤さん)のリアルな声を通して語られることにより、説得力があり非常に良かったと思います。
- ・添乗員やバスガイドにはない、その場所の専門的かつリアルタイムな情報などの話があると満足度が圧倒的に違いますし、臨機応変にお客様の要望に応えることも可能になる。

「よくわからなかった」を選択した理由(自由記述)

- ・今回はスポットガイドとプレイヤーという配置だと認識した
- ・It is difficult to answer this question, as the tour in its current format would be a very difficult product to sell. So this would totally depend on what the final product would be and who the clients are. But having a guide offers great value to the experience. (このようなツアー形式は販売が非常に難しいため、質問に答えることが難しい。したがって、最終的にどのような商品になるのか、クライアントが誰であるかに完全に依存します。ですが、ガイドがいることは大変に非常に大きな価値をもたらします。)

設問3.地域について、アクティビティを通して理解することができたか

「よく理解することができた」を選択した理由(自由記述)

- ・米澤さんは実際に白老に住んで活動されているので、地元トークもあって、親近感が湧きやすかった。午後はとても良かったです。アイヌの方々の自然との関わり方がよく分かりました。お茶、コーヒーのサプライズも良かったです。
- ・アイヌ文化ならではの木材の使い方や精神性などとても勉強になった
- ・真実を伝えることの難しさは感じました。「アイヌ民族の誇り」の部分で、対象者や聴き方によっては「恨み」にも聴こえてしまいます。想いが強くければ強いほど、本人が意図せずともそれが伝わってしまいます。現に、私は午前部の部については、学びながらも、「和人を許してください」「申し訳ありませんでした」という気持ちになり、苦しくて苦しくて辛かったです。入れ込む分量として、少し重い部分が多い気がしました。
- ・一例ですが駅通跡にまつわる天皇家や海の日ストーリーや塩竈神社跡がチャシであったこと他にも同様な事象が起きていることなどガイドさんの説明全てが興味深かったです。

「まあまあ理解することができた」を選択した理由(自由記述)

- ・1日で理解までは難しいですが入り口には立てたように思います
- ・アイヌ文化全般と言う形だったので、広く知識を吸収出来ました。
- ・アイヌの人々が多く住む白老の昔と今をすることができた。
- ・行程の中で、体験できるものは限られるので、その他に何があるか紹介する場があればいいですね。

Visiting around the town was ok, but not the best place to start the tour. If you are going to do an Ainu tour for international visitors in Shiraoi, the national museum is a must, and very strange that it was not included in this tour made for international visitors with no background on Ainu culture. Without more of a context the tour is not reaching its maximum potential. (街中を回るのは良いですが、ツアーを始めるのに最適な場所ではありませんでした。白老で海外からの訪問者のためにアイヌツアーをするなら、国立博物館は必見であり、アイヌ文化の背景がない海外からの訪問者のために作られたこのツアーに含まれていなかったのは非常に奇妙です。より多くのコンテキストがあれば、ツアーのポテンシャルが発揮されません。)

①網走

設問1.テーマやストーリーを感じることができたか。

「とてもよく感じることができた」を選択した理由(自由記述)

・実際に現場を見ながら説明していただいたので、とてもリアルに暮らしぶりを感じることができました。

「感じることができた」を選択した理由(自由記述)

・自然界の生態系
・実際に間近で見たワカサギをその後食べることができたので、ツアーの中で繋がりを感じられて良かった。
・漁業のみならず農業にも触れられると地域の産業がよくわかると思う。料理でも地元の食材を使っていたと思うので。

「ほとんど感じることができなかった」を選択した理由(自由記述)

・私の観光の知見が浅いため、ツアーの開催時に改めて当モニターの開催意図とストーリーについて触れていただけると更なる理解向上につながったように感じます。

設問2.スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して

「必要だと感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

・ガイディングはもちろん、ペース配分にもしっかり気を配っていただきありがとうございました！(初老なので)
漁の説明の他にも、野鳥や自然現象について、実際に見ながら説明を受けることができ、歩いている間も楽しく過ごすことができたため、スルーガイドの方は必要であると感じた。
・地元の自然環境を四季通じて理解されているので、とてもわかりやすいお話をしていただき、学びが多かったです。興味深く聞かせていただきました。
安全面への配慮や見学ポイントなど適切なサポートをして戴きました。

設問3.地域について、アクティビティを通して理解することができたか

「よく理解することができた」を選択した理由(自由記述)

- ・網走湖ばかりで無く周辺のアクティビティまで、掘り下げた情報を入手できました！
- ・ツアーを通して、オホーツクの自然や網走湖ならではの地形なども見ることができ、今までとは違った角度からオホーツクを感じることもできた。
- ・網走湖を取り巻く人(関係団体)のつながりなど、ふだんはなかなか気がつくことのない話も聞けて良かったです。

「まあまあ理解することができた」を選択した理由(自由記述)

- ・遠くから来る人のために事前に網走の土地のことや歴史のことを教えていただけるとより理解できると思います。

③蘭越

設問1.テーマやストーリーを感じることができたか。

「とてもよく感じることができた」を選択した理由(自由記述)

- ・“テーマに繋がる水のこと。気候や地形のこと。土壌のこと。全てをツアーの中で感じることができました。お握り作り体験は楽しかったですし、舌やお腹でも満足させるのもよいですね。”
- ・おいしい蘭越米の産地を地理・気象など多角的にガイドしており、スノーシューで雪景色を堪能できた上に知的好奇心も満たされ、ストーリーを感じることができた。
- ・スノーシューもテーマに沿ったガイドで分かりやすくストーリーを感じることができた

「感じることができた」を選択した理由(自由記述)

- ・テーマは水とお米についてだったが、観光としての地域紹介をどこまでいれるのが難しいと感じたお米がなぜ美味しいのか、の3つの要素のうち、水に関して感じることができた。

設問2.スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して

「必要だと感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・“俺さんのバスの中の雰囲気作りが良かったです。ガイド中の説明も程よい長さでした。ダケカンバばかりの単調な森林歩きで、話題を提供できるのは流石です。”
- ・スノーシューの履き方・地域・米産地の説明・参加者への心配り・行程管理など充分だった。
- ・“地元ガイドの補足、や“全体の方向性を導く、役割として必要だと思った

「よくわからなかった」を選択した理由(自由記述)

- ・どちらかというと今回はスポットガイドさんが全てを統括していた印象

設問3.地域について、アクティビティを通して理解することができたか

「よく理解することができた」を選択した理由(自由記述)

- ・スルーガイド、峠の茶屋のお二人、観光協会の石井さんの連携によって、蘭越町の魅力を感じさせていただきました。
- ・米作りを行う生産農家が顔を見せて、コメ作りにかかる情熱やこだわりを、おにぎりづくりの時にでも話してコミュニケーションをとれたら、テーマの理解をさらに深められ、より地域の連携・歓迎を感じられるのではないかと思った。
- ・住んでいても知らなかった発見もありとても面白かった。

④美瑛

設問1.テーマやストーリーを感じることができたか。

「とてもよく感じることができた」を選択した理由(自由記述)

・はい、美宙での説明とスノーシュー体験で感じました。

「感じることができた」を選択した理由(自由記述)

・美瑛の市街地と郊外を組み合わせたことで、両面を楽しめた。
 おかのまち、ということはアクティビティを通して確りと感じることが出来ました。美宙でのイントロもコンパクトながら、美瑛の街の特性を理解するには良い施設と思います。

・“はじめに、美宙で美瑛の歴史や自然、産業などについて学べたのでとても良かったです。そこで、いかに苦勞しながらも丘を大事にしてきたかということがわかりました。また、輪作によって来るたびに違う景観に会えるということもわかりました。振り返ると、もう少し「丘」にフォーカスした説明があるとさらに一貫してストーリーが伝わるような気がします。3D画像やドローン画像で、実際にどれだけの丘陵ぶりなのかを見られたり、丘陵ならではの農家さんの苦勞や逆にメリットなども聞いてみたいですね。今回スノーシュートレッキングをさせていただいたファーム千代田さんの歴史やどんな牧場なのかといったところにも興味がありましたので、説明があると嬉しいです。色々難しいかもしれませんが、スノーシューの途中で、ファーム千代田さんのホットミルクなど温かい飲み物と、町の名産のお菓子があって、しばしゆっくりする時間があると、今日も話題に出ていた、シーン、キーンと言った本当の静寂を楽しめて、貴重な経験になるだろうなあと思います。スノーシューの運動レベルについては、初心者や子連れにはちょうど良さそうと思います”

・郷土資料館で美瑛の生い立ちを学んでから行くのが楽しかった

設問2.スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して

「必要だと感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・レベル1のツアーはプログラムの内容自体は単純なものが多いため、ガイドがいるといないでは楽しめるレベルが比にならないと思いました。このレベルはガイドの会話力に尽きるため、標準化するの
は大変なことかもしれないと感じました。
- ・安心感がありますね。ただ今回の内容であれば、美宙とスノーシューのポイント、昼食場所にご案内の方がいらっしゃって、運転手さんに確実に送り届けていただければ問題なさそう。タクシー内で
色々と質問ができるのは良かったです。立ち寄り件数が増えたら、必要ですね！
- ・地域について色々な詳しい紹介を通して、見た景色と美瑛の歴史はどんな関係をよく分かりました
美瑛に関しての豊富な知識が必要だと感じた。

設問3.地域について、アクティビティを通して理解することができたか

「よく理解することができた」を選択した理由(自由記述)

・外国人にとって、美瑛はとても綺麗な丘のある町を印象に基づいて、農牧業のことも分かりました。
美しい風景だけでなく、地域はもっと理解を深めました

「まあまあ理解することができた」を選択した理由(自由記述)

・美瑛という地が印象に残る内容でした。周遊観光の場合、後で思い返した時に訪問地がごちゃ混ぜになってしまう場合がありますが、今回のように由来や文化と紐づいていると、記憶が整理されることに気づかされました。
・美宙でのレクチャーで知らないこともたくさん知ることができました！
郷土資料館の説明とスノーシューでの現地の説明がもっと繋がっていた方が良かったかなと感じた

⑤糠平

設問1.テーマやストーリーを感じることができたか。

「とてもよく感じることができた」を選択した理由(自由記述)

- ・林業の繁栄と衰退が、街や鉄道やダム of 歴史を作ったこと。消えた鉄道の遺構やダムを実際に見ながら回復途中の森林の中を歩いて、糠平の自然への人の関わり方が変化してきたことを感じ、将来の糠平がどう変化していくかも考えました。
- ・冬の体験観光として、楽しめた
- ・タウシュベツ橋梁は知っていましたが、それに関わる鉄道や人々の歴史などがとても分かりやすく学べました。
- ・テーマに繋がった説明があり感じる事ができた

「感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・時間に制限がありもっと聞きたいと感じた。

設問2.スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して

「必要だと感じる事ができた」を選択した理由(自由記述)

- ・最初に歴史をわかりやすく解説され、その解説がアクティビティ中の各ポイントとしっかりリンクしていたのが良かった。目の前に見えるものだけではなく、過去も感じさせてくれました。糠平川橋梁の昔の写真は特にインパクトがありました。地元の素材を使った飲み物のおもてなしも嬉しかった。
 - ・自然や動植物だけでなく、出発前に聞いた糠平湖やタウシュベツの鉄道の歴史についてSnowshoeで歩きながら確かめていくのが大人から子供まで楽しめると感じました。
- とても必要だと感じた
- ・コミュニケーション、マネジメント能力

設問3.地域について、アクティビティを通して理解することができたか

「まあまあ理解することができた」を選択した理由(自由記述)
・時間が欲しかった、また来たい感じた。

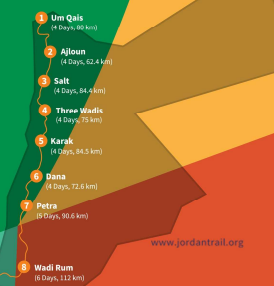
2.北海道全道ネットワーキングイベント

①講演資料

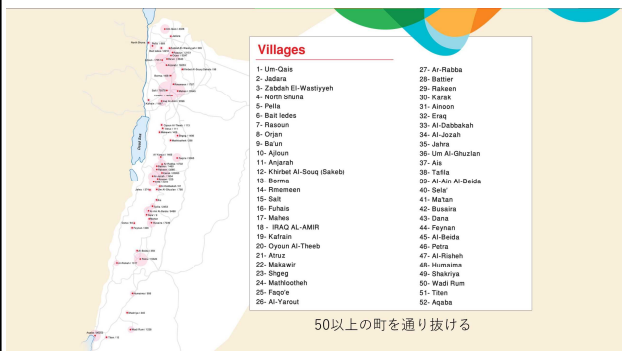
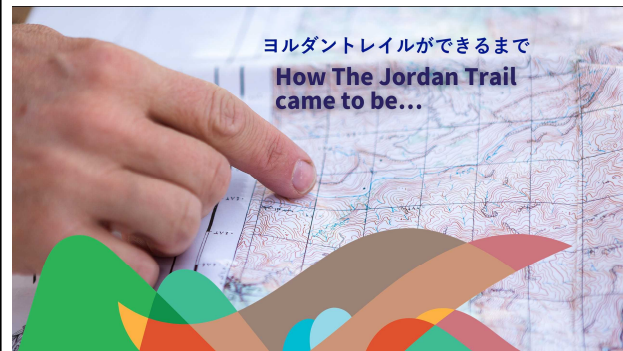
【中ホール①アドベンチャートラベル討論会】

荒井 一洋 ■大雪山自然学校 代表 北海道東川町。2001年に設立。 エコツアー・子供キャンプ・ 国立公園管理・森のようちえん ■北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 英語ガイドの育成、ATガイド会社の経営者育成。 ■GSTC公認トレーナー Global Sustainable Tourism Councilが定める持続可能な観光の 国際基準を日本に導入。 ■アジアエコツーリズムネットワーク(AEN) 理事 アジア・オセアニア圏17ヶ国が加盟。事務所はバンコクに。 	馬上 千恵 MOUE Chie 通訳案内士 森林インストラクター 英語講師   1973年福島県生まれ/札幌市在住 1996～2004年 北海道森林管理局にて森林の管理、森林環境教育 2005年 オーストラリアで英語教授法資格取得 2007～2011年 知床にて自然ガイド 2016年 ATWSアラスカ参加 ～現在 全国、全道でガイド向け「森林講座」や英語講師＆英語ガイドの養成講座など、「英語×おもてなし×観光」が織りなすユニークな講座を展開 - 地域密着型通訳案内士を目指し、海外ゲストをご案内しつつ、ATツアー達成にも力添えとして参加 「英語を学べば、地域も自分自身も輝ける」がミッション
高田 茂 (たかだ しげる) 鶴雅リゾート株式会社 取締役/アドベンチャー事業部 部長/ 前田一步園財団森の案内人 1959年 北海道北見市生まれ / 釧路市阿寒湖温泉在住 1978～1982年 明治大学政経学部経済学科卒業 1982～1983年 カナダラグビーユニオンからの依頼でプリティッシュコロニア州プリンスジョージで地元高校チームのラグビーコーチ 1986～2008年 ホテル経営のかたわらフィッシングガイド 阿寒湖のフライフィッシングをメジャーにすべく釣り業界のレジェンド(故)西山徹三と日本のトップフライフィッシングプロを阿寒湖へ誘致、阿寒カルフishingを2度にわたり開催。 1987年 当時日本で唯一のディッカー達公認A級コーチ資格を持つ鳥畑博嗣先生を招き阿寒湖にて遠東初のカヌースクールを3度開催。 2009年 鶴雅リゾート入社 営業本部 海外事業部部長 兼 アウトドア事業部 部長 2016年 ATWSアラスカ参加、2017ATWSアルゼンチン参加 2018年 ATWS イタリア参加、2019ATWSスウェーデン参加 2017年12月 鶴雅アドベンチャー事業部開設 事業部長に就任 2018年4月 アドベンチャーベース【SIRI】オープン 【SIRI】のガイドのコンセプトは 安全管理がしっかり出来る森や水辺のエンターティナー  	一社)黒松内町観光協会 事務局長 本間崇文(小樽市生まれ、宮崎県育ち) 英国のランドオペレーターに勤務、ツアーコーディネーター、添乗員などを経験 ロンドンを拠点にフリーのメディアコーディネーターとして活動 ※訪れた国は30カ国以上 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークで国立公園の保全、環境教育、エコツアーの開発を担当   黒松内町へ移住後、2016年黒松内町観光協会とグリーンツーリズム組織を統合、事務局長に就任 観光協会を一般社団法人化、地域案内人を育成し、国内外のFIT受入れを中心に体験交流型 ツーリズムを推進 ◎今年度は、人力で地域を周遊するエコモビリティタウンの基盤整備をはじめ、AT受入体制を 強化中

【中ホール②Lina Annab氏 New_Jordan Trail Presintation latest 講演資料】

 HOKKAIDO - Thursday November 12, 2020	IT'S ALL ECONOMICS!!! - Size of Hokkaido = 84,000 SqKM - Size of Jordan = 89,000 SqKM - Population Hokkaido = 5.4 million - Population Jordan = 10 million - Jordan contribution of travel and tourism is 12-13% of GDP - Japan contribution of travel and tourism is 8-10% of GDP - Hokkaido's??
JORDAN – IN 2016 WE REVISITED OUR VISION & MISSION (More Focused and Measurable) OUR VISION To maximize the contribution of Jordan's tourism receipts to the Gross Domestic Product. TARGET=20% OUR MISSION To double Jordan's tourism receipts <u>over the next 5 years</u> (2018-2022) through bolstering the competitiveness of Jordan's tourism product. DEMAND-DRIVEN 	JORDAN SNAPSHOT OF (January – September) 2018  Tourism Receipts (Million JDS): 2,885 (2017), 3,840,305 (2018) Number of Visitors (Total Visitors): 2,567 (2017), 3,575,471 (2018) % Increase in Visitor Numbers: 12.4% (Receipts), 7.4% (Visitors) NUMBER OF VISITORS (% Jan-Aug) - 2018 - Algeria - Belgium - China - France - Germany - Italy - Japan - Korea - Malaysia - Netherlands - Poland - Romania - Saudi Arabia - Slovakia - Slovenia - Spain - Sweden - Switzerland - Taiwan - Thailand - UK - USA - Uzbekistan
Issues We faced Along The Way - Undertourism → Overtourism - Concentration of visits (Example Biei Town in Hokkaido) - Diversification - Sustainability: - Sustainable management - Socioeconomic impacts - Cultural impacts - Environmental impacts (including consumption of resources, reducing pollution, and conserving biodiversity and landscapes)	What is The Jordan Trail The Jordan Trail is a continues hiking route crossing the entire country of Jordan, offering 675 kilometers of trail, divided into 8 regions and 35 sections. From the Fertile Crescent in the north to the edge of the Arabian Desert and the Red Sea in the south. An open and accessible trail that tells <i>an ever-changing story.</i> 8つの地域と35のセクションに分かれた675キロメートルにわたるヨルダン全土を横断するハイキングルート  www.jordantrail.org

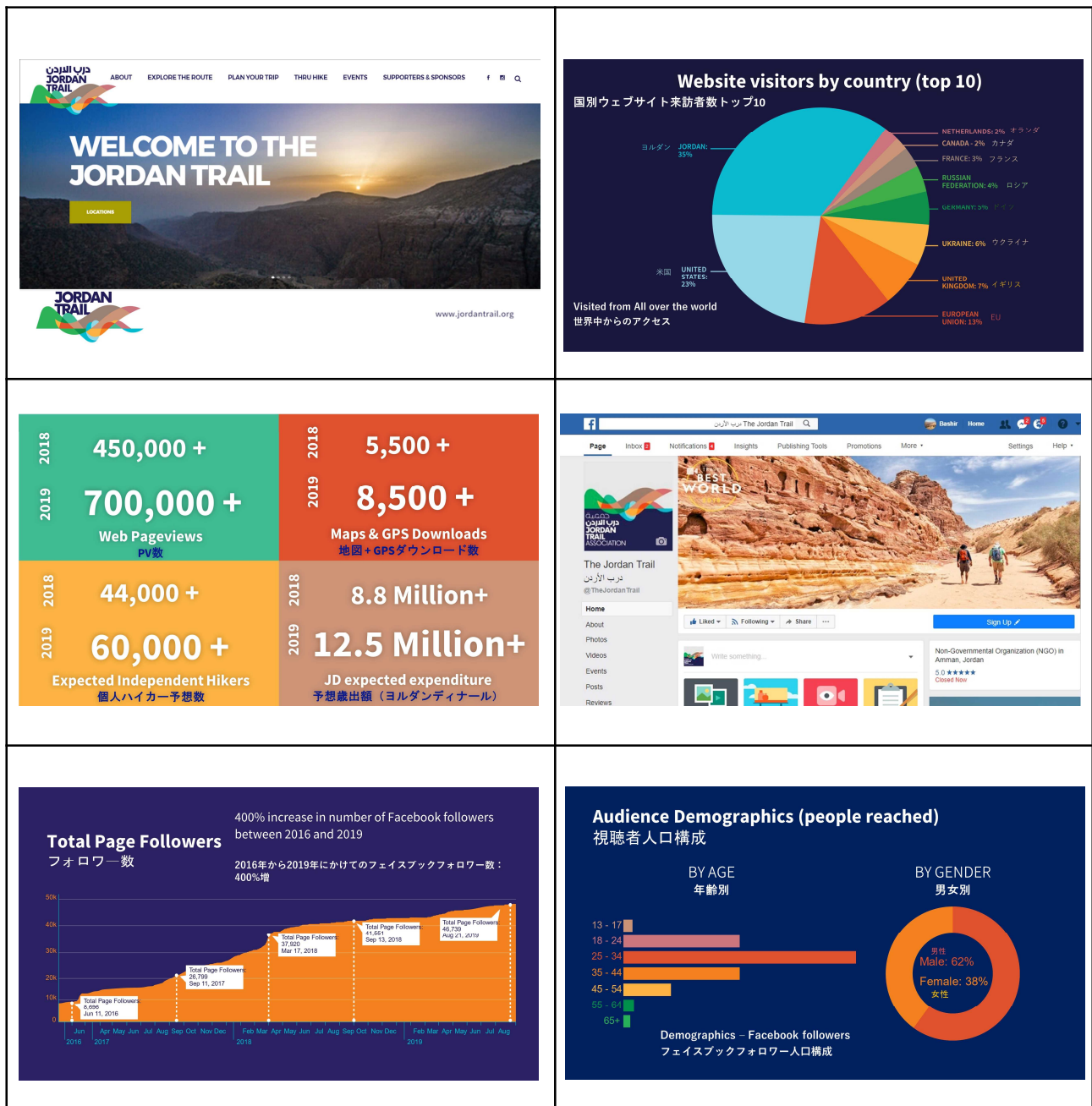
令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

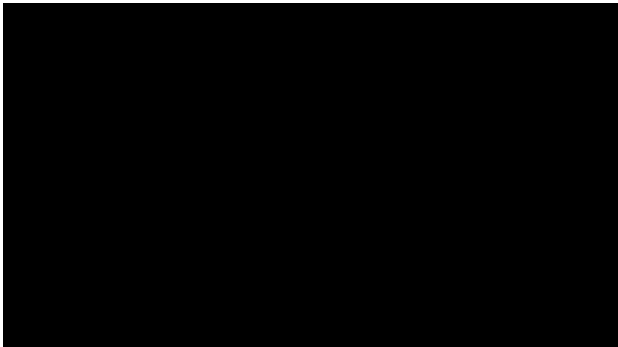


令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

 Development 開発 Maintenance 維持 Facilitating accessibility アクセシビリティの促進 Establishing connections コネクションの確立 Capacity building 人材育成 Training トレーニング Promoting プロモーション Marketing マーケティング	 We Empower! The Jordan Trail aims to enable effective socio-economic development for local communities through job creation and capacity building in over 52 villages. 52以上の地域で人材を育成、雇用を創出することにより、地域社会の効果的な社会経済的發展を可能にする
 We Conserve! We are committed to minimizing tourism impact and aspire to create a behavioral shift by promoting environmental awareness and responsible outdoor culture. 観光産業への影響を最小限に抑え、環境に対する意識と責任あるアウトドア文化を促進することにより、行動の変化を生み出す	 We Connect! We want people to connect with and respect their compatriots and their land. 仲間とつながり、自分たちの土地とお互いを尊重する心を育てる
Creates local, community-based jobs at a low cost, and requires less revenue to generate than other types of tourism Drives money into local businesses and communities that are traditionally overlooked Diversifies the economic structures, as such, reduces risk and exposure to market shocks 低コストで地域に根ざした雇用を創出 見過ごされてきた地元の企業やコミュニティを再生 経済構造を多様化し、リスクと経済ショックへのエクスポージャーを軽減	Social Media ソーシャルメディア 

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」



 STORY TELLING ストーリーテリング	
 Since 2017, the Jordan Trail Association organizes an annual Thru-hike event 2017年以降、毎年ヨルダントレイル全域のスルーハイクを実施 crossing the entire length of the Jordan Trail: 2017: March 31st - May 13th 2018: March 02nd - April 14th 2019: March 01st - April 13th 2017年：3月31日 - 5月13日 2018年：3月2日 - 4月14日 2019年：3月1日 - 4月13日	 Why a Thru-Hike Raising awareness locally and internationally Benefiting and Training the Local community directly Fundraising for the Association 国内外への周知 地域社会へダイレクトにトレーニングの機会と利益をもたらす ヨルダントレイル協会への基金調達

【中ホール②Lina Annab氏 New_Jordan Trail Presentation latest 講演内容】

日本では来年にATWSを予定しているが、同イベントはヨルダンでも大きな影響をもたらしたということを皆さんにお話ししたい。ヨルダンでは、ATWSによって、アドベンチャービジネスの広がりがもたらされた。ATWSは、北海道の発展に重要な機会になると思っている。

観光産業は、重要だと捉えられないことがあるが、経済にとって非常に重要である。なぜなら多くの分野に関連、複合効果が生まれるものであるから。コロナ禍で、世界の観光産業は経済に大きな影響を与えているが、それは観光産業が多くの産業に関わっているからである。

私は、2016年に観光大臣になり、まず、観光全体の目的、計画やビジョンを考えた。目標としては、観光産業がGDPに与える影響を20%にしたいと考えた。観光の経済的側面を考え、目的は観光が経済に与える影響を最大化させることとした。さらに、すばやい成長をもたらすことを考えた。結果的に早く結果が出た。

具体的な結果としては、2016～2018年の間で観光関連の収入は12%伸び、観光客の入込は7%伸びた。今後、どのように成長させていくか、新しいツーリズムをどのように発展させていくかが課題と考える。

また、もともとあまり観光が強くなかったにもかかわらず、オーバーツーリズムまでとなった。地域社会にどのような影響がでるかすぐに考えないといけない。重要なことは、現地のリソース、観光資源を疲弊させず、継続的にそこから得られる利益をえていくこと。対策としては、観光客が局地に集中しているため、多様化（非常に重要な場所、そうではない場所）を狙って分散させること。体験を組合せて色々な形の商品を提供することを考えた。観光は、環境、その場所に合ったものである必要がある。社会、関わる人が利益を得られるようになってなければならない。地域の人々が、傍観ではなく関与していく（重要なパートナーになる）ことが重要。持続可能な目標を作ったほうが良い。SDGsガイドラインは素晴らしい指針になる。

ヨルダントレイルは北から南約675キロで、生物多様性が感じられる（森、山、渓谷、砂漠）。各地域の多様性を楽しんでもらいたいと考えた。世界の注目を集めるディスティネーションにしたかったので、ヨルダンの美しさを紹介するようなものにするをメインの目標にした。北海道はよく似ている。例えば稚内から函館まで既存のもので埋め、周辺を付加して考えていく。コンセプトとして、背骨（主観光地）になるようなものを作るとよい。

2016年どのようなものになるかわからず開発を始め、まずは商品考えた。政府だけではなく、民間だけでもなく、特別なグループで、協力をして作り上げていくことが重要なことだった。ヨルダンの中にある隠されたモノ、商品にできるモノを、理解をして、重要なものにしていく。

ヨルダントレイルは非常に面白い物だった。どのようにして開発されたかを考えると、52の村が範囲。手の届いていない地域をその気にさせ、行動を起こさせて投資を呼び込んだ。それが触媒となって大きな開発につながるということになる。投資の計画の中にはいって行くことになる。スタートアップから始まって、大きなものになった。

またソーシャルメディアが助けとなり、ネットワークを広げることに関与した。プロジェクトをSNSを通じて広めることができた。ヨルダントレイル協会が、ウェブサイトを立て上げると、ウェブサイト訪問者が多くなった。送客に関与していると考えられる。数字伸びている。実際に訪問してくれている人の属性と、ウェブサイトの訪問者の属性が重なっている。

また、ヨルダントレイルが発展していった理由としては、トレイルについて話すときに、クリエイティブでなければならないと考え、ストーリーテリングをしていったためである。トレイルのことだけでなく、ストーリーや文化、ローカルコミュニティ、伝統のことなどを伝えた。

官・民だけではなく、すべての関わる機関、組織、人達が成功する事が重要。関係者が協力し合い、支援し合い、アイディアを出し合って勝てるトレイルを作り上げた。ヨルダントレイルが一つの例として、示せることである。

ヨルダントレイルは需要主導型である。私たちが何を提供しているのか、需要に合ったものだけを提供していく。

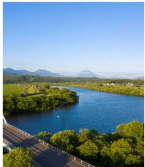
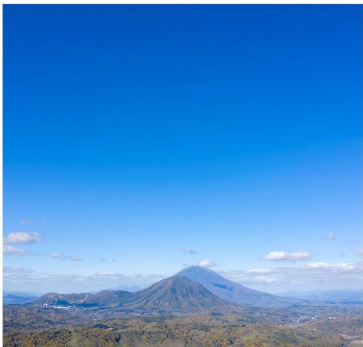
トレイルが誕生し、一番重要なこと感じるのは、計画、どう展開していくかの枠組み。この素晴らしいルートがあるからやっということではあるが、ヨルダンの観光の収益を倍にしようなどの計画をたてていくことが最も重要だと考える。そして、スピード早く、素早く人を引き付けるトレイルをつくっていくためには、ビジョンが必要。枠組みが必要。どのような解釈をしていくのか、どのような行動をとっていくのか、それは数字で評価できるようなものではなくてはならない。さらに、結果、どのような計画を立ててどのような結果がでたのか認識していなくてはならない。集積開発型のアプローチをとるということを考えてやってきた。訪れる人が何を望んでいるのか考えて、先んじて用意していく。アプローチの中で多くの要素があること、バリューチェーンのようにいろいろな要素があることに気づいた。その要素のつながりを理解することが重要である。もともとある資源、作り上げていく資源がある。お祭りなどは作り上げていく資源。いろいろなものを組み合わせしていくこと。

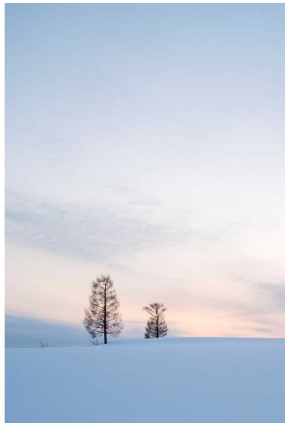
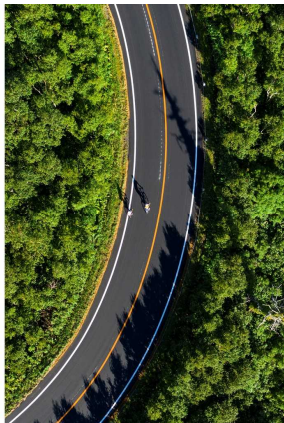
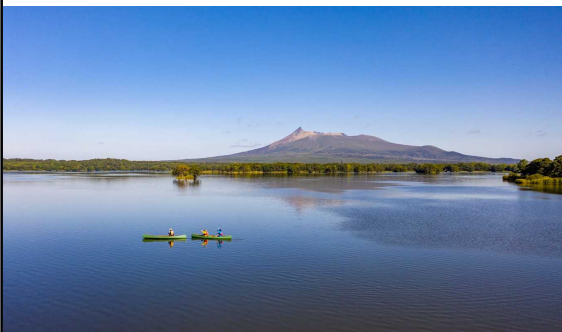
バイアスを払拭する必要がある。北海道は、寒いというイメージだけではなく、四季がはっきりしている、など。いかにうまく技術を利用していくのかも重要。

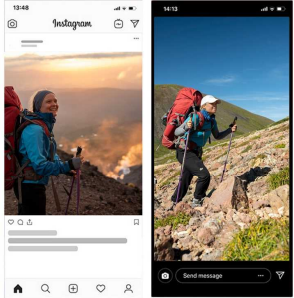
そして、計画は細分化していく必要がある。そのように予算を獲得していくのかなど。ディスティネーションの管理、マーケティング、人材、サービス、技術、IT、研究データや情報データも重要。投資をしてくれる人に投資をしてもらうためにはデータが必要である。補完的なものは、飲食施設、宿泊施設が必要である。

新しい物については、政府の力が重要。規制を緩和するなど、現代に合わせて規制の見直しをして、世界で起こっている変化に対応できるものにしていかなければなりません。

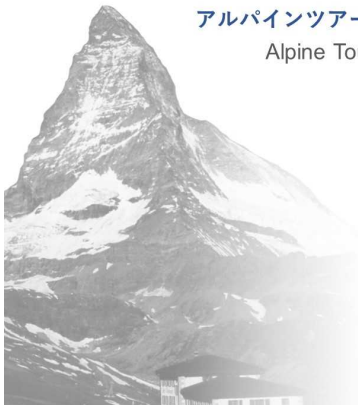
【中ホール③アーロン氏 EYES ON HOKKAIDO】

 EYES ON HOKKAIDO THE WORLD IS WATCHING	Hi, I'm Aaron Jamieson My Background. I first visited Hokkaido 15 years ago and planned to stay for one winter... But I never left. •Photographer & Film Maker •Associate Editor of Powderlife & Summerlife magazines •1st English Language Guide Book of Hokkaido (2021) •Hokkaido Photo Gallery in Niseko 
   HOKKAIDO eh? どこ? For most people Hokkaido is still undiscovered northern paradise	   4 Magical Seasons
   Stunning Landscapes. Beautiful Nature... Activity Everywhere!	   And – The Best Snow on Earth!

That's what we know. How do we share it? ...It's time to tell a story! Remember... What seems normal to us is still a new discovery for most of the world's adventure travellers. This is a story of discovering Hokkaido.		Visual Story Telling • Photos and Video's should help people understand the story of your experience – The Location, People, Food, Activity are all part of your story. • Hokkaido - Where it is and what its seasons are like • Activity / Location - Where in Hokkaido and what makes it special • People - Who visitors will share the experience with • Variety - Give people something different each time		
Shooting the story • Exciting - "capture the energy" • Unique - "what's special? The landscape, nature, wildlife?" • Engaging - "doing, making, experiencing - smiling" • Aspirational - "I could be there!" • Genuine & Current – This is Now			Always chase the light On the best weather days - get your camera out!	
	Moments that matter Capture the moments that show a little secret or interaction			People and Faces Add personality to your story with faces

 Don't forget the details Details give your story depth. The little things are sometimes the most captivating.	Shoot for different screens Compose for horizontal, vertical and square usages to suit multiple digital platforms. 
Sharing the story Where is your story being told? Knowing your customers and their preferred digital platform will help you shape your content to be more effective. If you know your customer well - You'll know that you don't need them all! 	

【中ホール④芹澤氏 ATトラベルにおけるガイド業務の役割について】

アドベンチャートラベル北海道ミーティング A T トラベルにおける ガイド業務の役割について 2020年11月12日（木）15:00-15:45 アルパインツアーサービス株式会社 代表取締役社長：芹澤健一 アルパインツアー	アルパインツアーサービス株式会社 Alpine Tour Service Co., Ltd. Since 1969  アルパインツアー
アルパインツアーサービス株式会社 Alpine Tour Service Co., Ltd. Since 1969  アルパインツアー	国やエリアによるセグメンテーション  アルパインツアー
	A T 旅行参加者の主要な動機 ① Transformation 自己変革 ② Expand Worldview 世界観を広げる ③ Learning 学び ④ Nature & Discovery 自然発見 ⑤ Mental Health 精神的な健康 ⑥ Fun & Thrills 楽しさとスリル ⑦ Connection つながり ⑧ Meaningful Stories ストーリー性 ⑨ Physical Health 身体的な健康 ⑩ Unique Experience ユニークな体験  アルパインツアー

A Tトラベルにおける
現場スタッフを構成する4つの要素

1. ガイド＝案内人
2. インタープリテーション＝解説
3. トランスレーション＝通訳
4. コーディネーション＝運行管理
(スルーガイド)

アルパインツアー



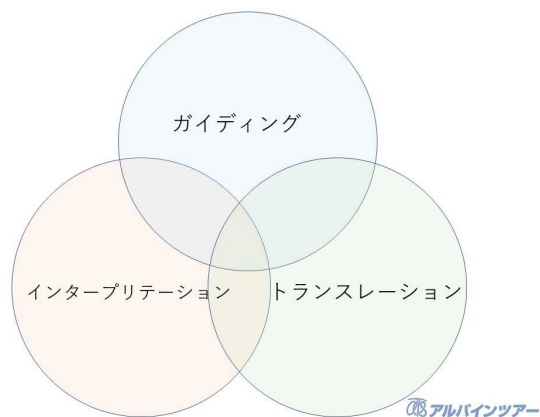
スポットガイドは案内人



インタープリテーション（解説）は学びの指導員



トランスレーション（通訳）クオリティの重要性



ガイド＝案内人

1. スポットガイドとしての役割と立場
(イントロダクション)
2. 安全管理/危急時対応
3. 適切な指導(インストラクション)
4. リーダーシップ
5. コミュニケーション
6. エンターテイメント
7. インタープリテーション
8. 環境への配慮
9. ファーストエイド

アルパインツアー



適切なリーダーシップ



安全管理



プロガイドとしての技能と知識

ガイドングの要素

1. ブリーフィング（導入説明）
2. 必須装備の確認
3. 天候などの状況を見てのガイド注力の調整
4. メンバーの体調、力量の観察
5. アクティビティに対する適切な指導
6. 環境への配慮
7. リスクマネジメント
8. 危急時対応
9. インタープリテーション
10. エンターテインメント

アルパインツアー



メンバーの体調や力量の観察



天候などの状況に合わせてガイド注力の調整

インタープリテーション＝解説

1. 地域の特性や魅力を伝える
2. 背景（歴史や宗教、地域が持つ）
バックグラウンドを持ち合わせる
3. 名前（名称）、事実、数値などの情報
を伝える
4. コミュニケーション、相手の理解度
に合わせて説明する
5. エンターテインメント性
（楽しませる）

アルパインツアー



地域の特性と魅力を伝える解説力



歴史や宗教、郷土文化を持ち合わせた解説



相手の理解度に合わせて説明する

トランスレーション＝通訳

1. 正確で端的に伝える
2. 事前準備と補足資料
3. ガイドとのコミュニケーション
（息の合ったコンビネーション）
4. アクティビティの基礎的な技能と知識
5. エンターテインメント性（楽しませる）

アルパインツアー



事前準備や資料の活用



ガイドとの息の合ったコンビネーション



アクティビティの基礎的な技能と知識

コーディネーション（運行管理） （スルーガイド）

1. 全体行程の運行管理
2. タイムマネジメント
3. 修正（調整）能力（代替案、セカンドオプション、エスケープルート、緊急対応、etc）
4. リーダーシップ（グループマネジメント）
5. 参加メンバーの力量や異変への観察能力
6. 円滑なコミュニケーション能力
7. メンバー全員を楽しませる能力
8. 外国語を用いたインタープリテーション
9. 緊急時の地域の医療体制の把握

アルパインツアー



コーディネーション（スルーガイド）の役割とは？



タイムマネジメント



地元の人たちとの偶然の出会いを含めて旅をプロデュース



フィールドに関する知識とアクティビティの技能



フィールドの動植物に関する知識



楽しませる能力（エンターテインメント性）

事前準備の重要性

1. ツアー全体の日程の把握
2. 参加者に関する情報集約/対象者の理解
3. 医療や食事の特別リクエスト
4. フィールド(ルート)、天候の最新情報
5. 必須装備リスト有無
6. インタープリテーション題材の準備

アルパインツアー



プランB（代替案）を持っておく

現場スタッフに必要な要素

1. アクティビティに関する知識と技能
2. フィールドに関する歴史や文化などの知識
3. フィールドの動植物に関する知識
4. 安全に関する知識と技能
5. トラブル発生時の対応（緊急時対応）
6. 外国語を用いたインタープリテーション
7. 外国語を用いた円滑なコミュニケーション
8. 全体行程の運行管理
9. リーダーシップ（グループマネジメント）
10. エンターテインメント

アルパインツアー



全体の行程と顧客像の事前把握



コンディション（力量・天候・時間配分）の調整

アドベンチャートラベル北海道ミーティング

地域として必要なもの

1. 人材教育、基準を満たしたローカルガイド
2. 歴史や文化について解説できるスタンダード作り
3. 実践トレーニング
4. スルーでガイドできる人材
5. 北海道（日本）全体をコーディネートできる人材
6. AT商品としての北海道パッケージという概念

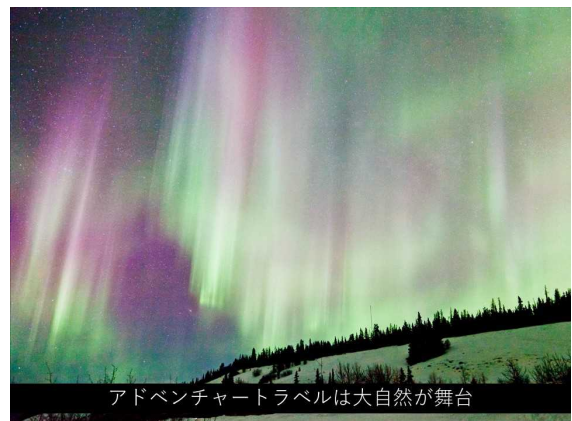
アルパインツアー



名峰マッターホルンを望むハイキング（スイス）



有名な遺跡へ歩いてアプローチ（モアイ像/イースター島）



アドベンチャートラベルは大自然が舞台

令和2年度「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」



参加者みんなで感動を共有



アドベンチャートラベルって素晴らしい！



北海道の四季の魅力を世界へ発信



日本ならではの魅力をどこまで掘り下げられるか



ワディラムの砂漠でラクダに乗る(ヨルダン)



地域への愛情と情熱を持ったガイディング

【中ホール⑤荒井氏 SDGsと観光】



『SDGsと観光』

観光業界におけるSDGsのトレンドと
ATWSを契機にした持続可能な観光の実現について

北海道アドベンチャートラベル協議会
荒井 一洋

← 今日資料はここから →
ダウンロード
(どちらも同じファイルです)
<https://xfs.jp/5Dz1bc>

2021/2/1 Daisetsuzan National Park, Jul.



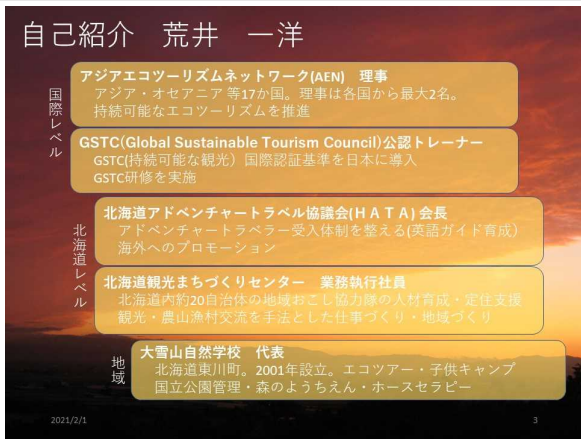
73%

今後1年間に
「エコな宿泊施設に
1回以上滞在する予
定である」
と答えた旅行者

2019年Booking.com

2016年 62%
2017年 65%
2018年 68%
2020年 73% 出展: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000179.000015916.html>

2021/2/1 釧路湿原国立公園



自己紹介 荒井 一洋

国際レベル

アジアエコツーリズムネットワーク(AEN) 理事
アジア・オセアニア等17か国。理事は各国から最大2名。
持続可能なエコツーリズムを推進

GSTC(Global Sustainable Tourism Council)公認トレーナー
GSTC(持続可能な観光)国際認証基準を日本に導入
GSTC研修を実施

北海道レベル

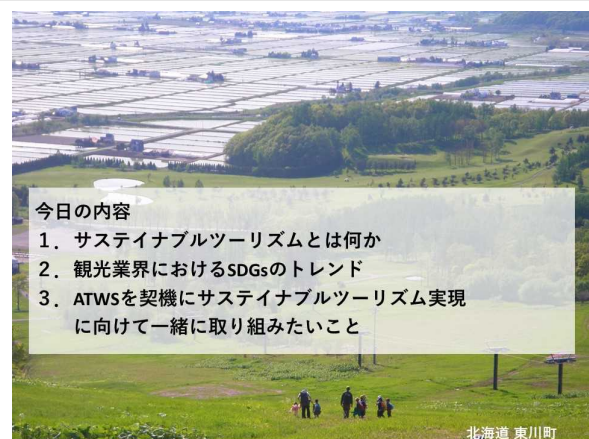
北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)会長
アドベンチャートラベラー受入体制を整える(英語ガイド育成)
海外へのプロモーション

北海道観光まちづくりセンター 業務執行社員
北海道内約20自治体の地域おこし協力隊の人材育成・定住支援
観光・農山漁村交流を手法とした仕事づくり・地域づくり

地域

大雪山自然学校 代表
北海道東川町。2001年設立。エコツアー・子供キャンプ
国立公園管理・森のようちえん・ホースセラピー

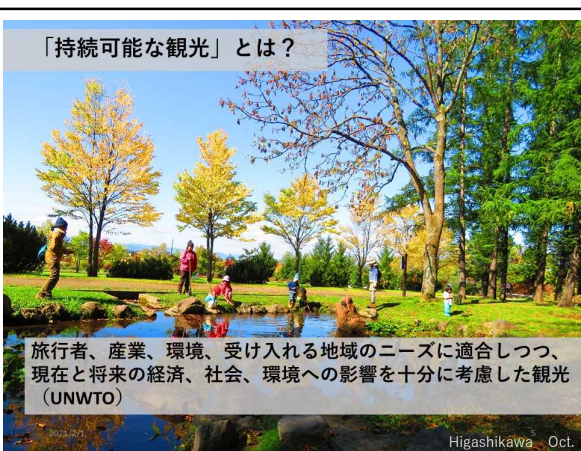
2021/2/1



今日の内容

1. サステイナブルツーリズムとは何か
2. 観光業界におけるSDGsのトレンド
3. ATWSを契機にサステイナブルツーリズム実現に向けて一緒に取り組みたいこと

2021/2/1 北海道 東川町



「持続可能な観光」とは？

旅行者、産業、環境、受け入れる地域のニーズに適合しつつ、
現在と将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮した観光
(UNWTO)

2021/2/1 Higashikawa Oct.



持続可能な観光の国際基準 (GSTC)
Global Sustainable Tourism Council Criteria

①観光産業用 ②観光地用
4つの重点分野
38基準

「GSTC Japan Translation」
検索

マネジメント Sustainability Management
社会・経済 Social & Economic
文化 Cultural
環境 Environmental

2021/2/1

GSTC基準とは

GSTC-I
(Industry:観光産業)

GSTC-D
(Destination:観光地)

GSTC 基準 (観光産業ガイドアオペレーター)

項目	内容
4.1 持続可能な観光	観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。
4.2 観光客の安全	観光客の安全を確保するための取り組み。観光客の安全を確保するための取り組み。観光客の安全を確保するための取り組み。
4.3 観光客の満足	観光客の満足度を高めるための取り組み。観光客の満足度を高めるための取り組み。観光客の満足度を高めるための取り組み。
4.4 観光客の健康	観光客の健康を確保するための取り組み。観光客の健康を確保するための取り組み。観光客の健康を確保するための取り組み。
4.5 観光客の教育	観光客の教育を促進するための取り組み。観光客の教育を促進するための取り組み。観光客の教育を促進するための取り組み。
4.6 観光客の交流	観光客の交流を促進するための取り組み。観光客の交流を促進するための取り組み。観光客の交流を促進するための取り組み。
4.7 観光客の貢献	観光客の貢献を促進するための取り組み。観光客の貢献を促進するための取り組み。観光客の貢献を促進するための取り組み。
4.8 観光客の責任	観光客の責任を促進するための取り組み。観光客の責任を促進するための取り組み。観光客の責任を促進するための取り組み。
4.9 観光客の意識	観光客の意識を促進するための取り組み。観光客の意識を促進するための取り組み。観光客の意識を促進するための取り組み。
4.10 観光客の行動	観光客の行動を促進するための取り組み。観光客の行動を促進するための取り組み。観光客の行動を促進するための取り組み。

GSTC 基準 (観光地)

項目	内容
4.1 持続可能な観光	観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。観光地・観光客双方の持続可能な観光を実現するための取り組み。
4.2 観光客の安全	観光客の安全を確保するための取り組み。観光客の安全を確保するための取り組み。観光客の安全を確保するための取り組み。
4.3 観光客の満足	観光客の満足度を高めるための取り組み。観光客の満足度を高めるための取り組み。観光客の満足度を高めるための取り組み。
4.4 観光客の健康	観光客の健康を確保するための取り組み。観光客の健康を確保するための取り組み。観光客の健康を確保するための取り組み。
4.5 観光客の教育	観光客の教育を促進するための取り組み。観光客の教育を促進するための取り組み。観光客の教育を促進するための取り組み。
4.6 観光客の交流	観光客の交流を促進するための取り組み。観光客の交流を促進するための取り組み。観光客の交流を促進するための取り組み。
4.7 観光客の貢献	観光客の貢献を促進するための取り組み。観光客の貢献を促進するための取り組み。観光客の貢献を促進するための取り組み。
4.8 観光客の責任	観光客の責任を促進するための取り組み。観光客の責任を促進するための取り組み。観光客の責任を促進するための取り組み。
4.9 観光客の意識	観光客の意識を促進するための取り組み。観光客の意識を促進するための取り組み。観光客の意識を促進するための取り組み。
4.10 観光客の行動	観光客の行動を促進するための取り組み。観光客の行動を促進するための取り組み。観光客の行動を促進するための取り組み。

日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)
Japan Sustainable Tourism Standard-Destination



- ・持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標
- ・GSTC-Dに準拠している
- ・自治体、観光協会、観光地域づくり法人 (DMO) がツールとして活用

※JSTS-Dは、GSTC-Dに準拠した指標(ガイドライン)であるが、認証制度ではない。
※「〇〇町では、国際基準に準拠したガイドラインに沿って観光を推進しています」と言えるが、認証は取っていない。

持続可能な観光の認証制度について

地域やツアーオペレーターが国際認証を取るには、GSTCから認定を受けた、認証機関 (Green Destinations/Travelife) が持つ認証基準をクリアする。
持続可能な観光地域の国際認証制度は、「Green Destinations」
持続可能な観光事業者の国際認証制度は、「Travelife」



とはいえ...
取り組むべきだと思うけど、
手間もお金もかかる。
コスト的に難しい...

観光業界におけるSDGsのトレンド

- A) 旅行者の訪問先へのニーズは「地域がよりSustainableであるように!」
 - ・サステイナビリティはコンプライアンス
- B) 日本人旅行者のサステイナビリティへの認識は低い
 - ・世界は70%、日本人だけ見ると36%...
- C) 旅行者の旅の目的 (自分に対するサステイナビリティ)
 - Nomadic Sabbaticals (ノマド長期休暇) / Transformative (自己変革)
 - Extreme Wellness 最高の体的精神的充実
 - Micro Adventure (身近なアドベンチャー) / Solo Adventure (ソロ Ad.)

北海道 網走市

A) 旅行者の訪問先へのニーズは ①地域がよりサステイナブルであるように！ ②コンプライアンス＝サステイナブルであることが条件 ①世界中の旅行者の… 53%が、将来はよりサステイナブルに旅行したい⇒ 53%が、移動・渡航制限が解除後には、旅行先でのゴミの削減を検討する⇒ 69%が、よりサステイナブルな旅行オプションの提供を求めている⇒ 51%が、ピークシーズンを避けるために別の目的地に足を運ぶ⇒ 46%が、旅行業界が魅力的なオフシーズンの旅行パッケージを提供すべきだと回答⇒ 67%が、自身の選択により旅行先の復興をサポートすることを希望している⇒ 55%が、支払った金額がどのように現地コミュニティに還元されているのかを知りたい ②Sustainable Tourismは観光事業をする時の最低条件 「持続可能だからお客が来る」のではなく、 「持続可能ではない所にお客は行けない」 - GDs：100分の15項目でTop100に選ばれるマーケティング 2021/2/1 13	B) 日本人旅行者の認識は低い 約18,000人の旅行者の70%が 「宿がエコに配慮していることを知った場合、 その宿を予約する可能性は高くなる」と回答。 しかし 日本人(約1000人)だけで見ると、36% 52%が「サステイナビリティを高めるために旅行中の行動を変え、可能な限り徒歩や自転車の利用やハイキングを行うようになった」と回答（日本人は34%） 72%が「旅行中は現地の文化を代表するような本格的な体験をしたい」と回答（日本人は47%） 41%は「旅行中によりサステイナブルな行動をとるためのアドバイスは旅行会社から得たい」と回答（日本人は22%） https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000179_0000015916.html 2021/2/1 14
観光のトレンド（参考資料） 旅行の未来に関する9つの予想（Booking.com） 1. 旅への強い欲求の高まり 2. さらなる「価値提供」の重要性の増加 3. 遠方よりも、親しみのあるマイクロツーリズムの需要増加 4. 検索による「理想の旅」を追求 5. 「安全」が大きなポイントに 6. 旅行での「サステイナブル」な意識の高まり 7. 「ワーケーション」需要が増加の傾向に 8. 自然を堪能する「シンプル旅」の魅力が再発見 9. 安心・手軽な旅行体験のためのテクノロジー利用が加速 https://news.booking.com/future-of-travel-lead/ 2021/2/1 15	アドベンチャーツーリズム関連のトレンド（参考資料） National Geographic 2019年9月 1. マイクロアドベンチャー 2. サステイナブルトラベル 3. 自己変革アドベンチャー 4. ソロ アドベンチャー https://www.nationalgeographic.co.uk/travel/2019/08/future-adventure-travel-four-trends-watch-2020 GlobeTrender（2019年11月） Adventure Travel Trends 1. ノマド型/長期休暇型 Nomadic Sabbaticals 2. アクティブな家族 3. 海底探検 4. 宇宙観光 5. マイクロアドベンチャー 6. エクストリームウェルネス 最高の精神的身体的充実 https://globetrender.com/2019/11/22/six-adventure-travel-trends-gaining-traction-in-2020/ 2021/2/1 16
ATWSを契機にサステイナブルツーリズム実現に向けて取り組むべきこと  2021/2/1 北海道 東川町	今・ここにいる・私たちが取り組むべきことは 1. 持続可能な観光商品を作る、売る 認証、信頼の連鎖が見える、透明性 2. 責任ある旅行者を探す、生む（道内・国内マーケットを作る） 一緒に旅をしたい人/来てもらいたい人を探す(GO)、北海道の子供が経験... https://www.mlit.go.jp/kankochu/page04_000131.html  2021/2/1 北海道 釧路市



【206号室①吉川氏 ATガイド実践英会話】

	
2011年	略歴… ▶Adventure South, NZ (2005-2012) ▶JICAボランティア (2012-2015) ▶JICA北海道 (2016-2019)
現在の肩書き… ▶東川町地域おこし協力隊 ▶大雪山自然学校スタッフ ▶Adventure Hokkaido代表	OUTLINE ▶英語は不得意…という方に ▶自己紹介までは英語で挨拶できるようにしておこう ▶それでも通じるか不安ですね

“言語を学ぶって楽しい”



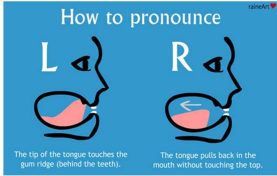
やっぱり英語で話した方がいいですか？

ハイ、、でも
“日本人らしさ”
“北海道らしさ”
も忘れずに

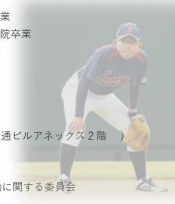


	自己紹介までは英語で挨拶する準備を
英語で話すとき日本語で考えますよね？	日本人向けの日本語だと訳しづらい (通訳・翻訳しづらい＝伝わりづらい例) 私は、東川町の地域おこし協力隊として、アドベンチャートラベルを推進するための活動をしています、吉川彩香です。 昨年、Adventure Hokkaidoというツアーオペレーターを立ち上げ、旅行商品の企画や運営、ガイドを行っています。 今日は大雪山国立公園のなかにある中岳温泉にみなさんをご案内します。一緒にハイキングを楽しみましょう。 よろしくお願いします。
日本人向けの日本語だと伝わりづらい Google翻訳すると… My name is Ayaka Yoshikawa and I am working to promote adventure travel as a regional revitalization team in Higashikawa Town. Last year, we launched a tour operator called Adventure Hokkaido, which plans, manages, and guides travel products. Today, I would like to introduce you to Nakadake Onsen in Daisetsuzan National Park. Let's enjoy hiking together. Thank you.	短く文を刻む。 オーディエンスの気持ちになる。 そして、一番伝えたいことだけ伝える。

気をつけたい発音 L Sound Lの発音練習 I like to learn languages. Lisa loves Larry a lot. That is a long blog about learning. It is a really good deal. The small ball fell in the cool pool. Call the tall girl. Please leave the whole glass of milk on the table. I will list all of the final details in my letter. Please send the last e-mail to my family.	こんな風に話すと伝わりやすい (翻訳ツールを使うとき、通訳を介して話すとき) 私の名前は吉川彩香です。 普段は、北海道の真ん中にある小さな町、東川町というところに住んでいます。 Adventure Hokkaidoというツアーオペレーターを運営していて、今日はみなさんのガイドを担当します。 今日ご案内する中岳温泉は、日本で一番大きい国立公園大雪山のなかにあります。中岳温泉は広い大雪山のなかでも私のお気に入りの場所です。 一緒にハイキングを楽しみましょう。
こんな風に話すと伝わりやすい (翻訳ツールを使うとき、通訳を介して話すとき) 私の名前は吉川彩香です。＜切る＞ 普段は、北海道の真ん中にある小さな町、東川町というところに住んでいます。＜外国人への補足と簡略化＞ Adventure Hokkaidoというツアーオペレーターを運営していて、＜間を置く＞今日はみなさんのガイドを担当します。＜伝えたいことだけ＞ 今日ご案内する中岳温泉は、日本で一番大きい国立公園大雪山のなかにあります。中岳温泉は広い大雪山のなかでも私のお気に入りの場所です。＜Personalizeする、自分のストーリーを加える＞ 一緒にハイキングを楽しみましょう。	ガイド自己紹介：英文例 Hello everyone, こんにちは！ Welcome to Asahikawa, Hokkaido. My name is Ayaka Yoshikawa. Please call me Ayaka. I am your guide today for the hiking to Nakadake Onsen. I grew up here in Hokkaido, and I live nearby. Nakadake Onsen is one of my favourite places in Daisetsuzan National Park. I'm very happy to meet you all and show you around my town. Please enjoy your day, and let me know at any time if you have any question. さあ行きましょう, let's get moving!
それでも通じるか不安ですね。	気をつけたい発音 L Sound Lの発音 ▶"Light L" 母音の前にあるLの発音 Live, Line, Left, Long, Leader, Life, Light ▶"Dark L" 母音の後にあるLの発音 Animal, tunnel, mammal, natural, tail 'Local people'

気をつけたい発音 R & L Sounds RとLの発音  出典 : https://2aih25gk2pi65s8vfa8kzvi-wpengine.netdna-ssl.com/toefl/files/2014/12/tama_img13.png	気をつけたい発音 R & L Sounds RとLの発音 ▶RとLの発音練習 <u>R</u>ook – <u>L</u>ook : Look, there's a <u>r</u>ook (a bird) <u>R</u>ot – <u>L</u>ot : There are a <u>l</u>ot of <u>r</u>otting logs. <u>R</u>ow – <u>L</u>ow : The <u>t</u>rees in a <u>r</u>ow hang <u>l</u>ow. <u>R</u>aw – <u>L</u>aw : Eat fish <u>r</u>aw. That's the <u>l</u>aw. <u>R</u>ock – <u>L</u>ock : Beside the <u>r</u>ock there is a <u>l</u>ock. <u>R</u>ed – <u>L</u>ed : The guide wearing <u>r</u>ed <u>l</u>ed the group.
気をつけたい発音 Word Endings 語尾の発音 ▶Good past tense endings 時制の誤解を防ぐ 例) miss vs missed ▶Correct plurals 単数形 vs 複数形を明確に 例) bear vs bears ▶Distinguishing one word from another 単語の意味が変わる 例) plan vs plant 例) fine vs find ▶発音練習 – white, wise, wide, wine, wipe – cat, cap, can, cam, cab 出典 : https://www.speechactive.com/improving-my-pronunciation-of-sounds-word-endings/	気をつけたい発音 “TH” Sound “TH”の発音 ▶Silent ‘TH’ – <u>Th</u>ick, <u>Th</u>in, <u>Th</u>ink, <u>Th</u>ank, <u>N</u>orth, <u>S</u>outh Clean your <u>mo</u>uth and <u>te</u>eth ▶Voiced ‘TH’ – <u>The</u>, <u>This</u>, <u>That</u>, <u>These</u>, <u>Those</u> My <u>fa</u>ther and <u>mo</u>ther, <u>to</u>get<u>h</u>er with my <u>bro</u>ther. ▶‘TH’ with a ‘ZZ’ German and eastern Europeans who have a lot of ‘zz’ sounds in their own languages might have more difficulty understanding if they hear ‘zz’ in your speech.
SUMMARY 英語は不得意…という方に ▶日本人らしさも忘れずに ▶日本語もATが求める異文化 ▶自信をもってフレンドリーに接したい 自己紹介までは英語で挨拶できるようにしておこう ▶日本語で考え、英語で作文する際に気をつけたいこと ▶日本語で話し、英語で通訳してもらう際に気をつけたいこと それでも通じるか不安ですよね ▶気をつけたい発音、通じやすくなる発音など	吉川 彩香 ayaka@adventure-hokkaido.com 

【206号室②今野氏 ガイド事業の法的視点】

ガイド事業の法的視点 ～事業の展開に向けて、これから準備していくこと～ ユナイテッド・コモンズ法律事務所 (NPOのための弁護士ネットワーク) 弁護士 今野 佑一郎	自己紹介 ▶今野 佑一郎（この ゆういちろう） 1986年生まれ 2009年（平成21年）3月 北海道大学法学部卒業 2011年（平成23年）3月 北海道大学法科大学院卒業 司法試験、司法修習 2012年（平成24年） 弁護士登録 <法律事務所> ユナイテッド・コモンズ法律事務所 (札幌市中央区南1条西10丁目4番 南大通ビルアネックス2階) <所属> NPOのための弁護士ネットワーク 雇用と労働に関する委員会 紛争解決センター運営委員会 労働法学会 
本プログラムの目的 ▶事業展開におけるコンプライアンス（法令遵守） ・事業を展開していくうえで、事業者が備える視点や 注意事項を知る ・対外的な信頼を得るための事業運営を知る ・ツアーなどプログラムの実施についての法的側面を知る	なぜ、法令遵守が求められるのか。 法的責任と社会的責任 (1) 法的責任について ・民事責任・・〇〇円を支払え、〇〇をしてはならない ・刑事責任・・懲役〇年、罰金〇〇万円 (2) 社会的責任について ・風評被害や今後の活動への影響
ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ 特に、イベント実施や旅行会社や関係企業との連携、協賛など → 社会的（対外的）信頼 が基礎になっている。 法的な責任が生じた場合 → 「法を守らない」とのイメージ ① 違反したこと（法的責任が生じたこと）自体が 独り歩きするおそれ ② 主催団体やスタッフへの負担 ③ 失った信頼を取り戻すまでの時間	ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ ■ 予防策の策定、危機管理 * 何かあってからではなく、 「事態を想定して対応すること」 が、信頼を失わないための手段となる。

ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ ■ 危機管理の目的 ① 危機の発生を防ぐ ・ 平時に何ができるか（予防法） ② 危機発生時の被害を最小化する ・ 危機時に何ができるか（対処法） <u>＊いずれも準備すべきもの</u>	ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ ■ 危機の発生を防ぐ → 対外的対応：ガイド利用者との関係、関係企業、機関との関係 (1) ガイド事業者として何をすべきか。 (注意義務があるか。) (2) ガイド事業者として、すべきことをしなかったのか、したのか。 (注意義務違反があるか。) ＊実際の視点 → <u>した</u>といえるか、<u>示すこと</u>ができるか。 → 対内的対応 (1) 従業員、スタッフとの連携 (2) 雇用関係の整備 (3) 事業におけるルール明確化
ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ <法的視点> → 契約上の義務違反、注意義務違反があるか否か。 ＊見可能性と回避可能性：専門家（プロ）としての知見	ガイド事業者の責任 ～法的責任と社会的責任～ ■ ガイド事業者の法的責任 ・ 契約上の義務違反（債務不履行責任） ・ 不法行為責任（使用者責任を含む）
例えば・・・ A社では、ガイド事業において、参加者との間で、プログラムの参加前に同意書への記入をしている。 その同意書には、「当社は、本サービスに関連して生じた損害について、一切の責任を負いません。」と記載されている。	法的視点 ・ 参加者（利用者）との関係 → 消費者契約法 1 事業者の損害賠償責任の全部を免除する規定は無効 (消費者契約法8条1項1号・3号) 2 事業者が故意・重過失がある場合には、責任の一部限定規定も無効 (同法8条1項2号・4号) → <u>軽過失の場合のみ責任を一部制限する</u>という範囲の免責の余地

法的視点

- 1 事業者に**故意・過失**があったといえるか。
 - 2 **軽過失**だったといえるか。
- (1) どのような注意義務があったか（注意すべきこと）
(2) その注意義務を尽くしたか（やることをやったか）
- **損害賠償義務**の有無が判断される

法的視点

- (1) どのような注意義務があったか（注意すべきこと）
→ ア 事業におけるリスクを**想定**できるか
イ **何をすべきか**を考えることができるか
- (2) その注意義務を尽くしたか（やることをやったか）
→ ア やるべきことの**ルール化**ができているか（**マニュアル**）
イ やったことを示すことができるか（**記録化**）

実際の問題

- ・ 免責同意書に記載してもらう意味
- ・ 事業者としての対応

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- ・ 免責同意書への記載だけで免責されない
→ やるべきことをやっているか。
- ・ 適切な運営がなされていること（やるべきことをやっていること）を示すためのルール、記録化

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- 事業の運営整備
= 同意書の作成、規定の作成、**マニュアルの作成**
- **社会的（対外的）信用性の確保**
= **関係企業との提携、共催等**
* 企業側の審査基準、判断指標

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- 今あるものをどう見直すか
- 事業者1人の場合・・・
- スタッフが所属している場合・・・

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- ▶ 何をするか
 - 1 事業実施の行程の書き出し
 - 2 気を付けていることの文字起こし
 - 3 それを事業者のルールブックとしてまとめる
(将来的には、規定、内規、同意書などに整備)

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- ▶ 場合によっては・・・
 - ・ 同種の事業者との協議の機会
 - ・ 隣接する他の事業者との協議
 - ・ 専門会の助言 などの活用

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- ▶ まず実践することの重要性 → 事業運営の丁寧さにつながる
 - ・ 今あるものの活用
 - ・ 規定や書類、契約書など、その意味を知ること
 - ・ 事業において事業者内部の認識共有
 - ・ 利用者との認識共有

事業者が考えておくこと、やるべきこと

- ▶ まず実践することの重要性
 - ・ 今あるものの活用
 - ・ 規定や書類、契約書など、その意味を知ること

実践に向けて

- ▶ 事業見直しについての専門家の助言
 - ・・・協会や役所との協議も有益
- ▶ 助成金や補助金の活用から始める

助成金や補助金の申請について

- ・ 目的の明確化（具体化） * 審査をイメージすること
- ・ 必要書類の確認と準備
- ・ 実践の記録や事業の内部規定などの準備も有益

最後に～ガイド事業の発展に向けて～

- ・ 法律家の考え
- ・ できることの積み上げ
- ・ 相談、協議できる機会の活用

以上